

2025年度
大学院シラバス



横 浜 薬 科 大 学
Yokohama University of Pharmacy

薬科学専攻 博士前期(修士)課程
博士後期課程
薬学専攻 博士課程

薬学研究科

大学院シラバス目次

● 共通事項

1 大学院薬学研究科の目的	1
2 薬科学専攻 博士前期(修士)課程ポリシー	1
3 薬科学専攻 博士後期課程ポリシー	2
4 薬学専攻 博士課程ポリシー	3
5 研究科、専攻等の名称及び学位の名称	4
6 学位の授与	5
7 修士課程の修了要件・単位認定	6
8 博士課程の修了要件・単位認定	7
9 薬学部研究組織と大学院研究組織との関係	8
10 2025年度 授業の時限について	9

● 薬科学専攻 博士前期(修士)課程

2025年度 学事歴(博士前期課程)	10
科目配当表	12
講義計画	13
入学から修了までのスケジュール	14
薬科学専攻博士前期課程の創薬コース履修モデル	15
薬科学専攻博士前期課程の漢方薬学コース履修モデル	16
選択科目	17
授業時間割表(博士前期課程)	19
2025年度 時間割	21
シラバス(授業計画)	
・ケミカルバイオロジー特論	37
・応用薬理学特論	38
・食品衛生薬科学特論	39
・レギュラトリーサイエンス特論	40
・高度研究機器特別演習	41
・モデリング・シミュレーション演習	42
・創薬有機化学特論	43
・分子生物学特論	44
・システム生体機能学特論	45
・薬物動態学特論	46
・薬科学大学院特別講義	47

・漢方薬学特論	48
・漢方・統合医療薬学特論	49
・漢方薬学・生薬学演習	50
・薬科学研究論文	51
・課題研究	56

● 薬科学専攻 博士後期課程

2025年度 学事歴(博士後期課程)	62
科目配当表	65
講義計画	66
入学から修了までのスケジュール	67
薬科学専攻博士課程の履修モデル	68
選択科目	69
授業時間割(博士後期課程)	71
2025年度 時間割	73
シラバス(授業計画)	
・薬科学大学院特別講義	89
・課題研究	90

● 薬学専攻 博士課程

2025年度 学事歴(博士課程)	96
科目配当表	100
講義計画	101
入学から修了までのスケジュール	102
薬科学専攻博士課程の履修モデル	103
選択科目	104
授業時間割(博士課程)	106
2025年度 時間割	108
シラバス(授業計画)	
・分子薬化学特論	124
・医療データサイエンス特論(仮称)	125
・臨床生化学特論	126
・臨床薬理学特論	127
・臨床薬物送達学特論	128
・臨床薬物評価学特論	129
・分子衛生薬学特論	130

・漢方医療薬学特論	131
・統合医療薬学特論	132
・ファーマコメトリクス演習	133
・精密分析機器特別演習	134
・臨床薬学大学院特別講義	135
・課題研究	136

1 大学院薬学研究科の目的および養成する人材像

本学大学院薬学研究科は、建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を教育理念とし、薬学の学術理論及び応用を教授・研究し、その深奥をきわめ、深い学識及び卓越した能力を培い、もって文化の伸展に寄与するとともに人類の福祉に貢献する人材の養成を目的とします。

2 横浜薬科大学大学院 薬科学専攻 博士前期(修士)課程 ポリシー

(1) 修了認定、学位授与の方針(ディプロマポリシー)

薬科学専攻博士前期(修士)課程では、4年制の薬科学科より更に実践的な創薬及び新医療技術の教育・研究の場とするため、ディプロマポリシーとして、以下に記した能力及び態度を有する人材であり、所定の単位を修得した学生に修士(薬科学)の学位を授与します。

- ・創薬学ならびに基礎薬学に関する精深な学識を有し、多様化する精密医療技術の進歩に則した課題に取り組む。

- ・基礎薬学的知識を応用した新医薬品及び新医療技術を開発し評価ができる高度な薬学研究能力を有する。

- ・伝統医療、天然物、更に食品も含め、多くの情報を集積・分析することにより創薬・新医療技術に適用し、経験に基づきながらも斬新な発想ができる。

(2) 教育課程編成の方針について(カリキュラムポリシー)

薬科学専攻博士前期(修士)課程では新医薬品・新医療技術を創出する技能を及び漢方医療の技能を高め現代医療と融合する技能を涵養するために、講義科目に対しそれぞれ創薬コースと漢方薬学コースを設置する。また、講義科目を『健康維持』、『未病の回復』及び『疾患の治療』の3つのカテゴリーに分け、創薬コースでは、『健康維持』及び『疾患の治療』を重点的に、漢方薬学コースでは、『健康維持』及び『未病の回復』を重点的に学修する構成としています。

(3) 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

薬科学専攻博士前期(修士)課程では、上記の人物像を目標とし、課題研究領域として、ヘルスサイエンス、漢方薬学、臨床薬学、創薬化学、ライフサイエンスの5つを設定し、本学の建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を理解し、将来薬科学研究者・技術者として薬学の発展に貢献する情熱を持ち大学院の修士課程の教育を受けるに相応しい能力・適正等を有する者を募集しています。

3 横浜薬科大学大学院 薬科学専攻 博士後期課程 ポリシー

(1) 修了認定、学位授与の方針(ディプロマポリシー)

薬科学専攻博士後期課程では、創薬及び新医療技術の開発における特に探索段階や非臨床段階において、精密医療を支える基礎・探索研究領域で活躍する科学者を育成するため、以下に示す能力及び態度を有する人材であり、かつ所定の単位を修得した学生に博士(薬科学)の学位を授与します。

- ・創薬学及び基礎薬学に関する研究活動を自立して行い、多様化する精密医療技術の進歩に則した新たな課題に挑戦できる。
- ・薬学的知識を応用した新医薬品及び新医療技術を開発し評価ができ、高度な薬学研究能力を有する。
- ・伝統医療及び天然物、更に食品も含め、多くの情報を集積・分析することにより創薬や新医療技術の開発に適用し、経験に基づきながらも斬新な発想ができる。

(2) 教育課程編成の方針について(カリキュラムポリシー)

薬科学専攻博士後期課程では、創薬及び新医療技術の開発における、探索段階及び非臨床の開発段階で活躍できる研究者の育成を目的として、博士前期(修士)課程からの連続した教育編成を計画しています。この際、本学の博士前期(修士)課程を修了した者以外の入学者に対しても、博士後期課程の課題研究の実施にあたり必要な知識や技術の習得を支援するため、博士前期(修士)課程の科目を自由科目として受講できるように配慮しています。

課題研究(15単位)は、継続的な研究体制を維持するため博士前期(修士)課程と同じ5領域を設置し、前期(修士)課程で涵養された研究能力を更に錬磨し、薬科学科学者の養成が出来る教育編成とするとともに、各課題研究領域はコースワークにより、中間的な領域や発展的な領域にも対応できる体制としています。

(3) 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

薬科学専攻博士後期課程では、本学の建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を理解し、最新医療及び伝統医療を研究し、将来薬学の科学者として、薬学の発展に貢献しようという情熱を持ち大学院の博士課程の教育を受けるに相応しい能力・適正等を有する者を募集しています。

4 横浜薬科大学大学院 薬学専攻 博士課程 ポリシー

(1) 修了認定、学位授与の方針(ディプロマポリシー)

薬学専攻博士課程では、ディプロマポリシーとして以下に記載した能力及び資質を有する人材であり、所定の単位を修得した学生に博士(薬学)の学位を授与します。

- ・医療薬学及び基礎薬学に関する研究活動を自立して行い、多様化する精密医療における新たな課題に取り組む。
- ・高齢化や少子化を背景とした地域医療における安全管理に基づく諸問題を解決できる多角的かつ高度な医療薬学研究能力を有する。
- ・個々の患者に施す最適な医療とその薬物療法及びかかりつけ薬剤師を基軸とした地域医療に関する基礎的・医療薬学的研究を推進できる。

(2) 教育課程編成の方針について(カリキュラムポリシー)

薬学専攻博士課程は、健康維持、未病からの回復及び疾患の治療のそれぞれを期待する者に対して、個の医療を施すために、薬の専門家として先導的役割が果たせるとともに、自ら得た経験をデータ化し、新たな副作用や医療技術の発見に繋げられる能力を養成する教育課程としています。そのために、課題研究(20単位)に対応する研究領域を5領域設置しました。すなわち、健康維持、未病からの回復及び疾患の治療のそれぞれに対して、ヘルスサイエンス領域、漢方薬学領域及び臨床薬領域の3つの領域と、これらの基盤となる創薬化学領域及びライフサイエンス領域です。

これらの研究領域はコースワークにより、中間的な領域や発展的な領域にも対応できる体制としています。具体的には、漢方診断を現代医療の診断指標に読み替える研究では、ライフサイエンスと臨床薬学領域が連携し、漢方薬の機序の解明では、薬物相互作用の解析や薬効解析を創薬化学領域、ライフサイエンス領域及び臨床薬学領域が連携して行う予定です。

(3) 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

薬学専攻博士課程では、上記の人物像を目標とし、課題研究領域として、ヘルスサイエンス、漢方薬学、臨床薬学、創薬化学、ライフサイエンスの5つを設定し、薬学の科学者としての能力を身に着けるため、本学の大学院では、本学の建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を理解し、最新医療及び伝統医療を研究し、将来薬学の科学者として、薬学の発展に貢献しようという情熱を持ち大学院の博士課程の教育を受けるに相応しい能力・適正等を有する者を募集しています。

5 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

本学が設置予定である専攻の名称及び学位の名称は下記のとおりである。

(1) 研究科名の名称

薬学研究科

[Graduate School of Pharmaceutical Sciences]

(2) 修士課程

ア 修士課程の名称

薬科学専攻博士前期(修士)課程

[Master's Course of Science in Pharmaceutical Sciences]

イ 博士前期(修士)課程の学位の名称

修士(薬科学)

[Master of Science in Pharmaceutical Sciences]

(2) 博士課程

ア 博士課程の名称

(ア) 薬科学専攻博士後期課程

[Doctoral Course of Sciences in Pharmaceutical Sciences]

(イ) 薬学専攻博士課程

[Doctoral Course in Pharmaceutical Sciences]

イ 博士課程の学位の名称

(ア) 薬科学専攻博士後期課程

博士(薬科学)

[Doctor of Philosophy in Pharmaceutical Sciences]

(イ) 薬学専攻博士課程

博士(薬学)

[Doctor of Philosophy in Pharmaceutical Sciences]

6 学位の授与

本大学院において、修士課程修了の認定を受けた者に対しては修士(薬科学)を、また、博士課程修了の認定を受けた者に対しては博士(薬科学)または博士(薬学)の学位を授与する。

7 博士前期(修士)課程の修了要件・単位認定

(1) 修了要件

博士前期(修士)課程の修了要件は、本大学院に2年以上在学し、認定を受けるために必要な修得単位として、必修科目として課題研究(16単位)を含む20単位及び創薬コース又は漢方コースの科目を5単位以上、共通選択科目から5単位以上、合計30単位以上修得することが必要です。

創薬コース及び漢方薬学コースの講義科目は、課題研究に支障のない範囲で、担当指導教員と相談の上、コースを超えて講義科目を受講することも可能です。

付与される単位は、特論と演習については90分、8コマを1単位、15コマを2単位としています。課題研究(16単位)については、1週間の実験・研究を年間40週実施するとし、1週間2コマを基準として年あたり10単位相当を修得することになります。修了要件としては、これらの科目の単位の修得に加え、必要な研究指導を受け、学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。

(2) 論文審査

ア 大学院研究科委員会の中から主査1名及び副査1名以上の論文審査委員を選出され、博士学位論文の論文審査を実施します。主査及び副査は、研究科委員会の意見を聴いて学長が決定し、論文審査委員長には主査が選任されます。

イ 論文審査委員長は論文審査の合格者に対して最終試験の申請を指示します

(3) 最終試験

ア 最終試験は、学位論文の審査委員を含め、全ての教員、大学院生などの前で公開による研究発表を行うとともに口頭試問を行います。

イ 論文審査及び最終試験の結果は、主査から研究科委員会に報告され、研究科委員会の審議により合否が判定されます。

ウ ただし、優れた業績を上げた者については、上記に関わらず修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする事が可能です。

(4) 単位認定

本大学院の授業科目を履修し、当該科目の試験に合格した者には、所定の単位を与えられます。履修した授業科目の試験は、通常レポートの提出により評価し学期末または学年末に行います。成績の評価は、優・良・可及び不可とし、優・良・可を合格、不可を不合格とする。不合格となった科目については、再試験を行うことがあります。

8 博士後期課程及び博士課程の修了要件・単位認定

(1) 修了要件

ア 博士後期課程

博士後期課程の修了要件は、本大学院に3年以上在学し、認定を受けるために必要な修得単位として、必修科目である課題研究(15単位)を含む16単位を修得することが必要です。ただし、自由科目の単位については、修了に必要な単位としては加算されません。

付与される単位は、薬科学大学院特別講義(1単位)については90分、8コマを1単位とし、課題研究(15単位)については、1週間の実験・研究を年間40週実施するとして、1週間で2コマを基準として年あたり10単位分に相当を修得することになります。

修了要件としては、これらの科目の単位の修得に加え、必要な研究指導を受け、学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。

イ 博士課程

博士課程の修了要件は、本大学院に4年以上在学し、認定を受けるために必要な修得単位として、必修科目である課題研究(20単位)を含む21単位及び選択科目から9単位以上、合計30単位以上修得することが必要です。

付与される単位は、特論と演習については90分、8コマを1単位、15コマを2単位としています。課題研究(20単位)については、1週間の実験・研究を年間40週実施するとして、1週間2コマを基準として年あたり10単位相当を修得することになります。

修了要件としては、これらの科目の単位の修得に加え、必要な研究指導を受け学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。

(2) 論文審査

ア 大学院研究科委員会の中から主査1名及び副査2名以上の論文審査委員を選出され、博士学位論文の論文審査を実施します。主査及び副査は、研究科委員会の意見を聴いて学長が決定し、論文審査委員長には主査が選任されます。

イ 論文審査委員長は論文審査の合格者に対して最終試験の申請を指示します。

(3) 最終試験

ア 最終試験は、学位論文の審査委員を含め、全ての教員、大学院生などの前で公開による研究発表を行うとともに口頭試問を行います。

イ 論文審査及び最終試験の結果は、主査から研究科委員会に報告され、研究科委員会の審議により合否が判定されます。

ウ ただし、優れた業績を上げた者については、上記に関わらず博士課程に3年以上在学すれば足りるものとすることが可能です。

(4) 単位認定

本大学院の授業科目を履修し、当該科目の試験に合格した者には、所定の単位を与えられます。

履修した授業科目の試験は、通常レポートの提出により評価し学期末または学年末に行います。成績の評価は、優・良・可及び不可とし、優・良・可を合格、不可を不合格とする。不合格となった科目については、再試験を行うことがあります。

薬学部研究組織と大学院研究組織との関係

薬学部				大学院(博士前期・後期課程、博士課程)		
学科		研究室		研究領域	研究室	
6 年 制	健康 薬学科	生化学	生体防御学	ヘルス サイエ ンス領 域	環境科学	感染予防学
		分子生物学	食化学		薬物解析学	公衆衛生
		環境科学	感染予防学		放射線科学	
		薬物解析学	公衆衛生		食化学	
6 年 制	漢方 薬学科	薬品反応学	薬用資源学	漢方薬学 領域	漢方天然物化学	漢方薬物学
		薬品分析学	生薬学		薬用資源学	漢方治療学
		漢方天然物化学	漢方薬物学			
		医薬品化学	漢方治療学			
6 年 制	臨床 薬学科	薬物動態学	機能形態学	臨床薬学 領域	薬物動態学	薬剤学
		薬物治療学	病態生理学		薬物治療学	レギュラトリー
		臨床薬理学	薬理学		臨床薬理学	サイエンス
		臨床薬剤学	薬剤学		臨床薬剤学	
4 年 制	薬科 学科	創薬化学	機能性物質学	創薬化学 領域	創薬化学	薬品分析学
		天然物有機化学	(食化学併設)		天然物有機化学	医薬品化学
		臨床解析学(臨 床薬理学併設)			薬品反応学	
		薬物動態学(6年 制に併設)				
4 年 制	ライフ サイエ ンス領 域	薬理学	機能形態学	ライフサ イエ ン ス 領 域	薬理学	機能形態学
		生化学	病態生理学		生化学	病態生理学
		分子生物学			分子生物学	
センター 組織等		実務実習 センター 薬学教育 センター				

10 2025年度 授業の時限について

授業の時限については下表のとおりとなっております。

時限	時 間 帯
I	09:00 ~ 10:30
II	10:45 ~ 12:15
III	(昼休憩) 12:15 ~ 13:15
IV	13:15 ~ 14:45
V	14:45 ~ 16:30
VI	16:45 ~ 18:15

※ 授業時間等は、一部学部とずれているため、授業開始(修了)のチャイムは鳴りませんので、自分で確認するとともに、担任教員の指示に従って下さい。

博士前期(修士)課程

令和7(2025)年度 学 事 暦 博士前期課程1年次

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
4月			1	入学式 2 オリエンテーション	3	4	5	10月				1	2	3	① 4 一、二(pm.)
	6	7 ①	8 ①	9 ①	10	11 ①	12 ① 一(pm.)		5	6 ①	7	8	9	10	② 11 三、四(pm.)
	13	14 ②	15 ②	16 ②	17	18 ②	19 ② 二(pm.)		12	13	14	15	16	17	③ 18 五、六(pm.)
	20	21 ③	22 ③	23 ③	24	25 ③	26 ③ 三(pm.)		19	創立者記念日 20	21	22	23	24	④ 25 七、八(pm.)
	27	28 ④	29	30 ④	1	2 ④	3		26	27 ②	28	29	30	31	⑤ 1 九、十(pm.)
5月	4	5	6	7 ⑤	8	9 ⑤	10 ④ 四(pm.)	11月	2	3	4	5	6	7	⑥ 8 特別講義⑦⑧
	11	12 ⑤	13 ④	14 ⑥	15	16 ⑥	17 ⑤ 五(pm.)		9	10 ③	11	12	13	14	⑦ 15 十一、十二(pm.)
	18	19 ⑥	20 ⑤	21 ⑦	22	23 ⑦	24 ⑥ 特別講義①②		16	17 ④	18	19	20	21	⑧ 22 十三、十四(pm.)
	25	26 ⑦	27 ⑥	28 ⑧	29	30 ⑧	31 ⑦ 六(pm.)		23	24	25	26	27	28	⑨ 29 十五(pm.)
6月	1	2 ⑧	3 ⑦	4 ⑨	5	6 ⑨	7 ⑧ 七(pm.)	12月	30	1 ⑤	2	3	4	5	⑩ 6 補講
	8	9 ⑨	10 ⑧	11 ⑩	12	13 ⑩	14 ⑨ 八(pm.)		7	8 ⑥	9	10	11	12	⑪ 13 補講
	15	16 ⑩	17 ⑨	18 ⑪	19	20 ⑪	21 ⑩ 補講		14	15 ⑦	16	17	18	19	⑫ 20 補講
	22	23 ⑪	24 ⑩	25 ⑫	26	27 ⑫	28 ⑪ 補講		21	22 ⑧	23	24	25	26	⑬ 27 補講
	29	30 ⑫	1 補講	2 ⑬	3	4 ⑬	5 ⑫ 補講		28	29	30	31	1	2	3
7月	6	7 ⑬	8	9 ⑭	10	11 ⑭	12 ⑬ 健診pm	1月	4	5 ⑨	6	7	8	9	⑭ 10 特別講義⑨⑩
	13	14 ⑭	15 補講	16 ⑮	17	18 ⑮	19 ⑭ 補講		11	12	13	14	15	16	⑮ 17 補講
	20	21	22 補講	23 補講	24	25 補講	26 ⑮ 特別講義③④		18	19 ⑩	20	21	22	23	補講 24 補講
	27	28 ⑮	29 補講	30 補講	31	1 補講	2 補講		25	26 ⑪	27	28	29	30	補講 31 補講
8月	3	4 補講	5 補講	6 補講	7	8 補講	9 補講	2月	1	2 ⑫	3	4	5	6	補講 7 補講
	10	11	夏季休暇 12	13	14	15	16		8	9 ⑬	10	11	12	13	補講 14 補講
	17	18 補講	19 補講	20 補講	21	22 補講	23 補講		15	16 ⑭	17	18	19	20	補講 21 補講
	24	25 補講	26 補講	27 補講	28	29 補講	30 補講		22	23	24	25	26	27	補講 28 補講
	31	1 補講	2 補講	3 補講	4	5 補講	6 ⑮ 特別講義⑤⑥		1	2 ⑮	3	4	5	6	補講 7 補講
9月	7	8 補講	9 補講	10 補講	11	12 補講	13 補講	3月	8	9 補講	10	11	12	13	補講 14 補講
	14	15	16 補講	17 補講	18	19 補講	20 補講		15	16 補講	17	18	19	20	補講 21 補講
	21	22 補講	23	24 補講	25	26 補講	27 補講		22	23 補講	24	25	26	27	補講 28 補講
	28	29 補講	30 補講						29	30 補講	31				

令和7(2025)年度 学 事 暦 博士前期課程2年次

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
4月			1	入学式 2 オリエンテーション	3	4	5	10月				1	2	3	4
	6	7 ①	8	9	10	11 ①	12 ①		5	6 ①	7	8	9	10	11 漢方演習⑤⑥
	13	14 ②	15	16	17	18 ②	19 ②		12	13	14	15	16	17	18 一、二(pm.)
	20	21 ③	22	23	24	25 ③	26 ③		19	創立者記念日 20	21	22	23	24	25 三、四(pm.)
	27	28 ④	29	30	1	2 ④	3 ④		26	27 ②	28	29	30	31	1 漢方演習⑦⑧
5月	4	5	6	7	8	9 ⑤	10 ④	11月	2	3	4	5	6	7	8 五、六(pm.)
	11	12 ⑤	13	14	15	16 ⑥	17 ⑤		9	10 ③	11	12	13	14	15 七、八(pm.)
	18	19 ⑥	20	21	22	23 ⑦	24 ⑥		16	17 ④	18	19	20	21	22 九、十(pm.)
	25	26 ⑦	27	28	29	30 ⑧	31 ⑦		23	24	25	26	27	28	29 漢方演習⑨⑩
							漢方演習①②		30	1 ⑤	進捗報告会				
6月	1	2 ⑧	3	4	5	6 ⑨	7 ⑧	12月	7	8 ⑥	9	10	11	12	13 十三、十四(pm.)
	8	9 ⑨	10	11	12	13 ⑩	14 ⑨		14	15 ⑦	16	17	18	19	20 十五(pm.)
	15	16 ⑩	17	18	19	20 ⑪	21 ⑩		21	22 ⑧	23	24	25	26	27 補講
	22	23 ⑪	24	25	26	27 ⑫	28 ⑪		28	29	30	31	1	2	3
	29	30 ⑫	1	2	3	4 ⑬	5 ⑫								
7月	6	7 ⑬	8	9	10	11 ⑭	12 ⑬	1月	4	5 ⑨	6	7	8	9	10 補講
	13	14 ⑭	15	16	17	18 ⑮	19 ⑭		11	12	13	14	15	16	17 補講
	20	21	22	23	24	25 補講	26 ⑮		18	19 ⑩	20	21	22	23	24 補講
	27	28 ⑮	29	30	31	1 補講	2 補講		25	26 ⑪	27	28	29	30	31 補講
8月	3	4 補講	5	6	7	8 補講	9 補講	2月	1	2 ⑫	3	4	5	6	7 補講
	10	11	夏季休暇 12	13	14	15	16		8	9 ⑬	10	11	12	13	14 補講
	17	18 補講	19	20	21	22 補講	23 補講		15	16 ⑭	17	18	19	20	21 補講
	24	25 補講	26	27	28	29 補講	30 補講		22	23	24	25	26	27	28 補講
	31	1 補講	2	3	4	5 補講	6 補講	3月	1	2 ⑮	3	4	5	6	7 補講
9月	7	8 補講	9	10	11	12 補講	13 補講		8	9 補講	10	11	12	13	14 補講
	14	15	16	17	18	19 補講	20 補講		15	16 補講	17	18	19	20	21 補講
	21	22 補講	23	24	25	26 補講	27 補講		22	23 補講	24	25	26	27	28 補講
	28	29 補講	30						29	30 補講	31				

科目配当表(2025年度) 博士前期課程

		2 年次 2 0 2 4 年度入学		1 年次 2 0 2 5 年度入学	
		前期	後期	前期	後期
共通選択	隔年開講	ケミカルバイオロジー特	食品衛生薬科学特論	ケミカルバイオロジー特論	食品衛生薬科学特論
	毎年開講			高度研究機器特別演習	
				モデリング・シミュレーション演習	
創薬コース	隔年開講	システム生体機能学特論		システム生体機能学特論	
	毎年開講			創薬有機化学特論	分子生物学特論
				薬科学大学院特別講義	薬科学大学院特別講義
漢方コース	毎年開講	漢方薬学・生薬学演習	漢方薬学・生薬学演習	漢方薬学特論	漢方・統合医療薬学特論
必修		薬科学研究論文	薬科学研究論文	薬科学研究論文	薬科学研究論文
		課題研究	課題研究	課題研究	課題研究

講 義 計 画 【薬科学専攻 博士前期課程】

2025年度入学（1年次） 2024年度入学（2年次）				2025年度入学（2年次）					
科 目 名	単位	前	後	担 当 者	科 目 名	単位	前	後	担 当 者
（共通選択科目）					（共通選択科目）				
ケミカルバイオロジー特論	2	●		庄司 満、鰐淵 清史、 他（部外）	応用薬理学特論	2	●		田邊 由幸、小笹 徹、 千葉 康司、曾根 秀子、 松岡 秀忠、吉門 崇、 飯田 理文、藤田 融、 他（部外）
食品衛生薬科学特論	2	●		埴岡 伸光、 曾根 秀子、 河村 伊久雄、香川 聡子、 三浦 伸彦、 越智 定幸、 速水 耕介、 大河原 晋、 磯部 隆史、 高橋 栄造、 長嶋 大地	レギュラトリーサイエンス特論	2	●		小出 彰宏、千葉 康司、 速水 耕介、山田 博幸
高度研究機器特別演習	1	●		岩瀬由未子、岡美佳子、川嶋 剛、 磯部隆史、吉門 崇、鰐淵清史、 川嶋芳枝、殿岡恵子、奥野義規					
モデリング・シミュレーション演習	1	●		千葉康司、岡田賢二、飯田理文、 友田有加菜					
（創薬コース科目）					（創薬コース科目）				
創薬有機化学特論	2	■		庄司 満、 塚本 裕一、 鰐淵 清史、横江 弘雅	薬物動態学特論	2	■		岩瀬 由未子、千葉 康司、 飯田 理文、吉門 崇、 矢野 健太郎、
分子生物学特論	2	■		川嶋 剛、岡 美佳子、 小笹 徹、川嶋 芳枝、 松岡 秀忠、高橋 哲史、 藤田 融					
システム生体機能学特論	2	■		岡美 佳子、小笹 徹、 田邊 由幸、川嶋 剛、 川嶋 芳枝、高橋 哲史、 松岡 秀忠、西崎 有利子、 浅井 将、住野 彰英					
薬科学大学院特別講義	1	■	■	領域責任者					
（漢方コース科目）					（漢方コース科目）				
漢方薬学特論	2	◆		喻 静、金 成俊、梅原 薫、 李 宜融、榊原 巖、飯塚 徹、 五十鈴川 和人、稲垣 善則	漢方薬学・生薬学臨床演習	1	◆	◆	喻 静、金 成俊、李 宜融、 伊藤亜希、梅原 薫
漢方・統合医療薬学特論	2	◆		榊原 巖、五十鈴川和人、他（部 外）					
漢方薬学・生薬学臨床演習 ※2024年度入学生対象	1	◆	◆	喻 静、金 成俊、李 宜融、 伊藤亜希、梅原 薫					
（必修科目）					（必修科目）				
薬科学研究論文	2	○	○	研究指導教員	薬科学研究論文	2	○	○	研究指導教員
課題研究	8	○	○	研究指導教員	課題研究	8	○	○	研究指導教員

●：共通選択科目 ■：創薬コース選択科目 ◆：漢方コース選択科目 ○：必修科目

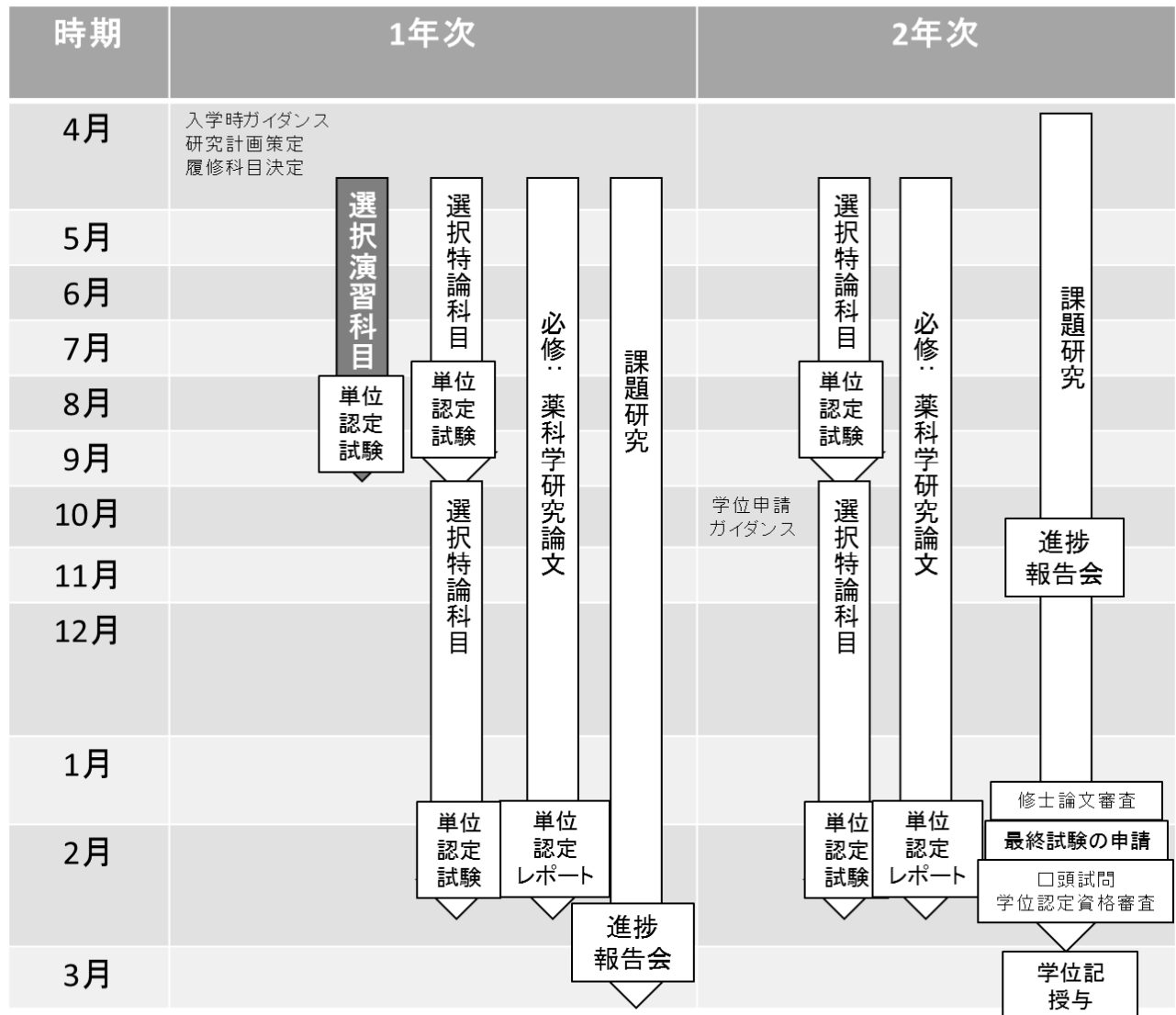
隔年開講

卒業要件及び履修方法

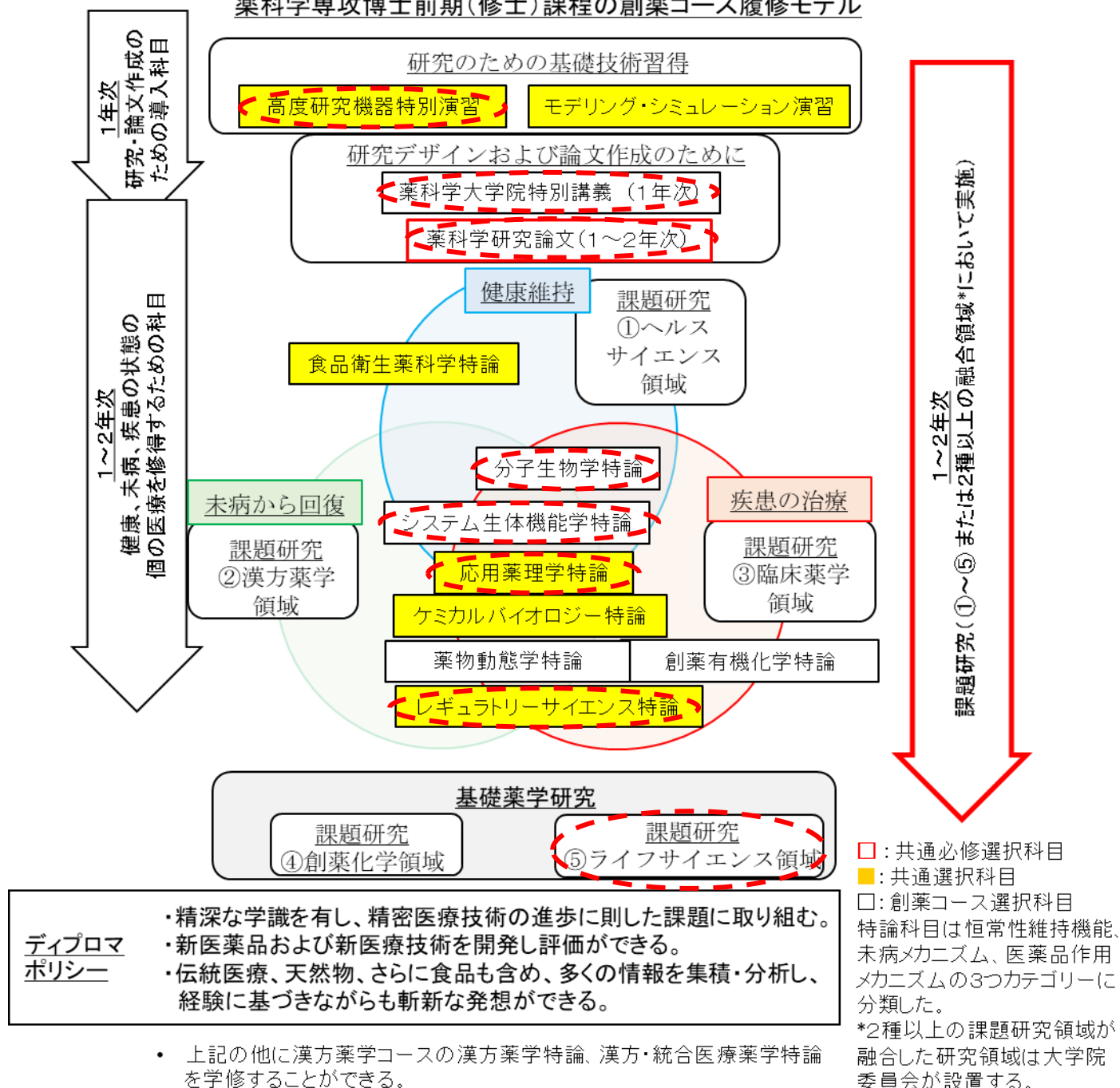
大学院に2年以上在学し、共通必修科目20単位に加え、創薬コース5単位以上、または漢方薬学コース5単位を修得し、さらに共通選択項目から5単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。

入学から修了までのスケジュール

大学院薬学研究科博士前期(修士)課程

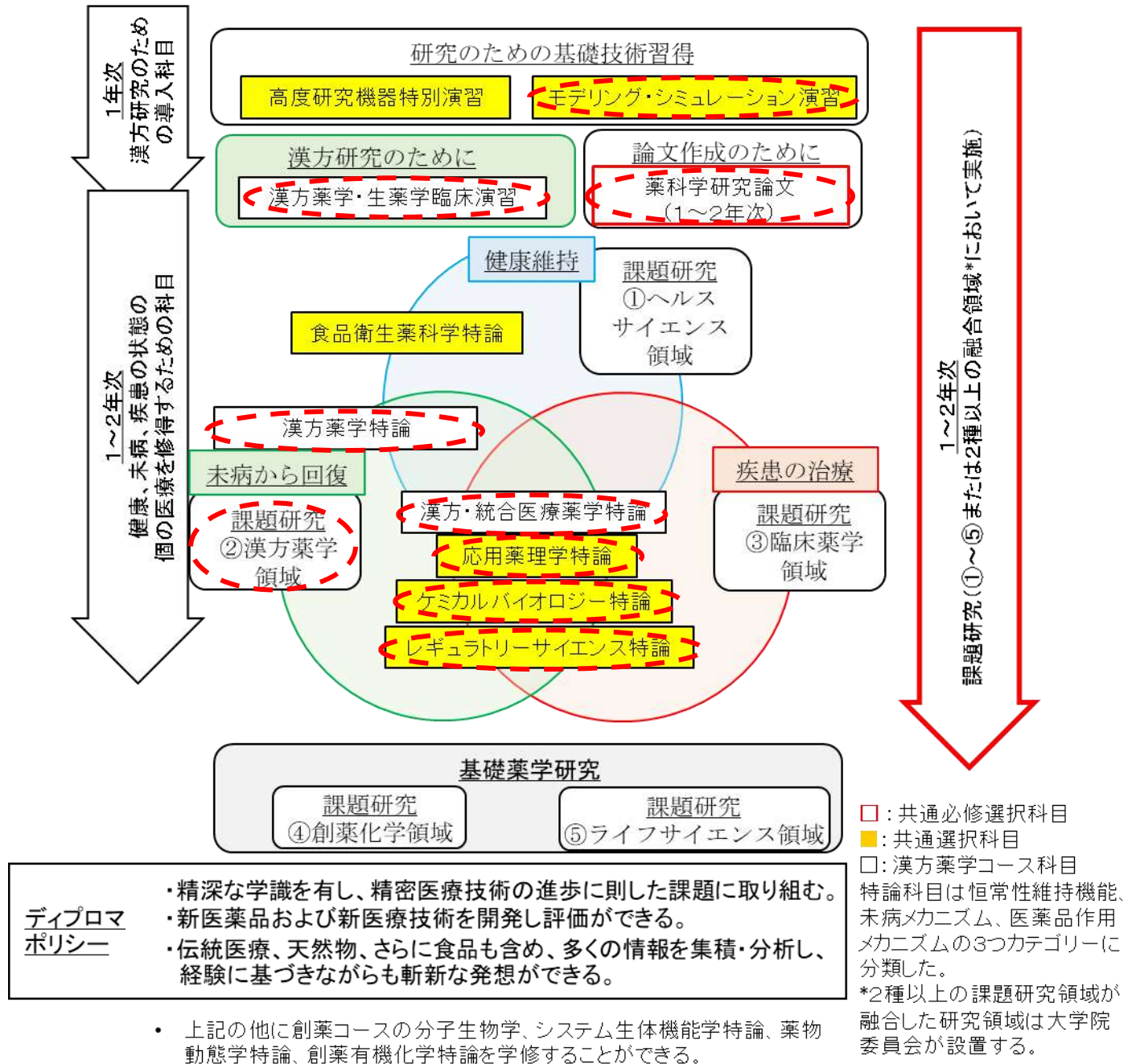


薬科学専攻博士前期(修士)課程の創薬コース履修モデル



： ライフサイエンス領域の創薬研究者を目指した例
必修科目 20 単位および創薬コース選択 5 単位および共通選択科目 5 単位
を選択した。

薬科学専攻博士前期(修士)課程の漢方薬学コース履修モデル



○ : 漢方薬学分野の統合医療の研究者を目指した例
必修科目 20 単位および漢方薬学コース選択 5 単位および共通選択科目 5 単位を選択した。

選 択 科 目

(薬学研究科薬科学専攻博士前期(修士)課程)

科目区分	授業科目の名称	開設時期	科目責任者	講義等の内容	備考
共通選択科目	ケミカルバイオロジー特論	2025年度前期	庄司	化学と生命科学を融合させるケミカルバイオロジーは、有機化合物を基礎として生命科学研究を行う、有用化合物開発に直結する研究領域である。生物活性分子のケミカルバイオロジーについて、分子標的の基礎から同定に至るまでの幅広い知識と実例について学ぶ。	隔年科目
	応用薬理学特論	2026年度前期	田邊	肥満、高血圧、高血糖、脂質異常症など多重危険因子の集積状態、即ち『メタボリックシンドローム』という概念が導入され、かつては生活習慣病と呼ばれた疾患の分子・細胞機構が次々に明らかになりつつある。その範囲は、循環系や代謝・内分泌系のみならず、消化器系、神経系、免疫系にまで広がり、今後多数の新薬が期待される一方で、様々な有害事象の可能性をも考慮する必要がある。既存薬及び新薬の特徴について、治療標的となる血管や脂肪細胞などの機能や細胞内情報伝達機構や細胞・組織間ネットワークへの影響について、さらには臨床薬理学とも連結し医薬品および生理活性物質の標的タンパク質近傍までの輸送および結合特性と用量作用関係、薬効評価における有効性・安全性について詳細に学ぶ。	隔年科目
	食品衛生薬科学特論	2025年度後期	速水	現在の我が国は、少子高齢化が加速しており、国民の誰もが加齢とともに、食事などの生活習慣が要因となる種々の「未病」や「生活習慣病」に侵される健康不安を抱えている。社会では、食から健康の維持増進を図る気運が高まり、さらに、サプリメント、栄養機能食品および特定保健用食品などの健康食品が我々の生活環境の中に浸透してきた。食品の「機能性」の前提には、「有益性」および「安全性」が担保されていなければならない。本特論では、食品の機能をミクロおよびマクロの両面ならびに有益性および安全性を化学、分子生物学および薬物動態学などの学問を基盤として包括的に解析する能力を習得することを目的とし、(1)食品と医薬品の相互作用食品、(2)最新の機器分析、および(3)データ解析技術などについて講述するとともに討論して知見を深める。	隔年科目
	レギュラトリサイエンス特論	2026年度後期	小出	創薬の最終段階の目標は、患者における疾患の治療である。特にヒトを対象とする臨床段階およびその準備のためのデータ収集では、行政による規制が必須である。また、創薬のグローバル化を支えているのは、規制であるといっても過言ではない。本特論では、創薬の各段階、すなわち探索、非臨床、臨床、承認および製造販売後における、規制および企業と行政の連携を事例と照らしながら学ぶ。	隔年科目
	高度研究機器特別演習	2025年度前期	岩瀬	最新の研究機器を用いて、生物系及び分析系の研究の基礎となる主義を学び、機器の使い方を習得することで、創薬の基礎となる基本的な実験手法、手順を学ぶ。	
	モデリング・シミュレーション演習	2025年度前期	千葉	医薬品の創製には莫大なコストと長い年月が必要である。しかし、その成功確率は極めて低い。この状況を改善すべく行政と企業は連携し、薬効および安全性の予測技術を高める政策を講じている。本演習では、製薬企業が探索段階の薬効および薬物動態予測に用いているソフトウェアを使用し、また、臨床段階の患者集団における薬効・安全性予測に用いる手法を、コンピューターを実際に使いながら演習形式で学ぶ。	
	創薬有機化学特論	2025年度前期	庄司	医薬品創製の基盤である「有用化合物の探索・合成」について、基礎から専門的内容までの幅広い知識を修得する。代表的な医薬品や最新の研究成果から、創薬における化合物デザイン、標的化合物の合成手法・選択的合成法などについて学ぶ。	
主科目	分子生物学特論	2025年度後期	川嶋(剛)	分子生物学の基礎的知識に基づき、タンパク質の構造と機能、遺伝子の発現調節機構などに関する研究を理解し、複雑な生命現象を分子レベルで解説することで医薬品創製の基礎となる生命活動を分子的な側面からの理解を深め、基礎的知識、研究方法、最新の研究成果について学ぶ。	
	システム生体機能学特論	2025年度前期	岡(美)	多くの生き物は細胞を分化させ細胞の役割を特化させることで役割を分担し、また協調することで生命活動を行なっている。多様な生物の生存戦略を知り、細胞、器官、組織の機能と形態を学び、さらに正常な生命活動のどこかが崩れたことによる疾病についても学ぶ。細胞生物学、機能形態学、薬理学、病態生理学などの幅広い知識を融合的に習得し研究に不可欠な問題発見能力と解決能力を身につけ、医薬品創製の基礎となる開発研究過程やその基本的考え方について理解するために、医薬品開発で重要な、細胞生物学、機能形態学、薬理学、病態生理学などの幅広い知識を融合的に習得し、さらに最新の研究成果について学ぶ。	隔年科目

科目区分	授業科目の名称	開設時期	科目責任者	講義等の内容	備考
主 科 目	創薬コース				
	薬物動態学特論	2026年度前期	岩瀬	オムニバス方式の講義により薬物動態学、臨床薬物動態学および臨床薬理分野における最新の知識および情報を習得する。また、薬効および毒性の発現に動物種差・系統差、民族差および個体差が生ずる原因についての情報を薬物速度論的に解析、把握し、個別化医療を実際に行うための方法論を提案できる基礎的能力を育てる。	隔年科目
	薬科学大学院特別講義	2025年度通年	領域責任者	外部からの招聘講師による「特別セミナー」において、各研究領域の第一線の研究に関する講演を他の専攻とともに聴講し、積極的な質疑を行う。その後、「①新規性は何か、②創薬の探索段階(化合物スクリーニングや分子設計など)で重視された点は何か、③医薬品開発の非臨床段階での重要な点は何か、④橋渡し研究の内容と成果は何か、⑤社会へのインパクトはどのようなものか」について薬科学専攻でグループ討論を行う。これらを通じて、各自および周囲の研究テーマへの理解を深めるとともに、基礎科学技術の集約である医薬品そのものから生体の統合システムまで、創薬・医薬品開発に貢献するための幅広い分野の知識の充実を図る。	
	漢方薬学特論	2025年度前期	喻	漢方の専門教育・研究を充実する一方で、薬学全体を俯瞰できる総合的な講義内容とした。漢方専門分野の中から複数の異なる視点から方法論を見出し、統合的視野、柔軟な探求精神、総合的判断力を備え、これからの学問的および社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。本講義は、漢方の基礎理論や代表的な漢方処方を中心に講義する。漢方製剤に関する現代科学的なエビデンスも徐々に蓄積され、新たな有効性も見出されている。本特論では、それら最新の情報を紹介するとともに漢方研究の手法も併せて講義する。講義の構成は、座学のみではなく、e-ラーニングを使用した反転授業を取り入れ、双方向の参加型講義形式を採る。	
	漢方・統合医療薬学特論	2025年度後期	喻	漢方・統合医療薬学特論は漢方の専門教育・研究を充実する一方で、薬学全体を俯瞰できる総合的な講義内容とした。漢方専門分野の中から複数の異なる視点から方法論を見出し、統合的視野、柔軟な探求精神、総合的判断力を備え、これからの学問的および社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。本講義は、21世紀の高齢社会において、漢方治療は現代医療と相互補完の形で応用され、漢方製剤の需要はますます高まっていく。本特論では、漢方薬学の応用面を重視し、オムニバス形式で、広範囲にまたがる専門知識と、現代医療における漢方の役割についても講義する。講義の構成は、座学のみではなく、e-ラーニングを使用した反転授業を取り入れ、双方向の参加型講義形式を採る。	
	漢方薬学・生薬学臨床演習	2025年度通年	喻	漢方・統合医療薬学特論は漢方の専門教育・研究を充実する一方で、薬学全体を俯瞰できる総合的な講義内容とした。漢方専門分野の中から複数の異なる視点から方法論を見出し、統合的視野、柔軟な探求精神、総合的判断力を備え、これからの学問的および社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。本講義は、21世紀の高齢社会において、漢方治療は現代医療と相互補完の形で応用され、漢方製剤の需要はますます高まっていく。本演習では、漢方調剤の実習を通じ、漢方調剤の手技の修得、漢方医療の現状視察など、広範囲にまたがる漢方調剤に関する専門知識と手技の修得を目指す。	2024入学生対象 (2年次履修科目)

授 業 時 間 割 表 (博士前期課程)

1 年次 (2025 年入学対応) 前期

	I 9:00-10:30		II 10:45-12:15		IV 13:15-14:45		V 15:00-16:30		VI 16:45-18:15	
曜日	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者
月	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	薬科学研究論文	指導教員
火									高度研究機器 特別演習	岩瀬、他
水									創薬有機化学特論	庄司、他
木									ケミカルバイオロ ジー特論	庄司、他
金										
土	システム生体機 能学特論	岡、他	漢方薬学特論	喩、他	MD リング・シミュレーション 演習	千葉、他				
					☆ 薬科学大学院 特別講義	領域責任者	☆ 薬科学大学院 特別講義 SGD	領域責任者		

■ 創薬コース
 ■ 漢方薬学コー
 ☆:6、7、9月に開講(2コマ×3回)

注：課題研究の時間枠は、課題研究の指導を受ける時間です。研究課題によって別の時間帯になり、また時間数も異なります。研究指導教員に確認してください。

1 年次 (2025 年入学対応) 後期

	I 9:00-10:30		II 10:45-12:15		IV 13:15-14:45		V 15:00-16:30		VI 16:45-18:15	
曜日	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者
月	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	薬科学研究論文	指導教員
火										
水										
木										
金										
土	分子生物学特論	川嶋、他	漢方・統合医療 薬学特論	喩、他	食品衛生薬科学特論	速水、他				
					☆ 薬科学大学院 特別講義	領域責任者	☆ 薬科学大学院 特別講義 SGD	領域責任者		

■ 創薬コース
 ■ 漢方薬学コー
 ☆:12、1月に開講(2コマ×2回)

注：課題研究の時間枠は、課題研究の指導を受ける時間です。研究課題によって別の時間帯になり、また時間数も異なります。研究指導教員に確認してください。

授 業 時 間 割 表 (博士前期課程)

2 年次 (2 0 2 4 年入学対応) 前期

	Ⅰ 9:00-10:30		Ⅱ 10:45-12:15		Ⅳ 13:15-14:45		Ⅴ 15:00-16:30		Ⅵ 16:45-18:15	
曜日	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者
月	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	薬科学研究論文	指導教員
火										
水										
木									ケミカルバイオ ロジー特論	庄司、他
金										
土	システム生体機 能学特論	岡、他			漢方薬学・生薬学 演習	喻、他				

■ 創薬コース ■ 漢方薬学コース

注：課題研究の時間枠は、課題研究の指導を受ける時間です。研究課題によって別の時間帯になり、また時間数も異なります。研究指導教員に確認してください

2 年次 (2 0 2 4 年入学対応) 後期

	Ⅰ 9:00-10:30		Ⅱ 10:45-12:15		Ⅳ 13:15-14:45		Ⅴ 15:00-16:30		Ⅵ 16:45-18:15	
曜日	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者
月	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	薬科学研究論文	指導教員
火										
水										
木										
金					食品衛生薬科学特論	速水、他				
土					漢方薬学・生薬学 演習	喻、他				

■ 漢方薬学コース

注：課題研究の時間枠は、課題研究の指導を受ける時間です。研究課題によって別の時間帯になり、また時間数も異なります。研究指導教員に確認してください

2025年度 前期 時間割【博士前期課程 1年次】

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
4月1日	火															
4月2日	水	入学式・オリエンテーション・履修科目提出（17:00～17:30）														
4月3日	木															
4月4日	金															
4月5日	土															
4月7日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文①	指導教官	
4月8日	火													高度研究機器特講演①	岩瀬、他	
4月9日	水													創薬有機化学特論①	庄司、他	
4月10日	木															
4月11日	金													ケミカルバイオロジー特論①	庄司、他	
4月12日	土	システム生体機能学特論①	岡、他		漢方薬学特論①	喻、他					モデリング・シミュレーション演習①	千葉、他				
4月14日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文②	指導教官	
4月15日	火													高度研究機器特別講演②	岩瀬、他	
4月16日	水													創薬有機化学特論②	庄司、他	
4月17日	木															
4月18日	金													ケミカルバイオロジー特論②	庄司、他	
4月19日	土	システム生体機能学特論②	岡、他		漢方薬学特論②	喻、他					モデリング・シミュレーション演習②	千葉、他				
4月21日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文③	指導教官	
4月22日	火													高度研究機器特別講演③	岩瀬、他	
4月23日	水													創薬有機化学特論③	庄司、他	
4月24日	木															
4月25日	金													ケミカルバイオロジー特論③	庄司、他	
4月26日	土	システム生体機能学特論③	岡、他		漢方薬学特論③	喻、他					モデリング・シミュレーション演習③	千葉、他				
4月28日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文④	指導教官	
4月29日	火															
4月30日	水													創薬有機化学特論④	庄司、他	
5月1日	木															
5月2日	金													ケミカルバイオロジー特論④	庄司、他	
5月3日	土															
5月5日	月															
5月6日	火															
5月7日	水													創薬有機化学特論⑤	庄司、他	
5月8日	木															
5月9日	金													ケミカルバイオロジー特論⑤	庄司、他	
5月10日	土	システム生体機能学特論④	岡、他		漢方薬学特論④	喻、他					モデリング・シミュレーション演習④	千葉、他				
5月12日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑤	指導教官	
5月13日	火													高度研究機器特別講演④	岩瀬、他	
5月14日	水													創薬有機化学特論⑥	庄司、他	
5月15日	木															
5月16日	金													ケミカルバイオロジー特論⑥	庄司、他	
5月17日	土	システム生体機能学特論⑤	岡、他		漢方薬学特論⑤	喻、他					モデリング・シミュレーション演習⑤	千葉、他				

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
5月19日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑥	指導教官	
5月20日	火													高度研究機器特別講演⑤	岩瀬、他	
5月21日	水													創薬有機化学特論⑦	庄司、他	
5月22日	木															
5月23日	金													ケミカルバイオロジー特論⑦	庄司、他	
5月24日	土	システム生体機能学特論⑥	岡、他		漢方薬学特論⑥	喻、他		★薬科学大学院特別講義①	田邊、他		★薬科学大学院特別講義②	田邊、他				
5月26日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑦	指導教官	
5月27日	火													高度研究機器特別講演⑥	岩瀬、他	
5月28日	水													創薬有機化学特論⑧	庄司、他	
5月29日	木															
5月30日	金													ケミカルバイオロジー特論⑧	庄司、他	
5月31日	土	システム生体機能学特論⑦	岡、他		漢方薬学特論⑦	喻、他					モデリング・シミュレーション演習⑥	千葉、他				
6月2日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑧	指導教官	
6月3日	火													高度研究機器特別講演⑦	岩瀬、他	
6月4日	水													創薬有機化学特論⑨	庄司、他	
6月5日	木															
6月6日	金													ケミカルバイオロジー特論⑨	庄司、他	
6月7日	土	システム生体機能学特論⑧	岡、他		漢方薬学特論⑧	喻、他					モデリング・シミュレーション演習⑦	千葉、他				
6月9日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑨	指導教官	
6月10日	火													高度研究機器特別講演⑧	岩瀬、他	
6月11日	水													創薬有機化学特論⑩	庄司、他	
6月12日	木															
6月13日	金													ケミカルバイオロジー特論⑩	庄司、他	
6月14日	土	システム生体機能学特論⑨	岡、他		漢方薬学特論⑨	喻、他					モデリング・シミュレーション演習⑧	千葉、他				
6月16日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑩	指導教官	
6月17日	火													高度研究機器特別講演⑨	岩瀬、他	
6月18日	水													創薬有機化学特論⑪	庄司、他	
6月19日	木															
6月20日	金													ケミカルバイオロジー特論⑪	庄司、他	
6月21日	土	システム生体機能学特論⑩	岡、他		漢方薬学特論⑩	喻、他					補講					
6月23日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑪	指導教官	
6月24日	火													高度研究機器特別講演⑩	岩瀬、他	
6月25日	水													創薬有機化学特論⑫	庄司、他	
6月26日	木															
6月27日	金													ケミカルバイオロジー特論⑫	庄司、他	
6月28日	土	システム生体機能学特論⑪	岡、他		漢方薬学特論⑪	喻、他					補講					
6月30日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑫	指導教官	
7月1日	火													補講		
7月2日	水													創薬有機化学特論⑬	庄司、他	
7月3日	木															
7月4日	金													ケミカルバイオロジー特論⑬	庄司、他	
7月5日	土	システム生体機能学特論⑫	岡、他		漢方薬学特論⑫	喻、他					補講					

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
7月7日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑬	指導教官	
7月8日	火													補講		
7月9日	水													創薬有機化学特論⑭	庄司、他	
7月10日	木															
7月11日	金													ケミカルバイオロジー特論⑭	庄司、他	
7月12日	土	システム生体機能学特論⑬	岡、他		漢方薬学特論⑬	喻、他					健康診断（休講）					
7月14日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑭	指導教官	
7月15日	火													補講		
7月16日	水													創薬有機化学特論⑮	庄司、他	
7月17日	木															
7月18日	金													ケミカルバイオロジー特論⑮	庄司、他	
7月19日	土	システム生体機能学特論⑭	岡、他		漢方薬学特論⑭	喻、他					補講					
7月21日	月															
7月22日	火													補講		
7月23日	水													補講		
7月24日	木															
7月25日	金													補講		
7月26日	土	システム生体機能学特論⑮	岡、他		漢方薬学特論⑮	喻、他		★薬科学大学院特別講義③	田邊、他		★薬科学大学院特別講義④	田邊、他				
7月28日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑮	指導教官	
7月29日	火													補講		
7月30日	水													補講		
7月31日	木															
8月1日	金													補講		
8月2日	土	補講			補講						補講					
8月4日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月5日	火													補講		
8月6日	水													補講		
8月7日	木															
8月8日	金													補講		
8月9日	土	補講			補講						補講					
8月11日	月															
8月12日	火															
8月13日	水															
8月14日	木															
8月15日	金															
8月16日	土															
8月18日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月19日	火													補講		
8月20日	水													補講		
8月21日	木															
8月22日	金													補講		
8月23日	土	補講			補講						補講					

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
8月25日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月26日	火													補講		
8月27日	水													補講		
8月28日	木															
8月29日	金													補講		
8月30日	土	補講			補講						補講					
9月1日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月2日	火													補講		
9月3日	水													補講		
9月4日	木															
9月5日	金													補講		
9月6日	土	補講			補講			★薬科学大学院 特別講義⑤	田邊、他		★薬科学大学院 特別講義⑥	田邊、他				
9月8日	月	レポート 単位認定 提出			補講			補講			補講			補講		
9月9日	火													補講		
9月10日	水													補講		
9月11日	木															
9月12日	金													補講		
9月13日	土				補講						補講					
9月15日	月															
9月16日	火													補講		
9月17日	水													補講		
9月18日	木															
9月19日	金													補講		
9月20日	土	補講			補講						補講					
9月22日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月23日	火															
9月24日	水													補講		
9月25日	木															
9月26日	金													補講		
9月27日	土	補講			補講						補講					
9月29日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月30日	火													補講		

2025年度 後期 時間割【博士前期課程 1年次】

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
10月1日	水															
10月2日	木															
10月3日	金															
10月4日	土	分子生物学 特論①	川嶋、他		漢方・統合医療薬学 特論①	喻、他		食品衛生薬科学 特論①	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論②	埴岡、他				
10月6日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬学研究論文①	指導教官	
10月7日	火															
10月8日	水															
10月9日	木															
10月10日	金															
10月11日	土	分子生物学 特論②	川嶋、他		漢方・統合医療薬学 特論②	喻、他		食品衛生薬科学 特論③	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論④	埴岡、他				
10月13日	月															
10月14日	火															
10月15日	水															
10月16日	木															
10月17日	金															
10月18日	土	分子生物学 特論③	川嶋、他		漢方・統合医療薬学 特論③	喻、他		食品衛生薬科学 特論⑤	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑥	埴岡、他				
10月20日	月	創立者記念日														
10月21日	火															
10月22日	水															
10月23日	木															
10月24日	金															
10月25日	土	分子生物学 特論④	川嶋、他		漢方・統合医療薬学 特論④	喻、他		食品衛生薬科学 特論⑦	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑧	埴岡、他				
10月27日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬学研究論文②	指導教官	
10月28日	火															
10月29日	水															
10月30日	木															
10月31日	金															
11月1日	土	分子生物学 特論⑤	川嶋、他		漢方・統合医療薬学 特論⑤	喻、他		食品衛生薬科学 特論⑨	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑩	埴岡、他				
11月3日	月															
11月4日	火															
11月5日	水															
11月6日	木															
11月7日	金															
11月8日	土	分子生物学 特論⑥	小笹、他		漢方・統合医療薬学 特論⑥	喻、他		★薬科学大学院 特別講義⑦	田邊、他		★薬科学大学院 特別講義⑧	田邊、他				
11月10日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬学研究論文③	指導教官	
11月11日	火															
11月12日	水															
11月13日	木															
11月14日	金															
11月15日	土	分子生物学 特論⑦	川嶋、他		漢方・統合医療薬学 特論⑦	喻、他		食品衛生薬科学 特論⑪	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑫	埴岡、他				
11月17日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬学研究論文④	指導教官	
11月18日	火															
11月19日	水															
11月20日	木															
11月21日	金															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
11月22日	土	分子生物学特論⑧	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑧	喻、他		食品衛生薬科学特論⑬	埴岡、他		食品衛生薬科学特論⑭	埴岡、他				
11月24日	月															
11月25日	火															
11月26日	水															
11月27日	木															
11月28日	金															
11月29日	土	分子生物学特論⑨	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑨	喻、他		食品衛生薬科学特論⑮	埴岡、他		補講					
12月1日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑤	指導教官	
12月2日	火															
12月3日	水															
12月4日	木															
12月5日	金															
12月6日	土	分子生物学特論⑩	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑩	喻、他		補講			補講					
12月8日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑥	指導教官	
12月9日	火															
12月10日	水															
12月11日	木															
12月12日	金															
12月13日	土	分子生物学特論⑪	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑪	喻、他		補講			補講					
12月15日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑦	指導教官	
12月16日	火															
12月17日	水															
12月18日	木															
12月19日	金															
12月20日	土	分子生物学特論⑫	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑫	喻、他		補講			補講					
12月22日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑧	指導教官	
12月23日	火															
12月24日	水															
12月25日	木															
12月26日	金															
12月27日	土	分子生物学特論⑬	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑬	喻、他		補講			補講					
12月29日	月															
12月30日	火															
12月31日	水															
1月5日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑨	指導教官	
1月6日	火															
1月7日	水															
1月8日	木															
1月9日	金															
1月10日	土	分子生物学特論⑭	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑭	喻、他		★薬科学大学院特別講義⑯	オムニバス(田邊)		★薬科学大学院特別講義⑰	オムニバス(田邊)				
1月12日	月															
1月13日	火															
1月14日	水															
1月15日	木															
1月16日	金															
1月17日	土	分子生物学特論⑮	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑮	喻、他		補講			補講					
1月19日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑩	指導教官	
1月20日	火															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
1月21日	水															
1月22日	木															
1月23日	金															
1月24日	土	補講			補講			補講			補講					
1月26日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑪	指導教官	
1月27日	火															
1月28日	水															
1月29日	木															
1月30日	金															
1月31日	土	補講			補講			補講			補講					
2月2日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑫	指導教官	
2月3日	火															
2月4日	水															
2月5日	木															
2月6日	金															
2月7日	土	補講			補講			補講			補講					
2月9日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑬	指導教官	
2月10日	火															
2月11日	水															
2月12日	木															
2月13日	金															
2月14日	土	補講			補講			補講			補講					
2月16日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑭	指導教官	
2月17日	火															
2月18日	水															
2月19日	木															
2月20日	金															
2月21日	土	補講			補講			補講			補講					
2月23日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑮	指導教官	
2月24日	火	レ ポ ー ト 提 出														
2月25日	水															
2月26日	木															
2月27日	金															
2月28日	土				補講			補講			補講					
3月2日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月3日	火															
3月4日	水															
3月5日	木															
3月6日	金															
3月7日	土	補講			補講			補講			補講					
3月9日	月	(修・1 進 歩 年 報 生 告 会)			補講			補講			補講			補講		
3月10日	火															
3月11日	水															
3月12日	木															
3月13日	金															
3月14日	土				補講			補講			補講			補講		
3月16日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月17日	火															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
3月18日	水															
3月19日	木															
3月20日	金															
3月21日	土	補講			補講			補講			補講					
3月23日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月24日	火															
3月25日	水															
3月26日	木															
3月27日	金															
3月28日	土	補講			補講			補講			補講					
3月30日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月31日	火															

2025年度 前期 時間割【博士前期課程 2年次】

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
4月1日	火															
4月2日	水	入学式・オリエンテーション・履修科目提出 (17:00～18:00)														
4月3日	木															
4月4日	金															
4月5日	土															
4月7日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文①	指導教官	
4月8日	火															
4月9日	水															
4月10日	木															
4月11日	金													ケミカルバイオロジー特論①	庄司、他	
4月12日	土	システム生体機能学特論①	岡、他													
4月14日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文②	指導教官	
4月15日	火															
4月16日	水															
4月17日	木															
4月18日	金													ケミカルバイオロジー特論②	庄司、他	
4月19日	土	システム生体機能学特論②	岡、他													
4月21日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文③	指導教官	
4月22日	火															
4月23日	水															
4月24日	木															
4月25日	金													ケミカルバイオロジー特論③	庄司、他	
4月26日	土	システム生体機能学特論③	岡、他													
4月28日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文④	指導教官	
4月29日	火															
4月30日	水															
5月1日	木															
5月2日	金													ケミカルバイオロジー特論④	庄司、他	
5月3日	土															
5月5日	月															
5月6日	火															
5月7日	水															
5月8日	木															
5月9日	金													ケミカルバイオロジー特論⑤	庄司、他	
5月10日	土	システム生体機能学特論④	岡、他													
5月12日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑤	指導教官	
5月13日	火															
5月14日	水															
5月15日	木															
5月16日	金													ケミカルバイオロジー特論⑥	庄司、他	
5月17日	土	システム生体機能学特論⑤	岡、他													
5月19日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑥	指導教官	
5月20日	火															
5月21日	水															
5月22日	木															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
5月23日	金													ケミカルバイオロジー特論⑦	庄司、他	
5月24日	土	システム生体機能学特論⑥	岡、他													
5月26日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑦	指導教官	
5月27日	火															
5月28日	水															
5月29日	木															
5月30日	金													ケミカルバイオロジー特論⑧	庄司、他	
5月31日	土	システム生体機能学特論⑦	岡、他					漢方薬学・生薬学臨床演習①	榊原、他		漢方薬学・生薬学臨床演習②	榊原、他				
6月2日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑧	指導教官	
6月3日	火															
6月4日	水															
6月5日	木															
6月6日	金													ケミカルバイオロジー特論⑨	庄司、他	
6月7日	土	システム生体機能学特論⑧	岡、他													
6月9日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑨	指導教官	
6月10日	火															
6月11日	水															
6月12日	木															
6月13日	金													ケミカルバイオロジー特論⑩	庄司、他	
6月14日	土	システム生体機能学特論⑨	岡、他													
6月16日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑩	指導教官	
6月17日	火															
6月18日	水															
6月19日	木															
6月20日	金													ケミカルバイオロジー特論⑪	庄司、他	
6月21日	土	システム生体機能学特論⑩	岡、他													
6月23日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑪	指導教官	
6月24日	火															
6月25日	水															
6月26日	木															
6月27日	金													ケミカルバイオロジー特論⑫	庄司、他	
6月28日	土	システム生体機能学特論⑪	岡、他													
6月30日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑫	指導教官	
7月1日	火															
7月2日	水															
7月3日	木															
7月4日	金													ケミカルバイオロジー特論⑬	庄司、他	
7月5日	土	システム生体機能学特論⑫	岡、他													
7月7日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑬	指導教官	
7月8日	火															
7月9日	水															
7月10日	木															
7月11日	金													ケミカルバイオロジー特論⑭	庄司、他	
7月12日	土	システム生体機能学特論⑬	岡、他								健康診断（休講）					
7月14日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑭	指導教官	
7月15日	火															
7月16日	水															
7月17日	木															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
7月18日	金													ケミカルバイオロジー特論 ^⑮	庄司、他	
7月19日	土	システム生体機能学特論 ^⑮	岡、他					漢方薬学・生薬学臨床演習 ^③	榊原、他		漢方薬学・生薬学臨床演習 ^④	榊原、他				
7月21日	月															
7月22日	火															
7月23日	水															
7月24日	木															
7月25日	金													補講		
7月26日	土	システム生体機能学特論 ^⑮	岡、他													
7月28日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文 ^⑮	指導教官	
7月29日	火															
7月30日	水															
7月31日	木															
8月1日	金													補講		
8月2日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
8月4日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月5日	火															
8月6日	水															
8月7日	木															
8月8日	金													補講		
8月9日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
8月11日	月															
8月12日	火															
8月13日	水															
8月14日	木															
8月15日	金															
8月16日	土															
8月18日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月19日	火															
8月20日	水															
8月21日	木															
8月22日	金													補講		
8月23日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
8月25日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月26日	火															
8月27日	水															
8月28日	木															
8月29日	金													補講		
8月30日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月1日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月2日	火															
9月3日	水															
9月4日	木															
9月5日	金													補講		
9月6日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月8日	月				補講			補講			補講			補講		
9月9日	火															
9月10日	水															
9月11日	木															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
9月12日	金	定 出 ↓												補講		
9月13日	土				補講			補講			補講			補講		
9月15日	月															
9月16日	火															
9月17日	水															
9月18日	木															
9月19日	金													補講		
9月20日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月22日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月23日	火															
9月24日	水															
9月25日	木															
9月26日	金													補講		
9月27日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月29日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月30日	火															

2025年度 後期 時間割【博士前期課程 2年次】

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
10月1日	水															
10月2日	木															
10月3日	金															
10月4日	土	学位申請ガイダンス														
10月6日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文①	指導教官	
10月7日	火															
10月8日	水															
10月9日	木															
10月10日	金															
10月11日	土							漢方薬学・生薬学 臨床演習⑤	榊原、他		漢方薬学・生薬学臨床演習⑥	榊原、他				
10月13日	月															
10月14日	火															
10月15日	水															
10月16日	木															
10月17日	金															
10月18日	土							食品衛生薬科学 特論①	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論②	埴岡、他				
10月20日	月	創立者記念日														
10月21日	火															
10月22日	水															
10月23日	木															
10月24日	金															
10月25日	土							食品衛生薬科学 特論③	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論④	埴岡、他				
10月27日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文②	指導教官	
10月28日	火															
10月29日	水															
10月30日	木															
10月31日	金															
11月1日	土							漢方薬学・生薬学 臨床演習⑦	榊原、他		漢方薬学・生薬学臨床演習⑧	榊原、他				
11月3日	月															
11月4日	火															
11月5日	水															
11月6日	木															
11月7日	金															
11月8日	土							食品衛生薬科学 特論⑤	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑥	埴岡、他				
11月10日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文③	指導教官	
11月11日	火															
11月12日	水															
11月13日	木															
11月14日	金															
11月15日	土							食品衛生薬科学 特論⑦	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑧	埴岡、他				
11月17日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文④	指導教官	
11月18日	火															
11月19日	水															
11月20日	木															
11月21日	金															
11月22日	土							食品衛生薬科学 特論⑨	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑩	埴岡、他				
11月24日	月															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15			
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	
11月25日	火																
11月26日	水																
11月27日	木																
11月28日	金																
11月29日	土							漢方薬学・生薬学 臨床演習⑨	榊原、他		漢方薬学・生薬学臨床演習⑩	榊原、他					
12月1日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑤	指導教官		
12月2日	火	進 捗 報 告 会 （ 修 士 2 年 ）															
12月3日	水																
12月4日	木																
12月5日	金																
12月6日	土								食品衛生薬科学 特論⑪	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑫	埴岡、他				
12月8日	月		課題研	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑥	指導教官	
12月9日	火																
12月10日	水																
12月11日	木																
12月12日	金																
12月13日	土							食品衛生薬科学 特論⑬	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑭	埴岡、他					
12月15日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑦	指導教官		
12月16日	火																
12月17日	水																
12月18日	木																
12月19日	金																
12月20日	土							食品衛生薬科学 特論⑮	埴岡、他								
12月22日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑧	指導教官		
12月23日	火																
12月24日	水																
12月25日	木																
12月26日	金																
12月27日	土							補講			補講						
12月29日	月																
12月30日	火																
12月31日	水																
1月1日	木																
1月2日	金																
1月3日	土																
1月5日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑨	指導教官		
1月6日	火																
1月7日	水																
1月8日	木																
1月9日	金																
1月10日	土							補講			補講						
1月12日	月																
1月13日	火																
1月14日	水																
1月15日	木																
1月16日	金																
1月17日	土							補講			補講						
1月19日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑩	指導教官		
1月20日	火																

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15			
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	
1月21日	水																
1月22日	木																
1月23日	金																
1月24日	土							補講			補講						
1月26日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑪	指導教官		
1月27日	火																
1月28日	水																
1月29日	木																
1月30日	金																
1月31日	土							補講			補講						
2月2日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑫	指導教官		
2月3日	火																
2月4日	水																
2月5日	木																
2月6日	金																
2月7日	土							補講			補講						
2月9日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑬	指導教官		
2月10日	火																
2月11日	水																
2月12日	木																
2月13日	金																
2月14日	土							補講			補講						
2月16日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑭	指導教官		
2月17日	火																
2月18日	水																
2月19日	木																
2月20日	金																
2月21日	土							補講			補講						
2月23日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑮	指導教官		
2月24日	火	<div>単位認定試験 レポート提出</div>															
2月25日	水																
2月26日	木																
2月27日	金																
2月28日	土				修士学位論文審査/最終試験												
3月2日	月	補講			補講			補講			補講			補講			
3月3日	火																
3月4日	水																
3月5日	木																
3月6日	金																
3月7日	土	補講			補講			補講			補講			補講			
3月9日	月	補講			補講			補講			補講			補講			
3月10日	火																
3月11日	水																
3月12日	木																
3月13日	金																
3月14日	土	補講			補講			補講			補講			補講			
3月16日	月	補講			補講			補講			補講			補講			
3月17日	火																
3月18日	水																

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
3月19日	木															
3月20日	金															
3月21日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
3月23日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月24日	火															
3月25日	水															
3月26日	木															
3月27日	金															
3月28日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
3月30日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月31日	火															

シラバス(授業科目)

ケミカルバイオロジー特論

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：共通選択科目 年次：2 開講期：前期 入学年度：2022 年 単位：2

庄司 満（専任教授），鰐淵 清史（専任准教授）

■ 授業形式

A 講義型

■ 評価方法

レポートにより評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

化学と生命科学を融合させるケミカルバイオロジーは、有機化合物を基礎として生命科学研究を行う、有用化合物開発に直結する研究領域である。生物活性分子のケミカルバイオロジーについて、分子標的の基礎から同定に至るまでの幅広い知識と実例について学ぶ。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	庄司 満	基礎	ケミカルバイオロジーの基礎について学ぶ。
2	鰐淵 清史	天然物 1	天然物とケミカルバイオロジーについて学ぶ。
3	鰐淵 清史	天然物 2	天然物とケミカルバイオロジーについて学ぶ。
4	庄司 満	生物活性物質の標的タンパク質の同定とタンパク質分解誘導剤への展開 1	生物活性物質の標的タンパク質の同定の意義と方法について学ぶ。 (叶 直樹 教授 [星薬大] を招聘)
5	庄司 満	生物活性物質の標的タンパク質の同定とタンパク質分解誘導剤への展開 2	タンパク質分解誘導剤について学ぶ。 (叶 直樹 教授 [星薬大] を招聘)
6	庄司 満	生物活性物質の標的タンパク質の同定とタンパク質分解誘導剤への展開 3	生物活性物質の標的タンパク質の同定とタンパク質分解誘導剤への展開について学ぶ。 (叶 直樹 教授 [星薬大] を招聘)
7	庄司 満	抗がん剤・抗菌剤 1	抗がん剤のケミカルバイオロジーについて学ぶ。 (末永 聖武 教授 [慶大・理工] を招聘)
8	庄司 満	抗がん剤・抗菌剤 2	抗菌剤のケミカルバイオロジーについて学ぶ。 (末永 聖武 教授 [慶大・理工] を招聘)
9	庄司 満	抗がん剤・抗菌剤 3	抗菌剤のケミカルバイオロジーについて学ぶ。 (末永 聖武 教授 [慶大・理工] を招聘)
10	庄司 満	小分子有機化合物 1	小分子有機化合物を用いた生命科学について学ぶ。 (及川 雅人 教授 [横浜市大院・生命ナノ] を招聘)
11	庄司 満	小分子有機化合物 2	小分子有機化合物を用いた生命科学について学ぶ。 (及川 雅人 教授 [横浜市大院・生命ナノ] を招聘)
12	庄司 満	小分子有機化合物 3	小分子有機化合物を用いた生命科学について学ぶ。 (及川 雅人 教授 [横浜市大院・生命ナノ] を招聘)
13	庄司 満	ペプチド・タンパク質化学 1	ペプチド・タンパク質化学における最近の話題について学ぶ。 (林 良雄 教授 [東薬大・薬] を招聘)
14	庄司 満	ペプチド・タンパク質化学 2	ペプチド化学に基づくケミカルバイオロジーについて学ぶ。 (林 良雄 教授 [東薬大・薬] を招聘)
15	庄司 満	ペプチド・タンパク質化学 3	ペプチドから創薬展開について学ぶ。 (林 良雄 教授 [東薬大・薬] を招聘)

応用薬理学特論

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：共通選択科目 年次：1・2 開講期：前期 入学年度：2024・2023 年 単位：2

田邊 由幸（専任教授）、小笹 徹（客員教授）、千葉 康司（専任教授）、曾根 秀子（専任教授）、松岡 秀忠（専任准教授）、吉門 崇（専任准教授）、飯田 理文（兼任教授）、藤田 融（兼任講師）

■ 授業形式

A 講義型

■ 評価方法

受講時の設定課題に対するレポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

肥満、高血圧、高血糖、脂質異常症など多重危険因子の集積状態、即ち『メタボリックシンドローム』という概念が導入され、かつては生活習慣病と呼ばれた疾患の分子・細胞機構が次々に明らかになりつつある。その範囲は、循環系や代謝・内分泌系のみならず、消化器系、神経系及び免疫系にまで広がり、今後多数の新薬が期待される一方で、様々な有害事象の可能性をも考慮する必要がある。既存薬及び新薬の特徴について、治療標的となる血管や脂肪細胞などの機能や細胞内情報伝達機構や細胞・組織間ネットワークへの影響について、更には臨床薬理学とも連結し医薬品及び生理活性物質の標的タンパク質近傍までの輸送及び結合特性と用量作用関係及び薬効評価における有効性・安全性について詳細に学ぶ。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	小笹 徹	医薬品の相互作用の機構 1	薬物—薬物受容体相互作用、化学的相互作用及び用量—作用関係について
2	田邊 由幸	血管病変・機能異常の治療標的 1	動物細胞のメカノトランスダクション
3	田邊 由幸	血管病変・機能異常の治療標的 2	肺高血圧の分子細胞メカニズムと新たな治療標的の探索 (斉藤 麻希 博士 [医療創生大・薬・准教授] を招聘)
4	田邊 由幸	血管病変・機能異常の治療標的 3	n-3 系多価不飽和脂肪酸の薬理活性と循環器疾患治療への応用 (茅野 大介 博士 [日薬大・薬・准教授] を招聘)
5	田邊 由幸	内分泌系疾患と治療標的	酸化・小胞体ストレスと生活習慣病 (前田 智司 博士 [日薬大・薬・教授] を招聘)
6	藤田 融	神経変性疾患と治療標的	神経変性疾患
7	松岡 秀忠	代謝症候群と医薬 1	高血圧症と薬物治療
8	松岡 秀忠	代謝症候群と医薬 2	膵島内分泌制御と糖尿病治療薬
9	田邊 由幸	代謝症候群と医薬 3	アディポミクス
10	千葉 康司	医薬品の相互作用の機構 1	薬物トランスポーターの分子細胞薬理学
11	千葉 康司	医薬品の相互作用の機構 2	薬物代謝酵素を介した薬物相互作用とその予測
12	飯田 理文	医薬品の相互作用の機構 3	医薬品開発におけるバイオマーカー測定の現状
13	吉門 崇	医薬品の相互作用の機構 4	薬物トランスポータを介した薬物相互作用とその予測
14	曾根 秀子	薬効評価における有効性と安全性 1	バイオインフォマティクスによる薬効評価
15	曾根 秀子	薬効評価における有効性と安全性 2	バイオインフォマティクスによる毒性評価

食品衛生薬科学特論

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：共通選択科目 年次：2 開講期：後期 入学年度：2022 年 単位：2

埴岡 伸光（専任教授），曾根 秀子（専任教授），河村 伊久雄（専任教授），香川 聡子（専任教授），三浦 伸彦（専任教授），越智 定幸（専任教授），速水 耕介（専任教授），大河原 晋（専任教授），磯部 隆史（専任准教授），高橋 栄造（専任准教授），長嶋 大地（専任講師）

■ 授業形式

A 講義型・ディスカッション型

■ 評価方法

レポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

食品の機能をミクロおよびマクロの両面並びに有益性及び安全性を化学、分子生物学及び薬物動態学などの学問を基盤として包括的に解析する能力を習得することを目的とし、（１）食品と医薬品の相互作用食品、（２）最新の機器分析、（３）データ解析技術などについて講述するとともに討論して知見を深める。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	長嶋 大地	食品由来成分の薬理・毒性学的評価	食品由来成分が生体にもたらす「効果」と「影響」について、検証方法や評価方法を理解する。
2	埴岡 伸光	食品-医薬品の相互作用	食品と医薬品の相互作用を薬物動態学、薬理学的及び分子生物学・生化学の視点から理解する。
3	香川 聡子	食品汚染物質の健康影響評価手法	重金属などの非意図的食品汚染物質の健康影響評価手法を理解する。
4	河村 伊久雄	食中毒原因細菌の特徴と生体防御反応	食中毒の原因細菌の特徴と、感染後に誘導される生体防御反応を理解する。
5	曾根 秀子	食品中の変異原	発がん物質とその阻害物質：食品中の変異原・発がん物質や抗変異原・抗発がん物質の毒性及び機能性作用を理解する。
6	曾根 秀子	食品中の人為的有害物質	内分泌かく乱化学物質や放射線物質などの食品汚染物質の健康影響評価と摂取量との関係を理解する。
7	越智 定幸	腸内細菌叢と生体機能	腸内正常細菌叢と生体機能調節について、生物学的、微生物学的及び免疫学的視点から理解する。
8	越智 定幸	バイオ食品とバイオ医薬品	有用微生物と微生物由来機能分子の作用機序を理解する。
9	大河原 晋	食品成分と疾病予防	食品成分の機能を疾病予防の観点から理解する。
10	速水 耕介	食事摂取基準とその設定方法	タンパク質およびアミノ酸の摂取基準設定を例として、データ解析技術の重要性を理解する。
11	高橋 栄造	水と健康	水系感染症を通してヒトの健康における水の重要性を理解する。
12	三浦 伸彦	食物中の金属と健康障害	土壌や水を介して食物に取り込まれた金属が生体に与える障害を理解する。
13	磯部 隆史	食品中の多糖類の機能	食品に含まれる食物繊維など多糖類が持つ人体への有益な機能を化学的に理解する。
14	速水 耕介	食品成分の代謝と安全性	アミノ酸を中心に食品成分の代謝と安全性について、科学的な課題とともに理解する。
15	速水 耕介	食品成分のトランスクリプトーム解析	DNA マイクロアレイを用いたトランスクリプトーム解析の概説と、これを用いた食品成分の研究を理解する。

レギュラトリーサイエンス特論

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：共通選択科目 年次：1 開講期：後期 入学年度：2022 年 単位：2

小出 彰宏（専任教授），千葉 康司（専任教授），速水 耕介（専任教授），山田 博章（専任教授），

■ 授業形式

A 講義型・ディスカッション型

■ 評価方法

講義の受講態度およびレポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

創薬の最終段階の目標は、患者における疾患の治療である。特にヒトを対象とする臨床段階及びその準備のためのデータ収集では、行政による規制が必須である。また、創薬のグローバル化を支えているのは、規制であるといっても過言ではない。本特論では、創薬の各段階、すなわち探索、非臨床、臨床、承認及び製造販売後における、規制及び企業と行政の連携を実例と照らしながら学ぶ。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	山田 博章	レギュラトリーサイエンス 1	レギュラトリーサイエンスの定義、概念について学ぶ。
2	山田 博章	レギュラトリーサイエンス 2	ICH 会議等、レギュラトリーサイエンスが用いられた事例について学ぶ。
3	千葉 康司	医薬品開発 1	医薬品開発における ICH ガイドラインの役割について学ぶ。
4	千葉 康司	医薬品開発 2	First in Human 試験について、問題事例と安全対策について学ぶ。
5	千葉 康司	医薬品開発 3	薬物相互作用による問題事例とその対応について学ぶ。
6	飯田 理文	がん領域における分子標的薬の開発 1	実例をもとにがん領域の分子標的薬の臨床開発と承認申請について学ぶ。
7	飯田 理文	がん領域における分子標的薬の開発 2	実例をもとにがん領域の分子標的薬の臨床開発と承認申請について学ぶ。
8	飯田 理文	バイオ医薬品を取り巻く話題	新しい抗体医薬品、バイオシミラーについて学ぶ。
9	山田 博章	医薬品の承認審査	医薬品医療機器総合機構における医薬品の承認審査について学ぶ。
10	山田 博章	医薬品承認審査事例 1	実例を通して、医薬品の承認審査について理解を深める。
11	山田 博章	医薬品承認審査事例 2	実例を通して、医薬品の承認審査について理解を深める。
12	小出 彰宏	医療機器の承認審査	医薬品医療機器総合機構における医療機器の承認審査について学ぶ。
13	小出 彰宏	医療機器の審査事例	実例を通して、医療機器の承認審査について理解を深める。
14	小出 彰宏	製造販売後制度 1	製造販売後安全対策と医薬品リスク管理計画について学ぶ。
15	小出 彰宏	製造販売後制度 2	製造販売後の医薬品情報とその入手方法について学ぶ。

高度研究機器特別演習

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：共通選択科目 年次：1 開講期：前期 入学年度：2022 年 単位：1

岩瀬 由未子（専任准教授）、岡 美佳子（専任教授）、川嶋 剛（専任教授）、川嶋 芳枝（専任教授）、磯部 隆史（専任准教授）、吉門 崇（専任准教授）、鰐淵 清史（専任准教授）、殿岡 恵子（兼任准教授）、奥野 義規（専任准教授）

■ 授業形式

A 講義型 C 実習型

■ 評価方法

各回の講義担当者から課されるレポート課題で 100%評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

最新の研究機器を用いて、生物系及び分析系の研究の基礎となる手技を学び、機器の使い方を習得することで、創薬の基礎となる基本的な実験手法、手順を学ぶ。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	川嶋 剛	研究を始めるにあたって	研究倫理、実験ノートの取り方など研究を始める前に知っておくべきことを学ぶ。
2	川嶋 剛 岡 美佳子 岩瀬 由未子	遺伝子技術	遺伝子技術の基礎を習得する。 核酸の抽出 PCR 制限酵素処理 遺伝子導入
3	川嶋 剛 岡 美佳子 岩瀬 由未子	遺伝子技術	遺伝子技術の基礎を習得する。 核酸の抽出 PCR 制限酵素処理 遺伝子導入
4	岡 美佳子 川嶋 芳枝 磯部 隆史	光学顕微鏡、電子顕微鏡、クライオスタット各機器の特徴と使い方	組織標本の基礎を習得する 光学顕微鏡の種類と特性 電子顕微鏡の種類と特性 クライオスタットを用いた組織切片の作成
5	岡 美佳子 川嶋 芳枝 磯部 隆史	光学顕微鏡、電子顕微鏡、クライオスタット各機器の特徴と使い方	組織標本の基礎を習得する 光学顕微鏡の種類と特性 電子顕微鏡の種類と特性 クライオスタットを用いた組織切片の作成
6	奥野 義規	1D および 2D NMR の測定と解析	NMR の測定方法と解析の基礎を習得する
7	香川 聡子	分子モデリング	分子モデリングの基礎を習得する（外部講師依頼予定）
8	香川 聡子	分子軌道計算	分子軌道計算の基礎を習得する（外部講師依頼予定）
9	鰐淵 清史	GC-MS の測定と解析	GC-MS の測定方法と解析の基礎を習得する
10	殿岡 恵子	LC-MS の測定と解析	LC-MS の測定方法と解析の基礎を習得する

モデリング・シミュレーション演習

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：共通選択科目 年次：1 開講期：前期 入学年度：2022 年 単位：1

千葉 康司（教授）、岡田 賢二（教授）、飯田 理文（教授）、友田 有加菜（助教）

■ 授業形式

A 講義型 D 演習型

■ 評価方法

レポート提出により評価する

■ 授業概要（教育目標・GIO）

医薬品の創製には莫大なコストと長い年月が必要である。しかし、その成功確率は極めて低い。この状況を改善すべく行政と企業は連携し、薬効および安全性の予測技術を高める政策を講じている。本演習では、製薬企業が探索段階の薬効および薬物動態予測に用いているソフトウェアを使用し、また、臨床段階の患者集団における薬効・安全性予測に用いる手法を、コンピューターを実際に使いながら演習形式で学ぶ。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	飯田 理文	モデリング・シミュレーションの基礎 1	コンパートメントモデルを構築する。
2	友田 有加菜	モデリング・シミュレーションの基礎 2	インビトロからインビボの薬物動態の予測理論を理解する。
3	千葉 康司	モデリング・シミュレーションの基礎 3	クリアランスコンセプトを修得し、生理学的モデルについて理解する。
4	千葉 康司	モデリング・シミュレーションの基礎 4	ファーマコゲノミクス概念理解する。母集団解析の誤差について理解する。
5	友田 有加菜	モデリング・シミュレーションの応用 1	生理学的モデルを用いた薬物相互作用の予測について理解する。
6	岡田 賢二	モデリング・シミュレーションの応用 2	母集団薬物動態解析の実際
7	外部講師 千葉 康司	モデリング・シミュレーションの応用 3	母集団薬物動態解析法の概念を理解する。 （大石 昌代 博士 [アステラス製薬株式会社 非臨床バイオメディカルサイエンス長] を招聘）
8	外部講師 千葉 康司	モデリング・シミュレーションの応用 4	薬物動態・薬力学・システム薬理学におけるモデル解析の概念を理解する。（大石 昌代 博士 [アステラス製薬株式会社 非臨床バイオメディカルサイエンス長] を招聘）

創薬有機化学特論

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：創薬コース科目 年次：1 開講期：前期 入学年度：2022 年 単位：2

庄司 満（専任教授），塚本 裕一（専任教授），鰐淵 清史（専任准教授），横江 弘雅（兼任准教授）

■ 授業形式

A 講義型

■ 評価方法

レポートにより評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

医薬品創製の基盤である「有用化合物の探索・合成」について、基礎から専門的内容までの幅広い知識を修得する。代表的な医薬品や最新の研究成果から、創薬における化合物デザイン及び標的化合物の合成手法・選択的合成法などについて学ぶ。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	庄司 満	有機合成反応の選択性	有機合成反応における選択性について学ぶ。
2	庄司 満	不飽和結合への付加 1	C=X 型結合への付加反応について学ぶ。
3	庄司 満	不飽和結合への付加 2	C=C 結合への付加反応について学ぶ。
4	庄司 満	置換反応	sp ³ 炭素上の置換反応について学ぶ。
5	塚本 裕一	カップリング反応	カップリング反応について学ぶ。
6	塚本 裕一	メタセシス	メタセシスについて学ぶ。
7	塚本 裕一	π 電子系の反応	π 電子系の協奏的反応について学ぶ。
8	塚本 裕一	炭素－炭素結合の開裂と形成	転位、脱離、開裂、および光化学反応について学ぶ。
9	鰐淵 清史	複素環化合物の反応	複素環化合物の反応について学ぶ。
10	鰐淵 清史	還元	還元について学ぶ。
11	鰐淵 清史	酸化	酸化について学ぶ。
12	鰐淵 清史	極性官能基の変換反応	カルボン酸、ケトン、アルコールなどの変換反応について学ぶ。
13	横江 弘雅	エナンチオ選択的反応 1	炭素－炭素結合生成によるエナンチオ選択的反応について学ぶ。
14	横江 弘雅	エナンチオ選択的反応 2	金属化合物を用いた官能基変換によるエナンチオ選択的反応について学ぶ。
15	横江 弘雅	エナンチオ選択的反応 3	有機化合物を用いるエナンチオ選択的反応について学ぶ。

分子生物学特論

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：創薬コース科目 年次：1 開講期：後期 入学年度：2025 年 単位：2

小笹 徹（客員教授）、岡 美佳子（専任教授）、川嶋 剛（専任教授）、川嶋 芳枝（専任教授）、高橋 哲史（専任准教授）、藤田 融（兼任講師）、松岡 秀忠（専任准教授）

■ 授業形式

A 講義型

■ 評価方法

基礎的知識に関する口頭試問や必要に応じて出される課題に関するレポートにより評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

分子生物学の基礎的知識に基づき、タンパク質の構造と機能、遺伝子の発現調節機構などに関する 研究を理解し複雑な生命現象を分子レベルで解説することで医薬品創製の基礎となる生命活動を分子的な側面からの理解を深め、基礎的知識、研究方法、最新の研究成果について学びディスカッションを通して理解を深める。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	川嶋 剛	遺伝子とその発現調節機構 (1)	遺伝子とその発現制御機構
2	川嶋 剛	遺伝子とその発現調節機構 (2)	ポストゲノムとオミックス解析
3	川嶋 剛	遺伝子発現とその調節機構 (3)	エピジェネティクス
4	岡 美佳子	タンパク質の構造と機能 (1)	タンパク質の構造と機能 (1)
5	岡 美佳子	タンパク質の構造と機能 (2)	タンパク質の構造と機能 (2)
6	松岡 秀忠	組み換え医薬品	バイオ医薬品の最新の現状と展望
7	松岡 秀忠	遺伝子治療	遺伝子治療の進歩と現状
8	松岡 秀忠	再生医療	再生医療の進展と展望
9	小笹 徹	細胞情報伝達機構 (1)	細胞情報伝達系の構造と機能
10	小笹 徹	細胞情報伝達機構 (2)	細胞情報伝達系の制御
11	松岡 秀忠	細胞情報伝達機構 (3)	細胞情報伝達系の創薬への展開
12	藤田 融	神経変性疾患	神経変性疾患と遺伝子
13	川嶋 剛	実験用近交系マウス	実験用近交系マウスの利用
14	川嶋 芳枝	発生における遺伝子発現調節機構	初期発生と器官形成
15	高橋 哲史	ゲノム創薬	最新シーケンサーの利用とゲノム創薬への応用

システム生体機能学特論

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：創薬コース科目 年次：1・2 開講期：前期 入学年度：2025 年・2024 年 単位：2

岡 美佳子（専任教授）、小笹 徹（専任教授）、田邊 由幸（専任教授）、川嶋 剛（専任教授）、川嶋 芳枝（専任教授）、高橋 哲史（専任准教授）、松岡 秀忠（専任准教授）、西崎 有利子（専任准教授）、浅井 将（専任准教授）、住野 彰英（兼任講師）

■ 授業形式

A 講義型

■ 評価方法

レポート

■ 授業概要（教育目標・GIO）

多くの生き物は細胞を分化させ細胞の役割を特化させることで役割を分担し、また協調することで生命活動を行なっている。多様な生物の生存戦略を知り、細胞、器官、組織の機能と形態を学び、さらに正常な生命活動のどこかが崩れたことによる疾病についても学ぶ。細胞生物学、機能形態学、薬理学、病態生理学などの幅広い知識を統合的に習得し、研究に不可欠な問題発見能力と解決能力を身につけ、医薬品創製の基礎となる開発研究過程やその基本的考え方について理解するために、医薬品開発で重要な、細胞生物学、機能形態学、薬理学、病態生理学などの幅広い知識を統合的に習得し、さらに最新の研究成果について学び、ディスカッションを通して理解を深める。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	岡 美佳子	細胞による組織の構築	組織の構築について学び、体制幹細胞について学ぶ
2	岡 美佳子	水晶体の細胞生物学	水晶体の透明性維持機構と混濁について最新の研究成果について知見を得る
3	浅井 将	生体におけるプロテアーゼの機能	生理的および病態時に機能するプロテアーゼについて学び、薬学的な視点から最新の研究成果についての知見を得る。
4	西崎 有利子	分化を制御する遺伝子と形態形成	分化を制御する遺伝子と形態形成について学び、最新の研究成果について知見を得る
5	住野 彰英	網膜の機能形態学	網膜における視覚処理機構と代表的疾患について最新の研究成果について知見を得る
6	住野 彰英	網膜における難治性疾患とその治療	我が国の中途失明原因の上位を占める緑内障や糖尿病網膜症などに対する治療について最新の研究成果について知見を得る
7	松岡 秀忠	細胞シグナル伝達	シグナル伝達の主要因子とその経路についての基本的知識を得る
8	松岡 秀忠	細胞シグナル伝達	シグナル伝達の異常により発症する疾病について学び、最新の研究成果について知見を得る
9	小笹 徹	G タンパク質による細胞機能の制御	G タンパク質について基本的知識と G タンパク質による細胞機能の制御についての最新の研究成果について知見を得る
10	川嶋 芳枝	細胞増殖因子（1）	様々な細胞増殖因子の機能に関する基本的知識を得る
11	川嶋 芳枝	細胞増殖因子（2）	発生・再生医療・疾患における細胞増殖因子の働きに関する最新の研究成果について知見を得る
12	川嶋 剛	好熱細菌の生存戦略	好熱細菌の生存戦略について学び、最新の研究成果について知見を得る
13	高橋 哲史	消化器がんの発症機構の解析と診断・治療への応用	消化器がんの発症機構の解析と診断・治療への応用について学び、最新の研究成果について知見を得る
14	田邊 由幸	血管機能異常における分子機構（1）	血管の収縮・弛緩・緊張性調節の基本的知識を得る
15	田邊 由幸	血管機能異常における分子機構（2）	血管機能異常における分子機構に関する最新の研究成果について知見を得る。

薬物動態学特論

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：創薬コース科目 年次：1・2 開講期：前期 入学年度：2022・2021 年 単位：2

岩瀬 由未子（専任准教授）、千葉 康司（専任教授）、飯田 理文（専任教授）、矢野 健太郎（専任准教授）、友田 有加菜（兼任助教）

■ 授業形式

A 講義型

■ 評価方法

授業内での発表会での発表内容及び口頭試問に対する回答、レポート内容を評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

オムニバス方式の講義により薬物動態学、臨床薬物動態学及び臨床薬理分野における最新の知識及び情報を習得する。また、薬効および毒性の発現に動物種差・系統差、民族差及び個体差が生ずる原因についての情報を薬物速度論的に解析・把握し、個別化医療を実際に行うための方法論を提案できる基礎的能力を育てる。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	矢野 健太郎	薬物速度論	本講義は、薬物の体内での動きを定量的に表現する方法の習得を目的に薬物速度論の基礎となるコンパートメント理論・クリアランス理論を数学的手法も含めて解説する。
2	矢野 健太郎	薬物速度論の応用	第 1 回の薬物速度論の応用編として多コンパートメントモデル解析、ラプラス変換を用いた式の誘導、デコンボリューション法による解析、モーメント解析等などについて解説する。
3	矢野 健太郎	薬物速度論の応用	第 1 回の薬物速度論の応用編として多コンパートメントモデル解析、ラプラス変換を用いた式の誘導、デコンボリューション法による解析、モーメント解析等などについて解説する。
4	岩瀬 由未子	吸収、分布	薬物の吸収及び分布の基礎と応用
5	岩瀬 由未子	消化管吸収	薬物の消化管吸収; 薬物の消化管吸収を理解するために必要な消化管の構造面及び機能面での特徴を説明する。
6	岩瀬 由未子	消化管吸収制御	薬物の消化管吸収制御; 難吸収性薬物の消化管吸収性改善のために行われている手法について説明する。
7	岩瀬 由未子	代謝、排泄	薬物の代謝及び排泄の基礎と応用
8	岩瀬 由未子	代謝、代謝阻害	薬物の代謝及び代謝阻害; 薬物代謝に関与する主な代謝酵素の一つであるシトクロム P450 について説明し、シトクロム P450 と不可逆的に反応して複合体を形成し CYP を不活性化する阻害がもたらす影響について説明する。
9	吉門 崇	薬物速度論	薬物速度論の基礎と 1-コンパートメントモデルを用いた血中濃度解析と最適投与計画への応用
10	千葉 康司	生理学的モデル	クリアランスコンセプトと生理学的モデルを理解する。
11	千葉 康司	薬物相互作用	クリアランスコンセプトによる薬物相互作用の予測について習得する。
12	友田 有加菜	薬物相互作用 (2)	生理学的モデルによる薬物相互作用の予測について習得する。
13	友田 有加菜	生理学モデル応用	肝臓の細胞レベルと腎臓の細胞レベルを生理学的モデルに組み込む。
14	飯田 理文	モーメント解析	モーメント解析法について習得する。
15	千葉 康司	生物学的同等性	生物学的同等性試験の実際について習得する。

薬科学大学院特別講義

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：創薬コース科目 年次：1 開講期：通年 入学年度：2025 年 単位：1

庄司 満（専任教授）、埴岡 伸光（専任教授）、岡 美佳子（専任教授）、千葉 康司（専任教授）、梅原 薫（専任教授）

■ 授業形式

A 講義型・ディスカッション型

■ 評価方法

受講状況および受講時設定課題に対するレポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

外部からの招聘講師による「特別セミナー」において、各研究領域の第一線の研究に関する講演を他の専攻とともに聴講し、積極的な質疑を行う。その後、「①新規性は何か、②創薬の探索段階（化合物スクリーニングや分子設計など）で重視された点は何か、③医薬品開発の非臨床段階での重要な点は何か、④橋渡し研究の内容と成果は何か、⑤社会へのインパクトはどのようなものか」について薬科学専攻でグループ討論を行う。これらを通じて、各自および周囲の研究テーマへの理解を深めるとともに、基礎科学技術の集約である医薬品そのものから生体の統合システムまで、創薬・医薬品開発に貢献するための幅広い分野の知識の充実に図る。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	創薬化学領域・庄司 満ほか	創薬化学セミナー	創薬化学領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答
2	創薬化学領域・庄司 満ほか	創薬化学セミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成
3	ライフサイエンス領域・岡 美佳子ほか	ライフサイエンスセミナー	ライフサイエンス領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答
4	ライフサイエンス領域・岡 美佳子ほか	ライフサイエンスセミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成
5	ヘルスサイエンス領域・埴岡 伸光ほか	ヘルスサイエンスセミナー	ヘルスサイエンス領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答
6	ヘルスサイエンス領域・埴岡 伸光ほか	ヘルスサイエンスセミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成
7	臨床薬学領域・千葉 康司ほか	臨床薬学セミナー	臨床薬学領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答
8	臨床薬学領域・千葉 康司ほか	臨床薬学セミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成
9	漢方薬学領域・梅原 薫ほか	漢方薬学セミナー	漢方薬学領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答
10	漢方薬学領域・梅原 薫ほか	漢方薬学セミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成

漢方薬学特論

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：漢方コース科目 年次：1 開講期：前期 入学年度：2025 年 単位：2 統括責任者：喩 静 科目担当責任者：喩 静 実務経験のある教員等による授業科目：該当する
喩 静（専任教授）、金 成俊（専任教授）、梅原 薫（専任教授）、李 宜融（専任教授）、榊原 巖（兼任）、飯塚 徹（兼任）、五十鈴川 和人（兼任）、稲垣 善則（兼任）

■ 授業形式

A 講義型・ディスカッション型

■ 評価方法

レポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

漢方の専門教育・研究を充実する一方で、薬学全体を俯瞰できる総合的な講義内容とした。漢方専門分野の中から複数の異なる視点から方法論を見出し、統合的視野、柔軟な探求精神及び総合的判断力を備え、これからの学問的及び社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。本講義は、漢方の基礎理論や代表的な漢方処方を中心に講義する。漢方製剤に関する現代科学的なエビデンスも徐々に蓄積され、新たな有効性も見出されている。本特論では、それら最新の情報を紹介するとともに漢方研究の手法も併せて講義する。講義の構成は、座学のみではなく、e-ラーニングを使用した反転授業を取り入れ、双方向の参加型講義形式を採用する。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	金 成俊	漢方の歴史 1	中国医学・韓国医学の歴史について学ぶ。
2	金 成俊	漢方の歴史 2	日本漢方の歴史について学ぶ。
3	梅原 薫	漢方の歴史 3	アジア周辺国の伝承医学について学ぶ。
4	李 宜融	生薬品質の評価	漢方における生薬とは何か。その品質評価の意義を学ぶ。
5	飯塚 徹	漢方理論 1	気血水、五臓の基本的な考え方を学ぶ。
6	五十鈴川 和人	漢方理論 2	八綱・六経の基本的な考え方を学ぶ。
7	稲垣 善則	漢方理論 3	現代科学的なエビデンスから漢方理論を考察する。
8	喩 静	漢方診断の基礎 1	望聞問切の診断法の基本を学ぶ。
9	喩 静	漢方診断の基礎 2	弁証法の基本的な考え方を学ぶ。
10	喩 静	漢方診断の基礎 3	随証治療の基本的な考え方を学ぶ。
11	榊原 巖	漢方方剤論 1	基本方剤の分類と効能について学ぶ。
12	榊原 巖	漢方方剤論 2	理気剤と活血剤の種類と効能を理解する。
13	榊原 巖	漢方方剤論 3	利水剤の種類と効能を理解する。
14	榊原 巖	漢方方剤論 4	補剤と瀉剤の種類と効能を理解する。
15	喩 静（外部講師）	漢方の臨床応用&総合討論	臨床における漢方応用状況、講義の総括または総合討論を行う。

漢方・統合医療薬学特論

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：漢方コース科目 区分 2：必修 年次：1 開講期：後期
 入学年度：2024 年 単位：2 統括責任者：喩 静 科目担当責任者：喩 静

喩 静（専任教授），梅原 薫（専任教授），伊藤 亜希（兼担准教授），榊原 巖（兼担），五十鈴川 和人（兼担），清原 寛章（兼担）

■ 授業形式

A 講義型・ディスカッション型

■ 評価方法

レポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

漢方・統合医療薬学特論は漢方の専門教育・研究を充実する一方で、薬学全体を俯瞰できる総合的な講義内容とした。漢方専門分野の中から複数の異なる視点から方法論を見出し、統合的視野、柔軟な探求精神及び総合的判断力を備え、これからの学問的及び社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。本講義は、21世紀の高齢社会において、漢方治療は現代医療と相互補完の形で応用され、漢方製剤の需要はますます高まっていく。本特論では、漢方薬学の応用面を重視し、オムニバス形式で、広範囲にまたがる専門知識と、現代医療における漢方の役割についても講義する。講義の構成は、座学のみではなく、e-ラーニングを使用した反転授業を取り入れ、双方向の参加型講義形式を採用する。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	榊原 巖	漢方方剂論 1	理気剤及び活血剤の種類と適応病症について学ぶ。
2	榊原 巖	漢方方剂論 2	利水剤の種類と適応病症について学ぶ。
3	榊原 巖	漢方方剂論 3	補剤と瀉剤の種類と適応病症について学ぶ。
4	喩 静	漢方診断法 1	四診による診断法の基礎を学ぶ。
5	喩 静	漢方診断法 2	弁証論治の実践を学ぶ。
6	喩 静	漢方診断法 3	随証治療の実践を学ぶ。
7	伊藤 亜希	現代医療における漢方 1	急性熱性疾患に用いる漢方処方について学ぶ。
8	伊藤 亜希	現代医療における漢方 2	消化器領域に用いる漢方処方について学ぶ。
9	五十鈴川 和人	現代医療における漢方 3	がん領域に用いる漢方処方について学ぶ。
10	清原 寛章（伊藤）	現代医療における漢方 4	漢方医学理論の現代医学的解釈について学ぶ
11	清原 寛章（伊藤）	現代医療における漢方 5	漢方薬の標的組織の小腸パイエル板への作用から漢方薬の作用の特徴について学ぶ
12	榊原 巖	漢方の経済的側面	漢方の経済面での優位性事例について学ぶ。
13	梅原 薫	漢方研究の方法論 1	漢方研究の化学的な面からのアプローチについて学ぶ。
14	清原 寛章（伊藤）	漢方研究の方法論 2	漢方研究の薬理学的な面からのアプローチについて学ぶ。
15	喩 静（外部講師）	総合討論	講義の総括と総合討論として発表を行う。

漢方薬学・生薬学臨床演習

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：漢方コース科目 年次：2 開講期：通年 入学年度：入学年度共通 単位：1 統括責任者：喻 静 科目担当責任者：喻 静

喻 静（専任教授）、金 成俊（専任教授）、李 宜融（専任教授）、伊藤 亜希（兼担准教授）、梅原 薫（専任教授）

■ 授業形式

A 講義型・ディスカッション型

■ 評価方法

レポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

漢方・統合医療薬学特論は漢方の専門教育・研究を充実する一方で、薬学全体を俯瞰できる総合的な講義内容とした。漢方専門分野の中から複数の異なる視点から方法論を見出し、統合的視野、柔軟な探求精神及び総合的判断力を備え、これからの学問的及び社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。本講義は、21世紀の高齢社会において、漢方治療は現代医療と相互補完の形で応用され、漢方製剤の需要はますます高まっていく。本演習では、漢方調剤の実習を通し、漢方調剤の手技の修得及び漢方医療の現状視察など、広範囲にまたがる漢方調剤に関する専門知識と手技の修得を目指す。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	李 宜融	生薬品質評価	生薬の鑑別法について学ぶ。
2	金 成俊	漢方製剤の剤形	漢方製剤の剤形の種類について学ぶ。
3	金 成俊	生薬の生産・加工	漢方製剤の構成生薬である生薬の生産・加工方法について学ぶ。
4	喻 静 (梅原 薫)	漢方医療機関の視察	漢方調剤薬局を視察し、医療現場の現状を理解する。
5	伊藤 亜希	漢方調剤実習 1	漢方調剤実習として散剤の調製を体験する。
6	伊藤 亜希	漢方調剤実習 2	漢方調剤実習として丸剤の調製を体験する。
7	喻 静	漢方調剤実習 3	漢方調剤実習として湯液剤の調製を体験する。
8	金 成俊	漢方調剤実習 4	漢方調剤実習として軟膏剤の調製を体験する。
9	喻 静 (梅原 薫)	漢方製剤企業の視察	漢方製剤の製造現場を視察し、現状を理解する。
10	喻 静 梅原 薫 金 成俊 李 宜融 伊藤 亜希	総合討論	演習の総括と総合討論として発表を行う。

薬科学研究論文（創薬化学領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：必修科目 年次：1・2 開講期：通年 単位：4

庄司 満（専任教授）、波多江 典之（専任教授）、塚本 裕一（専任教授）、鰐淵 清史（専任准教授）、横江 弘雅（専任准教授）

■ 授業形式

D 演習型

■ 評価方法

論文調査態度、論文紹介発表会での発表内容および口頭試問に対する回答、レポート内容进行评估する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
庄司 満 波多江 典之 塚本 裕一 鰐淵 清史 横江 弘雅	<p>研究論文をまとめる能力を修得するために自分自身の研究に関連する文献を収集し、その内容及び背景となる事実を十分理解し、自分自身の研究へ応用する能力を養う。収集した文献の内容、関連する情報をよく理解しまとめて、プレゼンテーションを行う。その際、文献の研究内容を多角的に評価し、その評価内容に関して他の参加者と議論する。議論した内容を基にプレゼンテーションを修正し、自らの学会での発表または論文化を念頭に自分の研究に何が不足しているかについてまとめ、プレゼンテーションを行う。他の発表者の内容と比べ、自分の発表を振り返り、相違点について他の参加者と議論する。得られた文献、他の発表者の意見および自分の研究の結果についてまとめる。</p> <p>各研究指導教員が、それぞれ以下の15項目を、現状の課題研究について15コマで実施し、次に、課題研究の発展または新規テーマについて15コマを繰り返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献収集1：各課題研究領域における文献について検索し、必要なものを抽出する。 ・文献収集2：各課題研究領域における文献を読み、内容をまとめ、大学院生各自の研究課題の位置づけについてまとめる。 ・文献収集3：文献収集2についてまとめたものを発表し、他の発表者のものと比較し、議論した上で各自のまとめを修正する。 ・文献収集4：各課題研究領域における文献について検索し、得られた知識をもとに最新の研究概要を把握する。 ・文献収集5：各課題研究領域における文献を読み、得られた知識に照らし内容の詳細をまとめ、各自の研究課題の位置づけについてまとめる。 ・文献収集6：文献収集5についてまとめたものを発表し、他の発表者のものと比較した上で議論し、各自のまとめを修正する。 ・文献情報の評価1：調査した原著論文のなかで、最も悪いと思われるものを選び、根拠論文または資料を添付しながら評価する。 ・文献情報の評価2：調査した原著論文のなかで、最も良いと思われるものを選び、根拠論文または資料を添付しながら評価する。 ・文献情報の評価3：文献情報の評価1および2についてまとめたものを発表し、他の発表者のものと比較した上で議論し、各自のまとめを修正する。 ・文献情報の活用1：調査した文献と自分の研究計画または研究成果を比較し、自分の研究計画の新規性についてまとめる。 ・文献情報の活用2：自分の研究計画を発表するとともに、他の参加者の発表内容进行评估し、自分のものと比較した上で、自分の発表内容を修正する。 ・文献情報の活用3：学会発表または論文化を想定し、今まで得られている結果と今後の計画の妥当性について、根拠論文を示しながらまとめる。 ・文献情報の活用4：文献情報の活用3で得られた情報をもとに、研究計画の実現性について、根拠資料を示しながらまとめる。 ・文献情報の活用5：自分のまとめを発表するとともに、他の参加者の発表内容进行评估し、自分のものと比較した上で、自分の発表内容を修正する。 ・文献情報の総括：自分の課題研究について、和文で論文を作成する。

薬科学研究論文（ライフサイエンス領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：必修科目 年次：1・2 開講期：通年 入学年度：2025 年・2024 年 単位：4

岡 美佳子（専任教授）、田邊 由幸（専任教授）、川嶋 剛（専任教授）、川嶋 芳枝（専任教授）、出雲信夫（専任教授）、松岡 秀忠（専任准教授）、高橋 哲史（専任准教授）、西崎 有利子（専任准教授）、浅井 将（専任准教授）

■ 授業形式

D 演習型

■ 評価方法

論文調査態度、論文紹介発表会での発表内容および口頭試問に対する回答、レポート内容を評価する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
岡 美佳子 田邊 由幸 川嶋 剛 川嶋 芳枝 出雲 信夫 松岡 秀忠 高橋 哲史 西崎 有利子 浅井 将	<p>研究論文をまとめる能力を修得するために自分自身の研究に関連する文献を収集し、その内容及び背景となる事実を十分理解し、自分自身の研究へ応用する能力を養う。収集した文献の内容、関連する情報をよく理解しまとめて、プレゼンテーションを行う。その際、文献の研究内容を多角的に評価し、その評価内容に関して他の参加者と議論する。議論した内容を基にプレゼンテーションを修正し、自らの学会での発表または論文を念頭に自分の研究に何が不足しているかについてまとめ、プレゼンテーションを行う。他の発表者の内容と比べ、自分の発表を振り返り、相違点について他の参加者と議論する。得られた総説、原著論文、他の発表者の意見および自分の研究の結果についてまとめる。</p> <p>各研究指導教員が、それぞれ以下の 15 項目を、現状の課題研究について 15 コマで実施し、次に、課題研究の発展または新規テーマについて 15 コマを繰り返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献収集 1：各課題研究領域における総説について文献検索し、必要と思われる総説を抽出する。 ・文献収集 2：各課題研究領域における総説を読み、内容をまとめ、大学院生各自の研究課題の位置づけについてまとめる。 ・文献収集 3：文献収集 2 についてまとめたものを発表し、他の発表者のものと比較し、議論した上で各自のまとめを修正する。 ・文献収集 4：各課題研究領域における原著について文献検索し、総説で得られた知識をもとに最新の研究概要を把握する。 ・文献収集 5：各課題研究領域における原著を読み、総説で得られた知識に照らし内容の詳細をまとめ、各自の研究課題の位置づけについてまとめる。 ・文献収集 6：文献収集 5 についてまとめたものを発表し、他の発表者のものと比較した上で議論し、各自のまとめを修正する。 ・文献情報の評価 1：調査した原著論文のなかで、最も悪いと思われるものを選び、根拠論文または資料を添付しながら評価する。 ・文献情報の評価 2：調査した原著論文のなかで、最も良いと思われるものを選び、根拠論文または資料を添付しながら評価する。 ・文献情報の評価 3：文献情報の評価 1 および 2 についてまとめたものを発表し、他の発表者のものと比較した上で議論し、各自のまとめを修正する。 ・文献情報の活用 1：調査した総説および原著論文と自分の研究計画または研究果を比較し、自分の研究計画の新規性についてまとめる。 ・文献情報の活用 2：自分のまとめを発表するとともに、他の参加者の発表内容を評価し、自分のものと比較した上で、自分発表内容を修正する。 ・文献情報の活用 3：学会発表または論文を想定し、今まで得られている結果と今後の計画の妥当性について、根拠論文を示しながらまとめる。 ・文献情報の活用 4：文献情報の活用 3 にて得られた情報をもとに、研究計画の実現性について、根拠資料を示しながらまとめる。 ・文献情報の活用 5：自分のまとめを発表するとともに、他の参加者の発表内容を評価し、自分のものと比較した上で、自分の発表内容を修正する。 ・文献情報の総括：自分の課題研究について、和文で論文を作成する。

薬科学研究論文（ヘルスサイエンス領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：必修科目 年次：1・2 開講期：通年 単位：4

速水 耕介（専任教授）、曾根 秀子（専任教授）、河村 伊久雄（専任教授）、三浦 伸彦（専任教授）、香川 聡子（専任教授）、越智 定幸（専任教授）、埴岡 伸光（専任教授）、大河原 晋（専任教授）、磯部 隆史（専任准教授）、高橋 栄造（専任准教授）

■ 授業形式

D 演習型

■ 評価方法

論文調査態度、論文紹介発表会での発表内容および口頭試問に対する回答、レポート内容の評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

衛生薬学領域における研究論文を論理的に纏める能力を習得することを目的とする。そのために、各自の研究に関連する文献を収集し、その内容および背景となる事実を理解し、研究遂行に必要な能力を養う。収集した文献の内容および関連する情報を多角的に理解・考察して、プレゼンテーションを行い、教員および他学生と議論する。それらのプレゼンテーションおよび議論に基づいて、学会での発表または論文に纏めることを念頭に置いて、遂行している研究の自己評価を行い、議論を重ねる。これらのトレーニングを繰り返して、自身の研究の進展を図る。

■ 授業計画表

担当教員	内容
速水 耕介 香川 聡子 河村 伊久雄 曾根 秀子 越智 定幸 大河 原晋 埴岡 伸光 三浦 伸彦 高橋 栄造 磯部 隆史	<p>各研究指導教員が、それぞれ以下の 15 項目を、現状の課題研究について 15 コマで実施し、次に、課題研究の発展または新規テーマについて 15 コマを繰り返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献収集 1：各課題研究領域における総説を検索し、各自の研究課題に関連する総説を抽出する。 ・文献収集 2：各課題研究領域における総説を読み、各自の研究課題の位置づけを理解する。 ・文献収集 3：文献収集 2 において読んだ論文の内容を整理し、纏めて指導教員と議論する。 ・文献収集 4：文献収集 3 に基づいて、指導教員および他学生に対してプレゼンテーションを行い、議論する。 ・文献収集 5：総説で得られた知識に基づいて各研究課題に関連する原著論文を検索し、それらの研究概要を理解する。 ・文献収集 6：各研究課題に関連する原著論文を読み、各自の研究課題の位置づけを理解するとともに論文の内容を整理し、纏める。 ・文献収集 7：文献収集 6 で纏めた内容について、指導教員および他学生に対してプレゼンテーションを行い、議論する。 ・文献情報の評価 1：調査した原著論文のなかで、最も良いおよび悪いと思われるものを選び、根拠論文または資料を添付しながら評価する。 ・文献情報の評価 2：文献情報の評価 1 について、それぞれの内容を整理し、纏めて指導教員と議論する。 ・文献情報の評価 3：文献情報の評価 2 に基づいて、指導教員および他学生に対してプレゼンテーションを行い、議論する。 ・文献情報の活用 1：調査した総説および原著論文と自身の研究計画あるいは研究成果を比較し、各自研究課題の目的および計画の新規性について纏める。 ・文献情報の活用 2：文献情報の活用 1 において纏めたものを指導教員および他学生に対してプレゼンテーションを行い、議論する。 ・文献情報の活用 3：学会発表あるいは論文執筆を想定し、今まで得られている結果と今後の計画の妥当性について、根拠論文を示して纏める。 ・文献情報の活用 4：文献情報の活用 1～3 に基づいて、指導教員および他学生に対してプレゼンテーションを行い、議論する。 ・文献情報の総括：自身の課題研究について、和文で論文を作成する。

薬科学研究論文（臨床薬学領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：必修科目 年次：1・2 開講期：通年 単位：4

千葉 康司（専任教授）、山田 博章（専任教授）、岡田 賢二（専任教授）、小出 彰宏（専任教授）、飯田 理文（専任教授）、岩瀬 由未子（専任准教授）、吉門 崇（専任准教授）、田口 真穂（専任准教授）、矢野 健太郎（専任准教授）

■ 授業形式

D 演習型

■ 評価方法

論文調査態度、論文紹介発表会での発表内容および口頭試問に対する回答、レポート内容进行评估する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
千葉 康司 山田 博章 岡田 憲二 小出 彰宏 飯田 理文 岩瀬 由未子 吉門 崇 田口 真穂 矢野 健太郎	<p>研究論文をまとめる能力を修得するために自分自身の研究に関連する文献を収集し、その内容及び背景となる事実を十分理解し、自分自身の研究へ応用する能力を養う。収集した文献の内容、関連する情報をよく理解しまとめて、プレゼンテーションを行う。その際、文献の研究内容を多角的に評価し、その評価内容に関して他の参加者と議論する。議論した内容を基にプレゼンテーションを修正し、自らの学会での発表または論文発表を念頭に自分の研究に何が不足しているかについてまとめ、プレゼンテーションを行う。他の発表者の内容と比べ、自分の発表を振り返り、相違点について他の参加者と議論する。得られた総説、原著論文、他の発表者の意見および自分の研究の結果についてまとめる。</p> <p>各研究指導教員が、それぞれ以下の15項目を、現状の課題研究について15コマで実施し、次に、課題研究の発展または新規テーマについて15コマを繰り返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献収集1：各課題研究領域における総説について文献検索し、必要と思われる総説を抽出する。 ・文献収集2：各課題研究領域における総説を読み、内容をまとめ、大学院生各自の研究課題の位置づけについてまとめる。 ・文献収集3：文献収集2についてまとめたものを発表し、他の発表者のものと比較し、議論した上で各自のまとめを修正する。 ・文献収集4：各課題研究領域における原著について文献検索し、総説で得られた知識をもとに最新の研究概要を把握する。 ・文献収集5：各課題研究領域における原著を読み、総説で得られた知識に照らし内容の詳細をまとめ、各自の研究課題の位置づけについてまとめる。 ・文献収集6：文献収集5についてまとめたものを発表し、他の発表者のものと比較した上で議論し、各自のまとめを修正する。 ・文献情報の評価1：調査した原著論文のなかで、最も悪いと思われるものを選び、根拠論文または資料を添付しながら評価する。 ・文献情報の評価2：調査した原著論文のなかで、最も良いと思われるものを選び、根拠論文または資料を添付しながら評価する。 ・文献情報の評価3：文献情報の評価1および2についてまとめたものを発表し、他の発表者のものと比較した上で議論し、各自のまとめを修正する。 ・文献情報の活用1：調査した総説および原著論文と自分の研究計画または研究成果を比較し、自分の研究計画の新規性についてまとめる。 ・文献情報の活用2：自分のまとめを発表するとともに、他の参加者の発表内容を評価し、自分のものと比較した上で、自分発表内容を修正する。 ・文献情報の活用3：学会発表または論文発表を想定し、今まで得られている結果と今後の計画の妥当性について、根拠論文を示しながらまとめる。 ・文献情報の活用4：文献情報の活用3にて得られた情報をもとに、研究計画の実現性について、根拠資料を示しながらまとめる。 ・文献情報の活用5：自分のまとめを発表するとともに、他の参加者の発表内容を評価し、自分のものと比較した上で、自分の発表内容を修正する。 ・文献情報の総括：自分の課題研究について、和文で論文を作成する。

薬科学研究論文（漢方薬学領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：必修科目 年次：1・2 開講期：通年 単位：4

喻 静（専任教授）、梅原 薫（専任教授）、李 宜融（専任教授）

■ 授業形式

D 演習型

■ 評価方法

論文調査態度、論文紹介発表会での発表内容及び口頭試問に対する回答、レポート内容を評価する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
喻 静 梅原 薫 李 宜融	<p>研究論文をまとめる能力を修得するために自分自身の研究に関連する文献を収集し、その内容及び背景となる事実を十分理解し、自分自身の研究へ応用する能力を養う。収集した文献の内容及び関連する情報をよく理解しまとめて、プレゼンテーションを行う。その際、文献の研究内容を多角的に評価し、その評価内容に関して他の参加者と議論する。議論した内容を基にプレゼンテーションを修正し、自らの学会での発表または論文を念頭に自分の研究に何が不足しているかについてまとめ、プレゼンテーションを行う。他の発表者の内容と比べ、自分の発表を振り返り、相違点について他の参加者と議論する。得られた総説、原著論文、他の発表者の意見及び自分の研究の結果についてまとめる。</p> <p>各研究指導教員が、それぞれ以下の15項目を、現状の課題研究について15コマで実施し、次に、課題研究の発展または新規テーマについて15コマを繰り返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献収集1：各課題研究領域における総説について文献検索し、必要と思われる総説を抽出する。 ・文献収集2：各課題研究領域における総説を読み、内容をまとめ、大学院生各自の研究課題の位置づけについてまとめる。 ・文献収集3：文献収集2についてまとめたものを発表し、他の発表者のものと比較し、議論した上で各自のまとめを修正する。 ・文献収集4：各課題研究領域における原著について文献検索し、総説で得られた知識をもとに最新の研究概要を把握する。 ・文献収集5：各課題研究領域における原著を読み、総説で得られた知識に照らし内容の詳細をまとめ、各自の研究課題の位置づけについてまとめる。 ・文献収集6：文献収集5についてまとめたものを発表し、他の発表者のものと比較した上で議論し、各自のまとめを修正する。 ・文献情報の評価1：調査した原著論文のなかで、最も悪いと思われるものを選び、根拠論文または資料を添付しながら評価する。 ・文献情報の評価2：調査した原著論文のなかで、最も良いと思われるものを選び、根拠論文または資料を添付しながら評価する。 ・文献情報の評価3：文献情報の評価1および2についてまとめたものを発表し、他の発表者のものと比較した上で議論し、各自のまとめを修正する。 ・文献情報の活用1：調査した総説および原著論文と自分の研究計画または研究成果を比較し、自分の研究計画の新規性についてまとめる。 ・文献情報の活用2：自分のまとめを発表するとともに、他の参加者の発表内容を評価し、自分のものと比較した上で、自分発表内容を修正する。 ・文献情報の活用3：学会発表または論文を想定し、今まで得られている結果と今後の計画の妥当性について、根拠論文を示しながらまとめる。 ・文献情報の活用4：文献情報の活用4にて得られた情報をもとに、研究計画の実現性について、根拠資料を示しながらまとめる。 ・文献情報の活用5：自分のまとめを発表するとともに、他の参加者の発表内容を評価し、自分のものと比較した上で、自分の発表内容を修正する。 ・文献情報の総括：自分の課題研究について、和文で論文を作成する。

課題研究（創薬化学領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：必修科目 年次：1・2 開講期：通年 単位：16

庄司 満（専任教授）、波多江 典之（専任教授）、塚本 裕一（専任教授）、鰐淵 清史（専任准教授）、横江 弘雅（専任准教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

研究態度、課題研究成果発表会での発表内容及び口頭試問に対する回答、中間報告並びに学位論文の内容を評価する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
庄司 満	創薬における前臨床研究、特に医薬シーズの探索研究に必要な、生理活性化合物の効率的供給について研究する。具体的には、有機合成化学を活用した標的化合物のデザインと合成研究を行う。国内外の英文学術雑誌への論文投稿と学会発表を目標とする。
波多江 典之	分子認識に基づいた薬物設計と有機合成により、実践的創薬について研究する。具体的には、計算機科学を用いた構造解析による分子設計、設計された分子の効率的合成法の開発、得られた化合物の活性評価と構造のリファインメントにより、生体内反応を制御する分子を創生することで、体系的な創薬研究を実践する。また得られた成果は、国内外の英文学術雑誌（査読付き）への投稿と、専門学会への発表により、高度な科学的専門性をもって問題を提示・解決する能力を醸成する。
塚本 裕一	創薬のシーズとなる生物活性物質を有機合成化学により供給し、構造－活性相関研究を行うことで、その活性部位を明らかとする。特に、生物活性分子中に含まれる環状構造に着目し、遷移金属触媒および有機触媒を活用したエナント選択的構築法を開発する。
鰐淵 清史	有機合成化学及び生物分子化学的手法を用い、生物活性物質と受容体との特異的相互作用の解明を研究する。具体的には、標的とする生物活性物質とその類縁体を合成するとともに、受容体との相互作用の解析について研究する。
横江 弘雅	生物活性の詳細が解明されていない希少な天然有機化合物を対象として、新規医薬品シーズの開発に向けた基礎的研究を行う。これらの化合物の中でも、特に縮環系の複雑な構造や多数の立体中心など、特徴的な分子構造をもつものを対象として、その効率的な合成法を開発し、薬理活性試験に耐えうる十分な量的供給を行う。同時に、標的化合物の生物活性の解明、その非天然型類縁体の創製を行い、新規性の高い医薬品シーズを開発する。査読付き学術論文投稿および学会での研究発表を目標とする。

課題研究（ライフサイエンス領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：必修科目 年次：1・2 開講期：通年 入学年度：2025 年・2024 年 単位：16

岡 美佳子（専任教授）、田邊 由幸（専任教授）、川嶋 剛（専任教授）、川嶋 芳枝（専任教授）、出雲 信夫（専任教授）、松岡 秀忠（専任准教授）、高橋 哲史（専任准教授）、西崎 有利子（専任准教授）、浅井 将（専任准教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

研究態度、課題研究成果発表会での発表内容および口頭試問に対する回答、中間報告および学位論文の内容を評価する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
岡 美佳子	組織や細胞の機能が正常であるためには、遺伝子の発現、分子間の相互作用、細胞-細胞間相互作用など全ての段階で細かく制御されている。そしてどの段階が崩れても疾病が発症する。神経や水晶体などを用い、正常な機能維持機構、うつ、アルツハイマー、白内障など疾病の発症機序、予防薬の探索などをモデル細胞、モデル動物を用い分子生物学的手法、組織学的手法で探索、解析、研究を行う。
田邊 由幸	循環器系疾患および代謝内分泌系疾患研究のための基本的方法論として、各種分析手法、初代培養・株化細胞への遺伝子導入と遺伝子発現解析等の基礎技術に習熟した上で、病態血管や肥大化脂肪組織における血管平滑筋細胞・内皮細胞・脂肪細胞・マクロファージの細胞分化と相互作用、メカニカルストレスの役割ならびに薬物制御に関する実験を指導する。
川嶋 剛	生物が正常な構造と機能を維持するためには、ゲノムにコードされた遺伝子群の中から適切な遺伝子を選択する転写調節が重要な制御段階である。転写制御機構と疾患の発症の関連を理解するために、真核生物型転写制御機構を有する古細菌を用いて真核生物型転写制御様式の祖先系を、分子生物学的手法、生物情報科学的手法により解析する。
川嶋 芳枝	個体発生、形態形成のメカニズムを分子から個体までの広い観点から解明することは、様々な疾患や発生異常の原因究明、再生医療分野の発展につながる。本研究課題では、脊椎動物の総排泄腔派生器官の形態形成機構の解明をめざして、複数のモデル生物を用いた比較発生的な解析により関与分子群を同定し、それらの分子群の器官形成における機能を、培養した細胞・組織・器官および個体を用いて解析する。
出雲 信夫	主に女性ホルモン（エストラジオール）に起因する精神疾患及び骨代謝疾患の発症機序、治療法について、実験動物モデルを用いて行動薬理学的手法、分子生物学的手法により探索する。さらに、神経様細胞や骨芽細胞様細胞などの培養細胞を用い、作用機序の解明を目指す。また、これらのモデルを用い、機能性物質や食品素材の新たな効果を解析し、臨床における予防医学につながる研究を行う。
松岡 秀忠	タンパク質の構造や機能を理解することは、生命活動の仕組みを解明することに繋がる。分子生物学的、細胞生物学的手法や顕微鏡によるバイオイメーjing技術を用いて、タンパク質の発現や活性、局在や相互作用の制御機構を解析し、正常な生命活動の仕組みを分子レベルで明らかにする。さらに、その破綻により生じる疾患（細胞・組織・器官の正常な構造や機能の破綻）の分子機構を解明する。
高橋 哲史	消化器は消化・吸収を司る重要な組織であるが、分子機構の詳細が明らかとなっていない疾患も多く存在する。培養細胞を用いた分子生物学的手法および実験動物モデルを用いた解析により、胃粘膜傷害や消化器がんなどの各種消化器疾患について、遺伝子多型と病態発症との関係を解析する。また、得られた解析結果を基に、消化器疾患を標的とした創薬研究を行う。
西崎 有利子	遺伝子が原因となる先天性疾病については、近年原因遺伝子の同定が進んできているが、その発症の分子メカニズムが明らかになっていないものも多い。そこで、ヒトの疾患原因遺伝子のマウスホモログについて、マウスの器官形成過程における発現解析や機能解析を、発生生物学的手法や分子生物学的・組織学的手法により行う。これらを通して、遺伝子の異常により器官発生に異常をきたすことで発症する分子メカニズムを明らかにし、将来的に、治療や症状改善の手がかりとなる知見を得ることを目指す。
浅井 将	アルツハイマー病はアンメット・メディカル・ニーズの高い代表疾患であり、原因仮説が提唱されたものの、根本的治療薬は臨床応用が始まったばかりである。そこで早期からアルツハイマー病を発症するダウン症者に着目し、トリソミーになっている 21 番染色体に存在するアルツハイマー病の増悪因子の機能を明らかにすることで、これまでとは異なる視点による新たな標的に対するアルツハイマー病の治療薬を創製する。また、関連する酵素（プロテアーゼやキナーゼなど）の生理的機能を追究することにより、皮膚の形態維持やウイルスや細菌の感染症などの疾患への応用を目指した研究を行う。

課題研究（ヘルスサイエンス領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分1：必修科目 年次：1・2 開講期：通年 入学年度：2025年・2024年 単位：16

速水 耕介（専任教授）、曾根 秀子（専任教授）、河村 伊久雄（専任教授）、三浦 伸彦（専任教授）、香川 聡子（専任教授）、越智 定幸（専任教授）、埴岡 伸光（専任教授）、大河原 晋（専任教授）、高橋 栄造（専任准教授）、磯部 隆史（専任准教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

研究態度、課題研究成果発表会での発表内容及び口頭試問に対する回答、中間報告ならびに学位論文の内容を評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

研究指導教員のサポートの下で、学際的な学識を基盤とした独創的で先駆的な衛生薬学に関わる研究を展開する。様々な新しい課題を自ら発見・解決する能力、教員との深い議論を通じて研究を遂行する能力、衛生薬学における深い見識に基づいて論理的に思考する能力を習得する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
速水 耕介	Evidence-Based Medicine（EBM）における疫学では、システマティックレビュー（SR）による評価が重要となる。SR には情報検索技術、統計学的な解析技術、医学・薬学的知識など多様なスキルが要求される。本課題研究では、実践的なテーマを通じて SR の基本技術の習得し、更に技術的な課題について研究活動を行う。
曾根 秀子	健康の維持と増進には、生活様式、環境、生物学的個人差を考慮にいたした予防法プレジジョンプリベンションが重要である。そのために、分子・細胞生物学や情報科学などの手法を用いて、環境や食品中の化学物質の生物応答性を理解し、健康の予防策を開発する。この研究を通じて、生体における毒性発現機構の初期応答が、発がん、生殖・発生やさまざまな慢性疾患の早期検出につながる道筋を提案する。その提案を可能とする人材の育成を行う。
河村 伊久雄	細胞内寄生菌とは、マクロファージに貪食されてもその殺菌機構に抵抗して細胞内で生存可能な菌の総称で、菌により細胞内動態は異なるが、感染宿主には共通して強い細胞性免疫反応が誘導され、それが感染防御の主体となる。本研究では、細胞内寄生菌の病原性と防御免疫誘導能の関係について解析を行い、菌の病原因子が防御免疫の誘導にどのように関与するかを明らかにしてきた。今後、さらにこれら病原因子による獲得抵抗性誘導の制御メカニズムを分子レベルで明らかにし、感染予防や治療法の開発を通して社会に貢献することを目指す。
三浦 伸彦	体内時計に制御される概日リズムにより、生体防御系も日内変動を示す。従って曝露時刻によって生体影響（毒性、効能）は大きく変わる。本研究では薬毒物の日内感受性時刻差を明確にし、毒性を抑える（或いは効能を上げる）時間帯を提案することでこれら物質を扱う人の健康を守る（或いは患者への薬効を上げる）ことを目的とする。また概日リズムは環境因子（光、化学物質）により攪乱されがんや生殖機能低下などの健康障害を誘発する。そこで概日リズム攪乱が及ぼす生体影響を把握し予防法を提案することで健康の維持増進を目指す。
香川 聡子	環境汚染物質などの有害化学物質の健康影響については未解明の部分が多い。有害化学物質の毒性発現機構及びその動物種差やヒト個体差のメカニズムを分子レベルで明かにする目的で、分子生物学的手法を用いた <i>in vitro</i> 評価系構築を目指す。
越智 定幸	下痢原性細菌による下痢症の疫学調査と下痢原性発現機序を研究する。経口感染する下痢原性細菌の環境汚染は下痢症アウトブレイクに関連する。多発する発展途上国の下痢症と原因菌による環境汚染の関係を分子疫学的解析から研究するとともに発症機序が不明な下痢原因菌の下痢発症機序の解明を目指し、細胞生物学的研究から生理活性毒性因子の同定及びその作用機序に関する基礎研究を行う。
埴岡 伸光	薬物代謝の見地から、食品と生活習慣病治療薬の相互作用に関する研究を遂行する。そのために、生活習慣病治療薬が代謝を受ける肝臓及び小腸の機能を想定した以下の研究を行う。1）薬物代謝酵素の発現及び機能の解析、2）人工薬物代謝酵素の作製、3）食品と生活習慣病治療薬の相互作用メカニズムの解明、4）食品と生活習慣病治療薬の相互作用の予測システムの構築。
大河原 晋	ヒトの生活が物質的に豊かになり、多くの化合物が我々の生活を取り巻くようになるのと併せて、環境汚染の原因物質も多様化・複雑化してきている。特別研究では、培養細胞や実験動物を用いて、有害化学物質が生体に及ぼす影響を分子レベルで解析し、「人々の健康を守り、増進させていくこと」を目標とした研究指導を行う。
高橋 栄造	下痢原性細菌の病原性と環境適応について、遺伝学的手法や分子生物学的手法を用いて研究を行う。細菌は環境に応じて性状を変化させ、環境に適応できたものが増殖、生存する。病原因子も様々な環境シグナルにより、巧妙に発現調節されている。細菌にとってはヒト体内も一つの生息環境であり、その環境を感知して病原因子を産生すると考えられる。発現調節機構 明らかにし、その発現抑制方法を検討する。病原因子の発現を抑制し、病原性を発揮させない治療法の開発を目指す。

担当教員	内容
磯部 隆史	内分泌かく乱作用を有すると疑われる化学物質はリストアップされ、調査・研究が行われているが、人の健康や生態系への影響を完全に把握するところまでは至っていない。酵素学的手法を用いた検討により体内動態並びに毒性発現メカニズムの解明を目指す。

課題研究（臨床薬学領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：必修科目 年次：1・2 開講期：通年 単位：16

千葉 康司（専任教授）、山田 博章（専任教授）、岡田 賢二（専任教授）、小出 彰宏（専任教授）、飯田 理文（専任教授）、岩瀬 由未子（専任准教授）、吉門 崇（専任准教授）、田口 真穂（専任准教授）、矢野 健太郎（専任准教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

研究態度、課題研究成果発表会での発表内容および口頭試問に対する回答、中間報告および学位論文の内容を評価する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
千葉 康司	医薬品開発においては薬効・副作用の予測精度が、その成功確率に大きな影響を及ぼす。本課程では、薬効・副作用の予測に影響を及ぼす要因を抽出し、さらにその変動より、医薬品に依存せず生体側に依存する変動を特定させた後、薬効・副作用の予測モデルを構築することを研究課題として研究指導を行う。
山田 博章	レギュラトリーサイエンスは、科学技術を最適な形で人間及び社会に調和させる科学である。本修士課程の特別研究においては、医薬品等の開発プロセス、承認申請・審査過程、製造販売後の安全対策等を題材に、社会薬学的な観点も含め、それらのレギュラトリーサイエンス的手法の効果や問題点について、各種報告書等やデータベースを利用して数値化し明らかにする。
岡田 憲二	ファーマコメトリクスの手法を用いて、医薬品の有効性および安全性を解析し既存の薬物療法を評価する。患者個別に適用可能な、有効性、安全性、経済性に優れた薬物療法を提案する。本研究では、主にハイリスク薬を対象に、母集団薬物動態（PK）および母集団薬物動態－薬力学（PK-PD）解析を行う。PK および PK-PD モデルを構築し、共変量探索により薬効および副作用の予測因子を特定する。構築モデルによるシミュレーションを実施し、薬物応答性の予測ツールの構築を目指す。
小出 彰宏	医薬品及び医療機器の開発、承認審査、製造販売後の安全対策では、レギュラトリーサイエンス（科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整する科学）的な考え方に基づいて様々な判断がなされている。医薬品や医療機器を取り巻く環境は年々変化しており、判断した当時と状況が大きく異なってくることもある。本研究では、種々のリアルワールドデータやインターネット上の公開情報などを利用して評価を行い、薬事関連課題を数値的に明確化するよう研究指導を行う。
飯田 理文	医薬品開発および適正使用に関して、データに基づいた評価・予測は医薬品開発の効率化やより安全な使用に貢献する。本過程では様々なデータのハンドリング方法を学ぶとともに、具体的にこれらが医薬品開発や適正使用に適応できるようにモデルベースでの評価・予測を行うことを研究課題として研究指導を行う。
岩瀬 由未子	経口投与は用量、剤型を比較的自由に選択できる安全性の高い投与経路である。しかしながら、薬物によっては難吸収性のため消化管から効率よく吸収できないため、難吸収性薬物は吸収性を増大させるため、個々に対応し開発に時間と費用がかけられている。そこで、人体に対する安全性が確立されている超音波を用いて、この超音波の音響化学的作用を利用した難吸収性薬物の消化管吸収増大を目的とした新規薬物送達システムの開発研究を行う。
吉門 崇	創薬および臨床の場において、医薬品や候補化合物の体内動態は、薬物代謝酵素やトランスポーターが関与する薬物相互作用や個人差（遺伝子多型や疾患等による機能変動）により変動し得る。本研究では、薬物のクリアランス概念を深く理解した上で、ヒトにおける体内動態の変動を定量的に解析する。一部のモデルパラメータは <i>in vitro</i> 試験により得る必要があるため、 <i>in vitro-in vivo</i> 予測のための方法論（臓器内濃度予測法等）も併せて構築する
田口 真穂	医薬品供給体制および医薬品の安全かつ適正な使用を目的とした薬学的管理に関わる機能等を題材とし、社会薬学的な観点を含めたレギュラトリーサイエンス的手法の効果や問題点を明らかにすることを目的に、各種のリアルワールドデータ（RWD）や公開情報等を利用して数値化し明らかにする。
矢野 健太郎	がん化学療法において薬物耐性の発現は重要な課題である。本研究では、臨床におけるがん薬物耐性能の発現あるいは耐性能の亢進を <i>in vitro</i> で再現し、このときの薬物排出系トランスポーターの輸送機能変動を明らかにすることを目的とした研究課題を設定し、研究指導を行う。

課題研究（漢方薬学領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士前期課程 区分 1：必修科目 年次：1・2 開講期：通年 単位：16

喻 静（専任教授）、梅原 薫（専任教授）、李 宜融（専任教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

研究態度、課題研究成果発表会での発表内容及び口頭試問に対する回答、中間報告並びに学位論文の内容を評価する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
喻 静	漢方医学の研究は、科学的手法を活用し進められており、多くの生薬の薬理作用が解明され、新たな医薬品の開発や難病の治療への応用が期待されている。本課程では、① <i>in vitro</i> および <i>in silico</i> で漢方薬の抗老化・抗ガン作用の機序を研究、②難病治療や抗ガン剤の副作用軽減への漢方応用を検討、③医薬データ解析により漢方薬の有害事象やリスクファクターを評価し、漢方医学と現代研究スキルを備えた人材の育成を目指す。
梅原 薫	多種多様な成分を擁する薬用植物や漢方処方の効果を理解するために、天然有機化合物の取り扱い法を修得する。様々な分離手法を用いた薬用植物成分の単離及び単離化合物の機器分析データ解析による構造決定の技術修得を通して、効果に関わりうる成分を提供すると共に、作用点解明に繋がる情報を提供出来る人材の育成を図る。
李 宜融	近年、代替医療として漢方医薬への関心が高まっている。そのため、生薬を始めとする本草学・資源学・修治学をテーマとし、以下の課題研究を行い、人材育成を図る。1) 資源多様性からの新たな医薬素材の応用探索、2) 生薬の真偽鑑別・優劣評価の研究、3) 伝統医薬の古典本草考証、4) 民族伝統薬物の調査研究、5) 修治における薬膳の相関性及び応用

博士後期課程

令和7(2025)年度 学 事 暦 博士後期日程1年次

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
4月			1	入学式 2 オリエンテーション	3	4	5	10月				1	2	3	① 4 一、二(pm.)
	6	7 ①	8 ①	9 ①	10	11 ①	12 ① 一(pm.)		5	6 ①	7	8	9	10	② 11 三、四(pm.)
	13	14 ②	15 ②	16 ②	17	18 ②	19 ② 二(pm.)		12	13	14	15	16	17	③ 18 五、六(pm.)
	20	21 ③	22 ③	23 ③	24	25 ③	26 ③ 三(pm.)		19	創立者記念日 20	21	22	23	24	④ 25 七、八(pm.)
	27	28 ④	29	30 ④	1	2 ④	3		26	27 ②	28	29	30	31	⑤ 1 九、十(pm.)
5月	4	5	6	7 ⑤	8	9 ⑤	10 ④ 四(pm.)	11月	2	3	4	5	6	7	⑥ 8 特別講義⑦⑧
	11	12 ⑤	13 ④	14 ⑥	15	16 ⑥	17 ⑤ 五(pm.)		9	10 ③	11	12	13	14	⑦ 15 十一、十二(pm.)
	18	19 ⑥	20 ⑤	21 ⑦	22	23 ⑦	24 ⑥ 特別講義①②		16	17 ④	18	19	20	21	⑧ 22 十三、十四(pm.)
	25	26 ⑦	27 ⑥	28 ⑧	29	30 ⑧	31 ⑦ 六(pm.)		23	24	25	26	27	28	⑨ 29 十五(pm.)
6月	1	2 ⑧	3 ⑦	4 ⑨	5	6 ⑨	7 ⑧ 七(pm.)	12月	30	1 ⑤	2	3	4	5	⑩ 6 補講
	8	9 ⑨	10 ⑧	11 ⑩	12	13 ⑩	14 ⑨ 八(pm.)		7	8 ⑥	9	10	11	12	⑪ 13 補講
	15	16 ⑩	17 ⑨	18 ⑪	19	20 ⑪	21 ⑩ 補講		14	15 ⑦	16	17	18	19	⑫ 20 補講
	22	23 ⑪	24 ⑩	25 ⑫	26	27 ⑫	28 ⑪ 補講		21	22 ⑧	23	24	25	26	⑬ 27 補講
	29	30 ⑫	1 補講	2 ⑬	3	4 ⑬	5 ⑫ 補講		28	29	30	31	1	2	3
7月	6	7 ⑬	8	9 ⑭	10	11 ⑭	12 ⑬ 健診pm	1月	4	5 ⑨	6	7	8	9	⑭ 10 特別講義⑨⑩
	13	14 ⑭	15 補講	16 ⑮	17	18 ⑮	19 ⑭ 補講		11	12	13	14	15	16	⑮ 17 補講
	20	21	22 補講	23 補講	24	25 補講	26 ⑮ 特別講義③④		18	19 ⑩	20	21	22	23	補講 24 補講
	27	28 ⑮	29 補講	30 補講	31	1 補講	2 補講		25	26 ⑪	27	28	29	30	補講 31 補講
8月	3	4 補講	5 補講	6 補講	7	8 補講	9 補講	2月	1	2 ⑫	3	4	5	6	補講 7 補講
	10	11	夏季休暇 12	13	14	15	16		8	9 ⑬	10	11	12	13	補講 14 補講
	17	18 補講	19 補講	20 補講	21	22 補講	23 補講		15	16 ⑭	17	18	19	20	補講 21 補講
	24	25 補講	26 補講	27 補講	28	29 補講	30 補講		22	23	24	25	26	27	補講 28 補講
	31	1 補講	2 補講	3 補講	4	5 補講	6 ⑮ 特別講義⑤⑥		1	2 ⑮	3	4	5	6	補講 7 補講
9月	7	8 補講	9 補講	10 補講	11	12 補講	13 補講	3月	8	9 補講	10	11	12	13	補講 14 補講
	14	15	16 補講	17 補講	18	19 補講	20 補講		15	16 補講	17	18	19	20	補講 21 補講
	21	22 補講	23	24 補講	25	26 補講	27 補講		22	23 補講	24	25	26	27	補講 28 補講
	28	29 補講	30 補講						29	30 補講	31				

令和7(2025)年度 学 事 暦 博士後期課程2年次

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
4月			1	入学式 2 オリエンテーション	3	4	5	10月				1	2	3	4
	6	7 ①	8	9	10	11 ①	12 ①		5	6 ①	7	8	9	10	11 漢方演習⑤⑥
	13	14 ②	15	16	17	18 ②	19 ②		12	13	14	15	16	17	18 一、二(pm.)
	20	21 ③	22	23	24	25 ③	26 ③		19	創立者記念日 20	21	22	23	24	25 三、四(pm.)
	27	28 ④	29	30	1	2 ④	3 ④		26	27 ②	28	29	30	31	1 漢方演習⑦⑧
5月	4	5	6	7	8	9 ⑤	10 ④	11月	2	3	4	5	6	7	8 五、六(pm.)
	11	12 ⑤	13	14	15	16 ⑥	17 ⑤		9	10 ③	11	12	13	14	15 七、八(pm.)
	18	19 ⑥	20	21	22	23 ⑦	24 ⑥		16	17 ④	18	19	20	21	22 九、十(pm.)
	25	26 ⑦	27	28	29	30 ⑧	31 ⑧ 漢方演習①②		23	24	25	26	27	28	29 漢方演習⑨⑩
6月	1	2 ⑧	3	4	5	6 ⑨	7 ⑧	12月	30	1 ⑤	2	3	4	5	6 十一、十二(pm.)
	8	9 ⑨	10	11	12	13 ⑩	14 ⑨		7	8 ⑥	9	10	11	12	13 十三、十四(pm.)
	15	16 ⑩	17	18	19	20 ⑪	21 ⑩		14	15 ⑦	16	17	18	19	20 十五(pm.)
	22	23 ⑪	24	25	26	27 ⑫	28 ⑪		21	22 ⑧	23	24	25	26	27 補講
	29	30 ⑫	1	2	3	4 ⑬	5 ⑫		28	29	30	31	1	2	3
7月	6	7 ⑬	8	9	10	11 ⑭	12 ⑬ 健診pm	1月	4	5 ⑨	6	7	8	9	10 補講
	13	14 ⑭	15	16	17	18 ⑮	19 ⑭ 漢方演習③④		11	12	13	14	15	16	17 補講
	20	21	22	23	24	25 補講	26 ⑮		18	19 ⑩	20	21	22	23	24 補講
	27	28 ⑮	29	30	31	1 補講	2 補講		25	26 ⑪	27	28	29	30	31 補講
8月	3	4 補講	5	6	7	8 補講	9 補講	2月	1	2 ⑫	3	4	5	6	7 補講
	10	11	夏季休暇 12	13	14	15	16		8	9 ⑬	10	11	12	13	14 補講
	17	18 補講	19	20	21	22 補講	23 補講		15	16 ⑭	17	18	19	20	21 補講
	24	25 補講	26	27	28	29 補講	30 補講		22	23	24	25	26	27	28 補講
	31	1 補講	2	3	4	5 補講	6 補講		1	2 ⑮	3	4	5	6	7 補講
9月	7	8 補講	9	10	11	12 補講	13 補講	3月	8	9 補講	10	11	12	13	14 補講
	14	15	16	17	18	19 補講	20 補講		15	16 補講	17	18	19	20	21 補講
	21	22 補講	23	24	25	26 補講	27 補講		22	23 補講	24	25	26	27	28 補講
	28	29 補講	30						29	30 補講	31				

令和7(2025)年度 学 事 暦 博士後期課程 3年次

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
4月			1	入学式 2 オリエンテーション	3	4	5	10月				1	2	3	4
	6	7 ①	8	9	10	11	12		5	6 ①	7	8	9	10	11
	13	14 ②	15	16	17	18	19		12	13	14	15	16	17	18
	20	21 ③	22	23	24	25	26		19	創立者記念日 20	21	22	23	24	25
	27	28 ④	29	30	1	2	3		26	27 ②	28	29	30	31	1
5月	4	5	6	7	8	9	10	11月	2	3	4	5	6	7	8
	11	12 ⑤	13	14	15	16	17		9	10 ③	11	12	13	14	15
	18	19 ⑥	20	21	22	23	24		16	17 ④	18	19	20	21	22
	25	26 ⑦	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
6月	1	2 ⑧	3	4	5	6	7		12月	30	1 ⑤	進捗発表会			
	8	9 ⑨	10	11	12	13	14	7		8 ⑥	9	10	11	12	13
	15	16 ⑩	17	18	19	20	21	14		15 ⑦	16	17	18	19	20
	22	23 ⑪	24	25	26	27	28	21		22 ⑧	23	24	25	26	27
	29	30 ⑫	1	2	3	4	5	28		29	30	31	1	2	3
7月	6	7 ⑬	8	9	10	11	12 健診pm	1月	4	5 ⑨	6	7	8	9	10
	13	14 ⑭	15	16	17	18	19		11	12	13	14	15	16	17
	20	21	22	23	24	25	26		18	19 ⑩	20	21	22	23	24
	27	28 ⑮	29	30	31	1	2 補講		25	26 ⑪	27	28	29	30	31 補講
8月	3	4 補講	5	6	7	8	9 補講	2月	1	2 ⑫	学位審査発表会				7 補講
	10	11	夏季休暇 12	13	14	15	16 補講		8	9 ⑬	10	11	12	13	14 補講
	17	18 補講	19	20	21	22	23 補講		15	16 ⑭	17	18	19	20	21
	24	25 補講	26	27	28	29	30 補講		22	23	24	25	26	27	28
	31	1 補講	2	3	4	5	6	3月	1	2 ⑮	3	4	5	6	7
7	レポート提出・単位認定								8	9 補講	10	11	12	13	14
14	15	16	17	18	19	20	15		16 補講	17	18	19	20	21	
21	22 補講	23	24	25	26	27	22		23	24	25	26	27	28	
28	29 補講	30					29		30	31					

科目配当表（2025年度） 博士後期課程

		2年次 2024年度入学		1年次 2025年度入学	
		前期	後期	前期	後期
自由科目 (共通選択)	隔年開講	ケミカルバイオロジー特論	食品衛生薬科学特論	ケミカルバイオロジー特論	食品衛生薬科学特論
	毎年開講			高度研究機器特別演習	
				モデリング・シミュレーション演習	
自由科目 (創薬コース)	隔年開講	システム生体機能学特論		システム生体機能学特論	
	毎年開講			創薬有機化学特論	分子生物学特論
自由科目 (漢方コース)	毎年開講	漢方薬学・生薬学演習	漢方薬学・生薬学演習	漢方薬学特論	漢方・統合医療薬学特論
必修科目				薬科学大学院特別講義	
		課題研究	課題研究	課題研究	課題研究

		3年次	
		前期	後期
必修科目		課題研究	課題研究

講 義 計 画 【薬科学専攻 博士後期課程】

2025年度入学（1年次） 2024年度入学（2年次）				2025年度入学（2年次）							
科 目 名		単位	前後	担 当 者		科 目 名		単位	前後	担 当 者	
（自由科目）						（自由科目）					
ケミカルバイオロジー特論		2	●	庄司 満、鰐淵 清史、 他（部外）		応用薬理学特論		2	●	田邊 由幸、小笹 徹、 千葉 康司、曾根 秀子、 松岡 秀忠、吉門 崇、 飯田 理文、藤田 融、他（部外）	
食品衛生薬科学特論		2	●	埴岡 伸光、 曾根 秀子、 河村 伊久雄、香川 聡子、 三浦 伸彦、 越智 定幸、 速水 耕介、 大河原 晋、 磯部 隆史、 高橋 栄造、 長嶋 大地		レギュラトリーサイエンス特論		2	●	小出 彰宏、千葉 康司、 速水 耕介、山田 博幸	
高度研究機器特別演習		1	●	岩瀬由未子、岡美佳子、川嶋 剛、 磯部隆史、吉門 崇、鰐淵清史、 川嶋芳枝、殿岡恵子、奥野義規							
モデリング・シミュレーション演習		1	●	千葉康司、岡田賢二、飯田理文、 友田有加菜							
創薬有機化学特論		2	■	庄司 満、 塚本 裕一、 鰐淵 清史、横江 弘雅		薬物動態学特論		2	■	岩瀬 由未子、千葉 康司、 飯田 理文、吉門 崇、	
分子生物学特論		2	■	川嶋 剛、岡 美佳子、 小笹 徹、川嶋 芳枝、 松岡 秀忠、高橋 哲史、 岡美 佳子、小笹 徹、							
システム生体機能学特論		2	■	田邊 由幸、川嶋 剛、 川嶋 芳枝、高橋 哲史、 松岡 秀忠、西崎 有利子、 浅井 将、住野 彰英							
漢方薬学特論		2	◆	喻 静、金 成俊、梅原 薫、 李 宜融、榊原 巖、飯塚 徹、 五十鈴川 和人、稲垣 善則		漢方薬学・生薬学臨床演習		1	◆◆	喻 静、金 成俊、李 宜融、 伊藤亜希、梅原 薫	
漢方・統合医療薬学特論		2	◆	榊原 巖、梅原 薫、伊藤亜希、 榊原 巖、五十鈴川和人、他（部 外）							
（必修科目）						（必修科目）					
薬科学大学院特別講義		1	○○	領域責任者							
課題研究		15	○○	研究指導教員		課題研究		15	○○	研究指導教員	

3 年 次				
科 目 名	単位	前	後	担 当 者
課題研究	15	○	○	研究指導教員

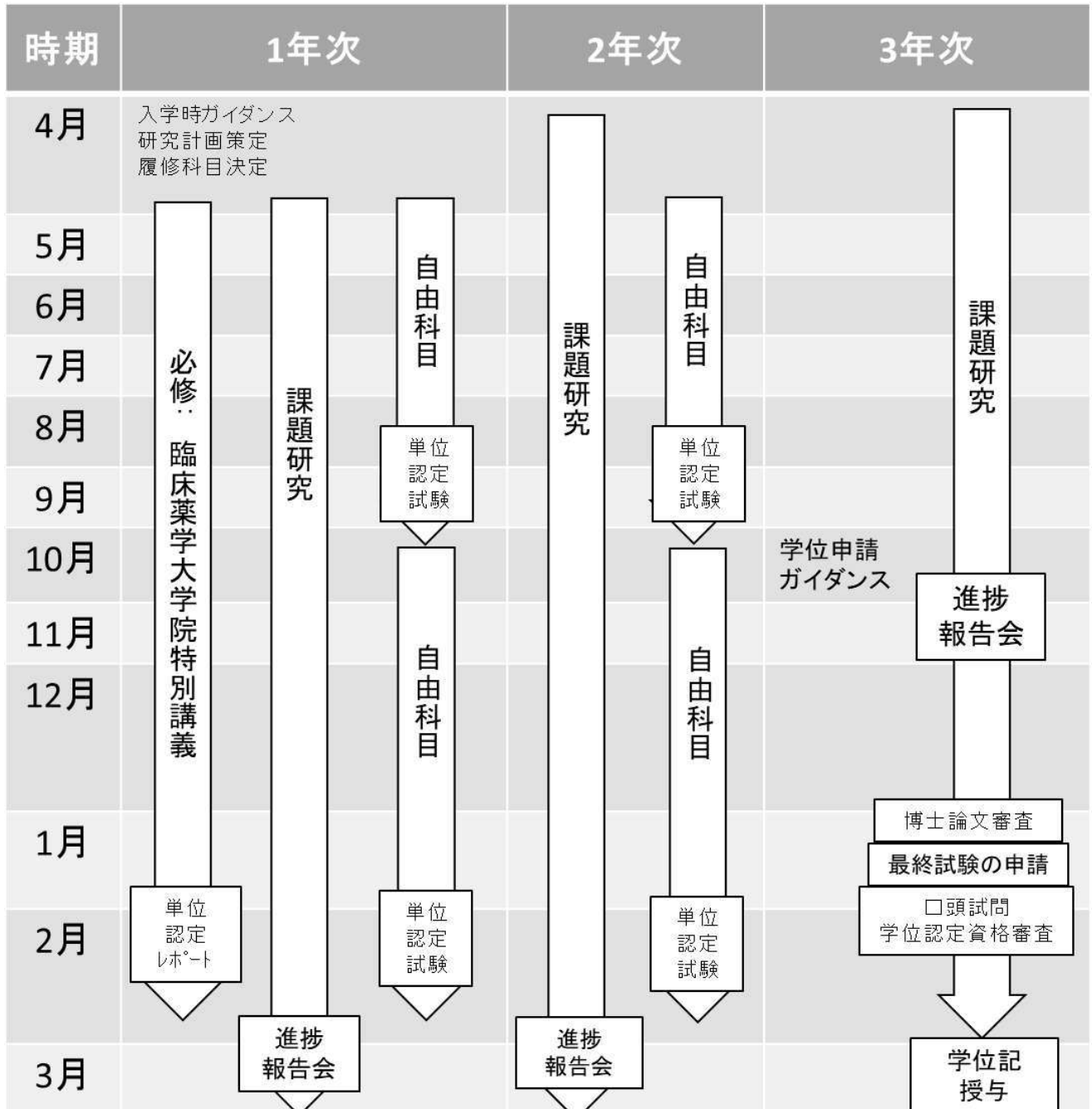
●：自由科目 ○：必修科目 隔年開講

卒業要件及び履修方法

大学院に3年以上在学し、自由科目を除いて、必修科目16単位を修得しなければならない。
自由科目は、他の大学院修士課程等を修了し、本学博士前期課程の科目を履修していない
者が、これらの科目を履修できるように設定するもので、博士前期課程の選択科目と同一で
ある。

入学から修了までのスケジュール

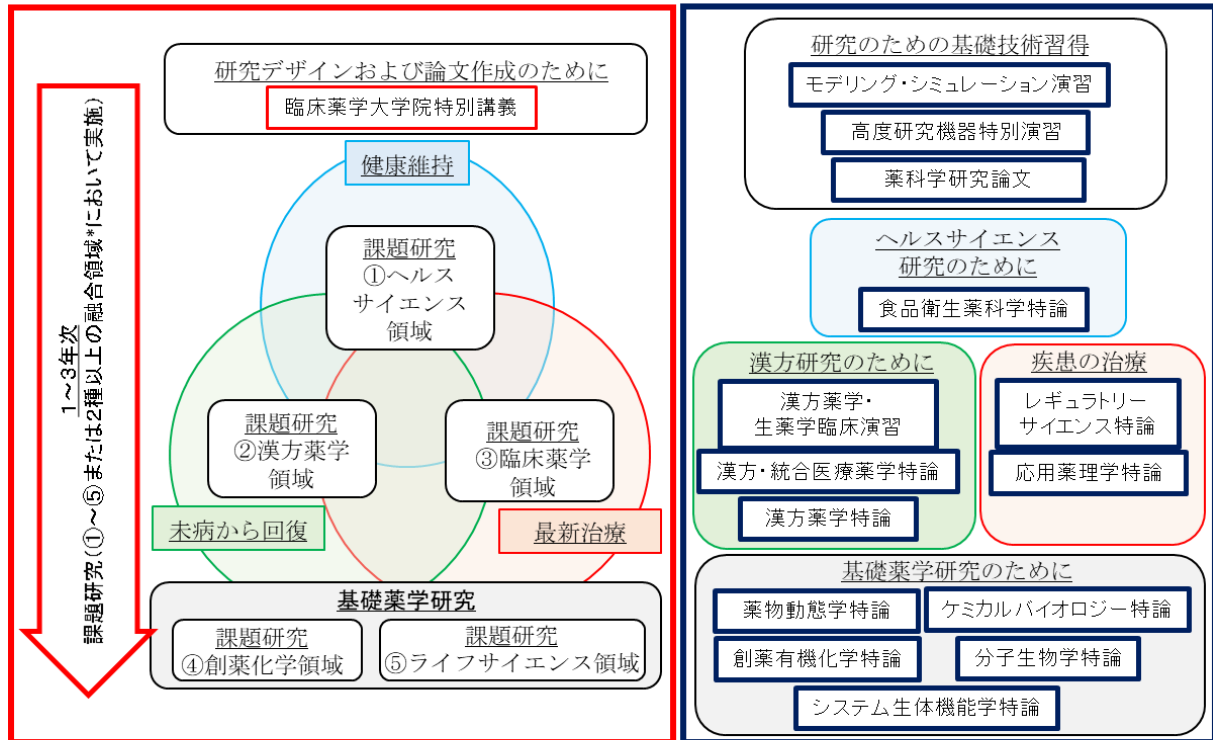
大学院薬学研究科博士後期課程



薬科学専攻博士後期課程の履修モデル

□ : 必修選択科目

□ : 自由選択科目 (原則1～2年次)



ディプロマ
ポリシー

- 多くの情報を集積・分析することにより創薬や医療技術の開発に適用し、経験に基づきながらも斬新な発想ができる。
- 研究活動を自立して行い、多様化する精密医療における新たな課題に取り組むとともに、新医薬品及び新医療技術を研究・開発し評価ができる。

自由科目

(薬学研究科薬科学専攻博士後期課程)

科目区分		授業科目の名称	開設時期	科目責任者	講義等の内容	備考
自由科目	共通選択科目	ケミカルバイオロジー特論	2025年度前期	庄司	化学と生命科学を融合させるケミカルバイオロジーは、有機化合物を基礎として生命科学研究を行う、有用化合物開発に直結する研究領域である。生物活性分子のケミカルバイオロジーについて、分子標的の基礎から同定に至るまでの幅広い知識と実例について学ぶ。	隔年科目
		応用薬理学特論	2026年度前期	田邊	肥満、高血圧、高血糖、脂質異常症など多重危険因子の集積状態、即ち『メタボリックシンドローム』という概念が導入され、かつては生活習慣病と呼ばれた疾患の分子・細胞機構が次々に明らかになりつつある。その範囲は、循環系や代謝・内分泌系のみならず、消化器系、神経系、免疫系にまで広がり、今後多数の新薬が期待される一方で、様々な有害事象の可能性をも考慮する必要がある。既存薬及び新薬の特徴について、治療標的となる血管や脂肪細胞などの機能や細胞内情報伝達機構や細胞・組織間ネットワークへの影響について、さらには臨床薬理学とも連結し医薬品および生理活性物質の標的タンパク質近傍までの輸送および結合特性と用量作用関係、薬効評価における有効性・安全性について詳細に学ぶ。	隔年科目
		食品衛生薬科学特論	2025年度後期	速水	現在の我が国は、少子高齢化が加速しており、国民の誰もが加齢とともに、食事などの生活習慣が要因となる種々の「未病」や「生活習慣病」に侵される健康不安を抱えている。社会では、食から健康の維持増進を図る気運が高まり、さらに、サプリメント、栄養機能食品および特定保健用食品などの健康食品が我々の生活環境の中に浸透してきた。食品の「機能性」の前提には、「有益性」および「安全性」が担保されていなければならない。本特論では、食品の機能をミクロおよびマクロの両面ならびに有益性および安全性を化学、分子生物学および薬物動態学などの学問を基盤として包括的に解析する能力を習得することを目的とし、(1)食品と医薬品の相互作用食品、(2)最新の機器分析、および(3)データ解析技術などについて講述するとともに討論して知見を深める。	隔年科目
		レギュラトリサイエンス特論	2026年度後期	小出	創薬の最終段階の目標は、患者における疾患の治療である。特にヒトを対象とする臨床段階およびその準備のためのデータ収集では、行政による規制が必須である。また、創薬のグローバル化を支えているのは、規制であるといっても過言ではない。本特論では、創薬の各段階、すなわち探索、非臨床、臨床、承認および製造販売後における、規制および企業と行政の連携を事例と照らしながら学ぶ。	隔年科目
		高度研究機器特別演習	2025年度前期	岩瀬	最新の研究機器を用いて、生物系及び分析系の研究の基礎となる主義を学び、機器の使い方を習得することで、創薬の基礎となる基本的な実験手法、手順を学ぶ。	
		モデリング・シミュレーション演習	2025年度前期	千葉	医薬品の創製には莫大なコストと長い年月が必要である。しかし、その成功確率は極めて低い。この状況を改善すべく行政と企業は連携し、薬効および安全性の予測技術を高める政策を講じている。本演習では、製薬企業が探索段階の薬効および薬物動態予測に用いているソフトウェアを使用し、また、臨床段階の患者集団における薬効・安全性予測に用いる手法を、コンピューターを実際に使いながら演習形式で学ぶ。	
	創薬コース	創薬有機化学特論	2025年度前期	庄司	医薬品創製の基盤である「有用化合物の探索・合成」について、基礎から専門的内容までの幅広い知識を修得する。代表的な医薬品や最新の研究成果から、創薬における化合物デザイン、標的化合物の合成手法・選択的合成法などについて学ぶ。	
		分子生物学特論	2025年度後期	川嶋(剛)	分子生物学の基礎的知識に基づき、タンパク質の構造と機能、遺伝子の発現調節機構などに関する研究を理解し、複雑な生命現象を分子レベルで解説することで医薬品創製の基礎となる生命活動を分子的な側面からの理解を深め、基礎的知識、研究方法、最新の研究成果について学ぶ。	
		システム生体機能学特論	2025年度前期	岡(美)	多くの生き物は細胞を分化させ細胞の役割を特化させることで役割を分担し、また協調することで生命活動を行なっている。多様な生物の生存戦略を知り、細胞、器官、組織の機能と形態を学び、さらに正常な生命活動のどこかが崩れたことによる疾病についても学ぶ。細胞生物学、機能形態学、薬理学、病態生理学などの幅広い知識を融合的に習得し研究に不可欠な問題発見能力と解決能力を身につけ、医薬品創製の基礎となる開発研究過程やその基本的考え方について理解するために、医薬品開発で重要な、細胞生物学、機能形態学、薬理学、病態生理学などの幅広い知識を融合的に習得し、さらに最新の研究成果について学ぶ。	隔年科目

科目区分		授業科目の名称	開設時期	科目責任者	講義等の内容	備考
自由科目	創薬コース	薬物動態学特論	2026年度前期	岩瀬	オムニバス方式の講義により薬物動態学、臨床薬物動態学および臨床薬理分野における最新の知識および情報を習得する。また、薬効および毒性の発現に動物種差・系統差、民族差および個体差が生ずる原因についての情報を薬物速度論的に解析、把握し、個別化医療を実際に行うための方法論を提案できる基礎的能力を育てる。	隔年科目
	漢方薬学コース	漢方薬学特論	2025年度前期	喻	漢方の専門教育・研究を充実する一方で、薬学全体を俯瞰できる総合的な講義内容とした。漢方専門分野の中から複数の異なる視点から方法論を見出し、統合的視野、柔軟な探求精神、総合的判断力を備え、これからの学問的および社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。本講義は、漢方の基礎理論や代表的な漢方処方を中心に講義する。漢方製剤に関する現代科学的なエビデンスも徐々に蓄積され、新たな有効性も見出されている。本特論では、それら最新の情報を紹介するとともに漢方研究の手法も併せて講義する。講義の構成は、座学のみではなく、e-ラーニングを使用した反転授業を取り入れ、双方向の参加型講義形式を採る。	
		漢方・統合医療薬学特論	2025年度後期	喻	漢方・統合医療薬学特論は漢方の専門教育・研究を充実する一方で、薬学全体を俯瞰できる総合的な講義内容とした。漢方専門分野の中から複数の異なる視点から方法論を見出し、統合的視野、柔軟な探求精神、総合的判断力を備え、これからの学問的および社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。本講義は、21世紀の高齢社会において、漢方治療は現代医療と相互補完の形で応用され、漢方製剤の需要はますます高まっていく。本特論では、漢方薬学の応用面を重視し、オムニバス形式で、広範囲にまたがる専門知識と、現代医療における漢方の役割についても講義する。講義の構成は、座学のみではなく、e-ラーニングを使用した反転授業を取り入れ、双方向の参加型講義形式を採る。	
		漢方薬学・生薬学臨床演習	2025年度通年	喻	漢方・統合医療薬学特論は漢方の専門教育・研究を充実する一方で、薬学全体を俯瞰できる総合的な講義内容とした。漢方専門分野の中から複数の異なる視点から方法論を見出し、統合的視野、柔軟な探求精神、総合的判断力を備え、これからの学問的および社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。本講義は、21世紀の高齢社会において、漢方治療は現代医療と相互補完の形で応用され、漢方製剤の需要はますます高まっていく。本演習では、漢方調剤の実習を通し、漢方調剤の手技の修得、漢方医療の現状視察など、広範囲にまたがる漢方調剤に関する専門知識と手技の修得を目指す。	

授 業 時 間 割 表 (博士後期課程)

1 年次 (2025 年入学対応) 前期

	I 9:00-10:30		II 10:45-12:15		IV 13:15-14:45		V 15:00-16:30		VI 16:45-18:15	
曜日	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者
月	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官		
火									高度研究機器 特別演習	岩瀬、他
水									創薬有機化学特論	庄司、他
木									ケミカルバイオロ ジー特論	庄司、他
金										
土	システム生体機 能学特論	岡、他	漢方薬学特論	喩、他	モデリング・シミュレーション 演習	千葉、他				
					☆ 薬科学大学院 特別講義	領域責任者	☆ 薬科学大学院 特別講義 SGD	領域責任者		

自由科目 創薬コース 漢方薬学コース
 共通選択

☆: 5、7、9月に開講(2コマ×3回)

注: 課題研究の時間枠は、課題研究の指導を受ける時間です。研

1 年次 (2025 年入学対応) 後期

	I 9:00-10:30		II 10:45-12:15		IV 13:15-14:45		V 15:00-16:30		VI 16:45-18:15	
	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者
曜日	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官		
月										
火										
水										
木										
金										
土	分子生物学特論	川嶋、他	漢方・統合医療 薬学特論	喩、他	食品衛生薬科学特論	速水、他				
					☆ 薬科学大学院 特別講義	領域責任者	☆ 薬科学大学院 特別講義 SGD	領域責任者		

自由科目 創薬コース 漢方薬学コース
 共通選択

☆: 11、1月に開講(2コマ×2回)

注: 課題研究の時間枠は、課題研究の指導を受ける時間です。研究課題によって別の時間帯になり、また時間数も異なります。研究指導教員に確認してくだ

授 業 時 間 割 表 (博士後期課程)

2 年次 (2024 年入学対応) 前期

	Ⅰ 9:00-10:30		Ⅱ 10:45-12:15		Ⅳ 13:15-14:45		Ⅴ 15:00-16:30		Ⅵ 16:45-18:15	
曜日	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者
月	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官		
火										
水										
木									ケミカルバイオ ロジー特論	庄司、他
金										
土	システム生体 機能学特論	岡、他			漢方薬学・生薬学 演習	喻、他				

■ 創薬コース ■ 漢方薬学コー

注：課題研究の時間枠は、課題研究の指導を受ける時間です。研究課題によって別の時間帯になり、また時間数も異なります。研究指導教員に確認してくた

2 年次 (2024 年入学対応) 後期

	Ⅰ 9:00-10:30		Ⅱ 10:45-12:15		Ⅳ 13:15-14:45		Ⅴ 15:00-16:30		Ⅵ 16:45-18:15	
曜日	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者
月	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官		
火										
水										
木										
金					食品衛生薬科学特論	速水、他				
土					漢方薬学・生薬学 演習	喻、他				

■ 漢方薬学コー

注：課題研究の時間枠は、課題研究の指導を受ける時間です。研究課題によって別の時間帯になり、また時間数も異なります。研究指導教員に確認してくた

2025年度 前期 時間割【博士後期課程 1年次】

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
4月1日	火															
4月2日	水	入学式・オリエンテーション・履修科目提出（17:00まで）														
4月3日	木															
4月4日	金															
4月5日	土															
4月7日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文①	指導教官	
4月8日	火													高度研究機器特講演①	岩瀬、他	
4月9日	水													創薬有機化学特論①	庄司、他	
4月10日	木															
4月11日	金													ケミカルバイオロジー特論①	庄司、他	
4月12日	土	システム生体機能学特論①	岡、他		漢方薬学特論①	喻、他					モデリング・シミュレーション演習①	千葉、他				
4月14日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文②	指導教官	
4月15日	火													高度研究機器特別講演②	岩瀬、他	
4月16日	水													創薬有機化学特論②	庄司、他	
4月17日	木															
4月18日	金													ケミカルバイオロジー特論②	庄司、他	
4月19日	土	システム生体機能学特論②	岡、他		漢方薬学特論②	喻、他					モデリング・シミュレーション演習②	千葉、他				
4月21日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文③	指導教官	
4月22日	火													高度研究機器特別講演③	岩瀬、他	
4月23日	水													創薬有機化学特論③	庄司、他	
4月24日	木															
4月25日	金													ケミカルバイオロジー特論③	庄司、他	
4月26日	土	システム生体機能学特論③	岡、他		漢方薬学特論③	喻、他					モデリング・シミュレーション演習③	千葉、他				
4月28日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文④	指導教官	
4月29日	火															
4月30日	水													創薬有機化学特論④	庄司、他	
5月1日	木															
5月2日	金													ケミカルバイオロジー特論④	庄司、他	
5月3日	土															
5月5日	月															
5月6日	火															
5月7日	水													創薬有機化学特論⑤	庄司、他	
5月8日	木															
5月9日	金													ケミカルバイオロジー特論⑤	庄司、他	
5月10日	土	システム生体機能学特論④	岡、他		漢方薬学特論④	喻、他					モデリング・シミュレーション演習④	千葉、他				
5月12日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑤	指導教官	
5月13日	火													高度研究機器特別講演④	岩瀬、他	
5月14日	水													創薬有機化学特論⑥	庄司、他	
5月15日	木															
5月16日	金													ケミカルバイオロジー特論⑥	庄司、他	
5月17日	土	システム生体機能学特論⑤	岡、他		漢方薬学特論⑤	喻、他					モデリング・シミュレーション演習⑤	千葉、他				

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
5月19日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑥	指導教官	
5月20日	火													高度研究機器特別講演⑤	岩瀬、他	
5月21日	水													創薬有機化学特論⑦	庄司、他	
5月22日	木															
5月23日	金													ケミカルバイオロジー特論⑦	庄司、他	
5月24日	土	システム生体機能学特論⑥	岡、他		漢方薬学特論⑥	喻、他		★薬科学大学院特別講義①	田邊、他		★薬科学大学院特別講義②	田邊、他				
5月26日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑦	指導教官	
5月27日	火													高度研究機器特別講演⑥	岩瀬、他	
5月28日	水													創薬有機化学特論⑧	庄司、他	
5月29日	木															
5月30日	金													ケミカルバイオロジー特論⑧	庄司、他	
5月31日	土	システム生体機能学特論⑦	岡、他		漢方薬学特論⑦	喻、他					モデリング・シミュレーション演習⑥	千葉、他				
6月2日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑧	指導教官	
6月3日	火													高度研究機器特別講演⑦	岩瀬、他	
6月4日	水													創薬有機化学特論⑨	庄司、他	
6月5日	木															
6月6日	金													ケミカルバイオロジー特論⑨	庄司、他	
6月7日	土	システム生体機能学特論⑧	岡、他		漢方薬学特論⑧	喻、他					モデリング・シミュレーション演習⑦	千葉、他				
6月9日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑨	指導教官	
6月10日	火													高度研究機器特別講演⑧	岩瀬、他	
6月11日	水													創薬有機化学特論⑩	庄司、他	
6月12日	木															
6月13日	金													ケミカルバイオロジー特論⑩	庄司、他	
6月14日	土	システム生体機能学特論⑨	岡、他		漢方薬学特論⑨	喻、他					モデリング・シミュレーション演習⑧	千葉、他				
6月16日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑩	指導教官	
6月17日	火													高度研究機器特別講演⑨	岩瀬、他	
6月18日	水													創薬有機化学特論⑪	庄司、他	
6月19日	木															
6月20日	金													ケミカルバイオロジー特論⑪	庄司、他	
6月21日	土	システム生体機能学特論⑩	岡、他		漢方薬学特論⑩	喻、他					補講					
6月23日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑪	指導教官	
6月24日	火													高度研究機器特別講演⑩	岩瀬、他	
6月25日	水													創薬有機化学特論⑫	庄司、他	
6月26日	木															
6月27日	金													ケミカルバイオロジー特論⑫	庄司、他	
6月28日	土	システム生体機能学特論⑪	岡、他		漢方薬学特論⑪	喻、他					補講					
6月30日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑫	指導教官	
7月1日	火													補講		
7月2日	水													創薬有機化学特論⑬	庄司、他	
7月3日	木															
7月4日	金													ケミカルバイオロジー特論⑬	庄司、他	
7月5日	土	システム生体機能学特論⑫	岡、他		漢方薬学特論⑫	喻、他					補講					

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
7月7日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑬	指導教官	
7月8日	火													補講		
7月9日	水													創薬有機化学特論⑭	庄司、他	
7月10日	木															
7月11日	金													ケミカルバイオロジー特論⑭	庄司、他	
7月12日	土	システム生体機能学特論⑬	岡、他		漢方薬学特論⑬	喻、他					健康診断（休講）					
7月14日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑭	指導教官	
7月15日	火													補講		
7月16日	水													創薬有機化学特論⑮	庄司、他	
7月17日	木															
7月18日	金													ケミカルバイオロジー特論⑮	庄司、他	
7月19日	土	システム生体機能学特論⑭	岡、他		漢方薬学特論⑭	喻、他					補講					
7月21日	月															
7月22日	火													補講		
7月23日	水													補講		
7月24日	木															
7月25日	金													補講		
7月26日	土	システム生体機能学特論⑮	岡、他		漢方薬学特論⑮	喻、他		★薬科学大学院特別講義③	田邊、他		★薬科学大学院特別講義④	田邊、他				
7月28日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑮	指導教官	
7月29日	火													補講		
7月30日	水													補講		
7月31日	木															
8月1日	金													補講		
8月2日	土	補講			補講						補講					
8月4日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月5日	火													補講		
8月6日	水													補講		
8月7日	木															
8月8日	金													補講		
8月9日	土	補講			補講						補講					
8月11日	月															
8月12日	火															
8月13日	水															
8月14日	木															
8月15日	金															
8月16日	土															
8月18日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月19日	火													補講		
8月20日	水													補講		
8月21日	木															
8月22日	金													補講		
8月23日	土	補講			補講						補講					

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
8月25日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月26日	火													補講		
8月27日	水													補講		
8月28日	木															
8月29日	金													補講		
8月30日	土	補講			補講						補講					
9月1日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月2日	火													補講		
9月3日	水													補講		
9月4日	木															
9月5日	金													補講		
9月6日	土	補講			補講			★薬科学大学院 特別講義⑤	田邊、他		★薬科学大学院 特別講義⑥	田邊、他				
9月8日	月	レポート提出 単位認定			補講			補講			補講			補講		
9月9日	火													補講		
9月10日	水													補講		
9月11日	木															
9月12日	金													補講		
9月13日	土				補講						補講					
9月15日	月															
9月16日	火													補講		
9月17日	水													補講		
9月18日	木															
9月19日	金													補講		
9月20日	土	補講			補講						補講					
9月22日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月23日	火															
9月24日	水													補講		
9月25日	木															
9月26日	金													補講		
9月27日	土	補講			補講						補講					
9月29日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月30日	火													補講		

2025年度 後期 時間割【博士後期課程 1年次】

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
10月1日	水															
10月2日	木															
10月3日	金															
10月4日	土	分子生物学 特論①	川嶋、他		漢方・統合医療薬学 特論①	喻、他		食品衛生薬科学 特論①	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論②	埴岡、他				
10月6日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文①	指導教官	
10月7日	火															
10月8日	水															
10月9日	木															
10月10日	金															
10月11日	土	分子生物学 特論②	川嶋、他		漢方・総合医療薬学 特論②	喻、他		食品衛生薬科学 特論③	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論④	埴岡、他				
10月13日	月															
10月14日	火															
10月15日	水															
10月16日	木															
10月17日	金															
10月18日	土	分子生物学 特論③	川嶋、他		漢方・総合医療薬学 特論③	喻、他		食品衛生薬科学 特論⑤	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑥	埴岡、他				
10月20日	月	創立者記念日														
10月21日	火															
10月22日	水															
10月23日	木															
10月24日	金															
10月25日	土	分子生物学 特論④	川嶋、他		漢方・総合医療薬学 特論④	喻、他		食品衛生薬科学 特論⑦	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑧	埴岡、他				
10月27日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文②	指導教官	
10月28日	火															
10月29日	水															
10月30日	木															
10月31日	金															
11月1日	土	分子生物学 特論⑤	川嶋、他		漢方・総合医療薬学 特論⑤	喻、他		食品衛生薬科学 特論⑨	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑩	埴岡、他				
11月3日	月															
11月4日	火															
11月5日	水															
11月6日	木															
11月7日	金															
11月8日	土	分子生物学 特論⑥	小笹、他		漢方・総合医療薬学 特論⑥	喻、他		★薬科学大学院 特別講義⑦	田邊、他		★薬科学大学院 特別講義⑧	田邊、他				
11月10日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文③	指導教官	
11月11日	火															
11月12日	水															
11月13日	木															
11月14日	金															
11月15日	土	分子生物学 特論⑦	川嶋、他		漢方・総合医療薬学 特論⑦	喻、他		食品衛生薬科学 特論⑪	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑫	埴岡、他				
11月17日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文④	指導教官	
11月18日	火															
11月19日	水															
11月20日	木															
11月21日	金															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
11月22日	土	分子生物学特論⑧	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑧	喻、他		食品衛生薬科学特論⑬	埴岡、他		食品衛生薬科学特論⑭	埴岡、他				
11月24日	月															
11月25日	火															
11月26日	水															
11月27日	木															
11月28日	金															
11月29日	土	分子生物学特論⑨	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑨	喻、他		食品衛生薬科学特論⑮	埴岡、他		補講					
12月1日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑤	指導教官	
12月2日	火															
12月3日	水															
12月4日	木															
12月5日	金															
12月6日	土	分子生物学特論⑩	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑩	喻、他		補講			補講					
12月8日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑥	指導教官	
12月9日	火															
12月10日	水															
12月11日	木															
12月12日	金															
12月13日	土	分子生物学特論⑪	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑪	喻、他		補講			補講					
12月15日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑦	指導教官	
12月16日	火															
12月17日	水															
12月18日	木															
12月19日	金															
12月20日	土	分子生物学特論⑫	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑫	喻、他		補講			補講					
12月22日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑧	指導教官	
12月23日	火															
12月24日	水															
12月25日	木															
12月26日	金															
12月27日	土	分子生物学特論⑬	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑬	喻、他		補講			補講					
12月29日	月															
12月30日	火															
12月31日	水															
1月5日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑨	指導教官	
1月6日	火															
1月7日	水															
1月8日	木															
1月9日	金															
1月10日	土	分子生物学特論⑭	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑭	喻、他		★薬科学大学院特別講義⑤	オムニバス(田邊)		★薬科学大学院特別講義⑥	オムニバス(田邊)				
1月12日	月															
1月13日	火															
1月14日	水															
1月15日	木															
1月16日	金															
1月17日	土	分子生物学特論⑮	川嶋、他		漢方・総合医療薬学特論⑮	喻、他		補講			補講					
1月19日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑩	指導教官	
1月20日	火															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
1月21日	水															
1月22日	木															
1月23日	金															
1月24日	土	補講			補講			補講			補講					
1月26日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑪	指導教官	
1月27日	火															
1月28日	水															
1月29日	木															
1月30日	金															
1月31日	土	補講			補講			補講			補講					
2月2日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑫	指導教官	
2月3日	火															
2月4日	水															
2月5日	木															
2月6日	金															
2月7日	土	補講			補講			補講			補講					
2月9日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑬	指導教官	
2月10日	火															
2月11日	水															
2月12日	木															
2月13日	金															
2月14日	土	補講			補講			補講			補講					
2月16日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑭	指導教官	
2月17日	火															
2月18日	水															
2月19日	木															
2月20日	金															
2月21日	土	補講			補講			補講			補講					
2月23日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑮	指導教官	
2月24日	火	レポ 単位 認定 提出														
2月25日	水															
2月26日	木															
2月27日	金															
2月28日	土				補講			補講			補講					
3月2日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月3日	火															
3月4日	水															
3月5日	木															
3月6日	金															
3月7日	土	補講			補講			補講			補講					
3月9日	月	進 歩 報 告 か い (生) ・ 1 年			補講			補講			補講			補講		
3月10日	火															
3月11日	水															
3月12日	木															
3月13日	金															
3月14日	土				補講			補講			補講			補講		
3月16日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月17日	火															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
3月18日	水															
3月19日	木															
3月20日	金															
3月21日	土	補講			補講			補講			補講					
3月23日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月24日	火															
3月25日	水															
3月26日	木															
3月27日	金															
3月28日	土	補講			補講			補講			補講					
3月30日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月31日	火															

2025年度 前期 時間割【博士後期課程 2年次】

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
4月1日	火															
4月2日	水	入学式・オリエンテーション・履修科目提出 (17:00前切)														
4月3日	木															
4月4日	金															
4月5日	土															
4月7日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文①	指導教官	
4月8日	火															
4月9日	水															
4月10日	木															
4月11日	金													ケミカルバイオロジー特論①	庄司、他	
4月12日	土	システム生体機能学特論①	岡、他													
4月14日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文②	指導教官	
4月15日	火															
4月16日	水															
4月17日	木															
4月18日	金													ケミカルバイオロジー特論②	庄司、他	
4月19日	土	システム生体機能学特論②	岡、他													
4月21日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文③	指導教官	
4月22日	火															
4月23日	水															
4月24日	木															
4月25日	金													ケミカルバイオロジー特論③	庄司、他	
4月26日	土	システム生体機能学特論③	岡、他													
4月28日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文④	指導教官	
4月29日	火															
4月30日	水															
5月1日	木															
5月2日	金													ケミカルバイオロジー特論④	庄司、他	
5月3日	土															
5月5日	月															
5月6日	火															
5月7日	水															
5月8日	木															
5月9日	金													ケミカルバイオロジー特論⑤	庄司、他	
5月10日	土	システム生体機能学特論④	岡、他													
5月12日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑤	指導教官	
5月13日	火															
5月14日	水															
5月15日	木															
5月16日	金													ケミカルバイオロジー特論⑥	庄司、他	
5月17日	土	システム生体機能学特論⑤	岡、他													
5月19日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑥	指導教官	
5月20日	火															
5月21日	水															
5月22日	木															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
5月23日	金													ケミカルバイオロジー特論⑦	庄司、他	
5月24日	土	システム生体機能学特論⑥	岡、他													
5月26日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑦	指導教官	
5月27日	火															
5月28日	水															
5月29日	木															
5月30日	金													ケミカルバイオロジー特論⑧	庄司、他	
5月31日	土	システム生体機能学特論⑦	岡、他					漢方薬学・生薬学臨床演習①	榊原、他		漢方薬学・生薬学臨床演習②	榊原、他				
6月2日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑧	指導教官	
6月3日	火															
6月4日	水															
6月5日	木															
6月6日	金													ケミカルバイオロジー特論⑨	庄司、他	
6月7日	土	システム生体機能学特論⑧	岡、他													
6月9日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑨	指導教官	
6月10日	火															
6月11日	水															
6月12日	木															
6月13日	金													ケミカルバイオロジー特論⑩	庄司、他	
6月14日	土	システム生体機能学特論⑨	岡、他													
6月16日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑩	指導教官	
6月17日	火															
6月18日	水															
6月19日	木															
6月20日	金													ケミカルバイオロジー特論⑪	庄司、他	
6月21日	土	システム生体機能学特論⑩	岡、他													
6月23日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑪	指導教官	
6月24日	火															
6月25日	水															
6月26日	木															
6月27日	金													ケミカルバイオロジー特論⑫	庄司、他	
6月28日	土	システム生体機能学特論⑪	岡、他													
6月30日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑫	指導教官	
7月1日	火															
7月2日	水															
7月3日	木															
7月4日	金													ケミカルバイオロジー特論⑬	庄司、他	
7月5日	土	システム生体機能学特論⑫	岡、他													
7月7日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑬	指導教官	
7月8日	火															
7月9日	水															
7月10日	木															
7月11日	金													ケミカルバイオロジー特論⑭	庄司、他	
7月12日	土	システム生体機能学特論⑬	岡、他								健康診断（休講）					
7月14日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑭	指導教官	
7月15日	火															
7月16日	水															
7月17日	木															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
7月18日	金													ケミカルバイオロジー特論 ^⑮	庄司、他	
7月19日	土	システム生体機能学特論 ^⑭	岡、他					漢方薬学・生薬学臨床演習 ^③	榊原、他		漢方薬学・生薬学臨床演習 ^④	榊原、他				
7月21日	月															
7月22日	火															
7月23日	水															
7月24日	木															
7月25日	金													補講		
7月26日	土	システム生体機能学特論 ^⑮	岡、他													
7月28日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文 ^⑮	指導教官	
7月29日	火															
7月30日	水															
7月31日	木															
8月1日	金													補講		
8月2日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
8月4日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月5日	火															
8月6日	水															
8月7日	木															
8月8日	金													補講		
8月9日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
8月11日	月															
8月12日	火															
8月13日	水															
8月14日	木															
8月15日	金															
8月16日	土															
8月18日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月19日	火															
8月20日	水															
8月21日	木															
8月22日	金													補講		
8月23日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
8月25日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月26日	火															
8月27日	水															
8月28日	木															
8月29日	金													補講		
8月30日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月1日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月2日	火															
9月3日	水															
9月4日	木															
9月5日	金													補講		
9月6日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月8日	月				補講			補講			補講			補講		
9月9日	火															
9月10日	水															
9月11日	木															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
9月12日	金	定 出 ↓												補講		
9月13日	土				補講			補講			補講			補講		
9月15日	月															
9月16日	火															
9月17日	水															
9月18日	木															
9月19日	金													補講		
9月20日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月22日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月23日	火															
9月24日	水															
9月25日	木															
9月26日	金													補講		
9月27日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月29日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月30日	火															

2025年度 後期 時間割【博士後期課程 2年次】

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
10月1日	水															
10月2日	木															
10月3日	金															
10月4日	土	学位申請ガイダンス														
10月6日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文①	指導教官	
10月7日	火															
10月8日	水															
10月9日	木															
10月10日	金															
10月11日	土							漢方薬学・生薬学臨床演習⑤	榊原、他		漢方薬学・生薬学臨床演習⑥	榊原、他				
10月13日	月															
10月14日	火															
10月15日	水															
10月16日	木															
10月17日	金															
10月18日	土							食品衛生薬科学特論①	埴岡、他		食品衛生薬科学特論②	埴岡、他				
10月20日	月	創立者記念日														
10月21日	火															
10月22日	水															
10月23日	木															
10月24日	金															
10月25日	土							食品衛生薬科学特論③	埴岡、他		食品衛生薬科学特論④	埴岡、他				
10月27日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文②	指導教官	
10月28日	火															
10月29日	水															
10月30日	木															
10月31日	金															
11月1日	土							漢方薬学・生薬学臨床演習⑦	榊原、他		漢方薬学・生薬学臨床演習⑧	榊原、他				
11月3日	月															
11月4日	火															
11月5日	水															
11月6日	木															
11月7日	金															
11月8日	土							食品衛生薬科学特論⑤	埴岡、他		食品衛生薬科学特論⑥	埴岡、他				
11月10日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文③	指導教官	
11月11日	火															
11月12日	水															
11月13日	木															
11月14日	金															
11月15日	土							食品衛生薬科学特論⑦	埴岡、他		食品衛生薬科学特論⑧	埴岡、他				
11月17日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文④	指導教官	
11月18日	火															
11月19日	水															
11月20日	木															
11月21日	金															
11月22日	土							食品衛生薬科学特論⑨	埴岡、他		食品衛生薬科学特論⑩	埴岡、他				
11月24日	月															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
11月25日	火															
11月26日	水															
11月27日	木															
11月28日	金															
11月29日	土							漢方薬学・生薬学 臨床演習⑨	榊原、他		漢方薬学・生薬学臨床演習⑩	榊原、他				
12月1日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑤	指導教官	
12月2日	火															
12月3日	水															
12月4日	木															
12月5日	金															
12月6日	土							食品衛生薬科学 特論⑪	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑫	埴岡、他				
12月8日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑥	指導教官	
12月9日	火															
12月10日	水															
12月11日	木															
12月12日	金															
12月13日	土							食品衛生薬科学 特論⑬	埴岡、他		食品衛生薬科学 特論⑭	埴岡、他				
12月15日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑦	指導教官	
12月16日	火															
12月17日	水															
12月18日	木															
12月19日	金															
12月20日	土							食品衛生薬科学 特論⑮	埴岡、他							
12月22日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑧	指導教官	
12月23日	火															
12月24日	水															
12月25日	木															
12月26日	金															
12月27日	土							補講			補講					
12月29日	月															
12月30日	火															
12月31日	水															
1月1日	木															
1月2日	金															
1月3日	土															
1月5日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑨	指導教官	
1月6日	火															
1月7日	水															
1月8日	木															
1月9日	金															
1月10日	土							補講			補講					
1月12日	月															
1月13日	火															
1月14日	水															
1月15日	木															
1月16日	金															
1月17日	土							補講			補講					
1月19日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑩	指導教官	
1月20日	火															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15			
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	
1月21日	水																
1月22日	木																
1月23日	金																
1月24日	土							補講			補講						
1月26日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑪	指導教官		
1月27日	火																
1月28日	水																
1月29日	木																
1月30日	金																
1月31日	土							補講			補講						
2月2日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑫	指導教官		
2月3日	火																
2月4日	水																
2月5日	木																
2月6日	金																
2月7日	土							補講			補講						
2月9日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑬	指導教官		
2月10日	火																
2月11日	水																
2月12日	木																
2月13日	金																
2月14日	土							補講			補講						
2月16日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑭	指導教官		
2月17日	火																
2月18日	水																
2月19日	木																
2月20日	金																
2月21日	土							補講			補講						
2月23日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		薬科学研究論文⑮	指導教官		
2月24日	火	<div>↑ 単位認定試験 レポート提出 ↓</div>															
2月25日	水																
2月26日	木																
2月27日	金																
2月28日	土			修士学位論文審査/最終試験													
3月2日	月	進歩報告会			補講			補講			補講			補講			
3月3日	火																
3月4日	水																
3月5日	木																
3月6日	金																
3月7日	土				補講			補講			補講			補講			
3月9日	月	補講			補講			補講			補講			補講			
3月10日	火																
3月11日	水																
3月12日	木																
3月13日	金																
3月14日	土	補講			補講			補講			補講			補講			
3月16日	月	補講			補講			補講			補講			補講			
3月17日	火																
3月18日	水																

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
3月19日	木															
3月20日	金															
3月21日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
3月23日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月24日	火															
3月25日	水															
3月26日	木															
3月27日	金															
3月28日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
3月30日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月31日	火															

シラバス(授業科目)

薬科学大学院特別講義

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士後期課程 区分 1：必修科目 年次：1 開講期：通年 入学年度：2025 年
単位：1

庄司 満（兼担教授）、埴岡 伸光（兼担教授）、岡 美佳子（兼担教授）、千葉 康司（兼担教授）、梅原 薫（兼担教授）

■ 授業形式

A 講義型・ディスカッション型

■ 評価方法

受講状況および受講時設定課題に対するレポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

外部からの招聘講師による「特別セミナー」において、各研究領域の第一線の研究に関する講演を他の専攻とともに聴講し、積極的な質疑を行う。その後「①仮説および結論は何か。②データは十分か、追加試験は何について行うべきか、論文で強調されている点は何か。③橋渡し研究の内容と成果は何か、④基礎および臨床研究としての着眼点と評価方法は適切か、⑤基礎研究や応用研究、および臨床現場にどのような実践的視点がもたらされうるか」についてグループ討論を行う。これらを通じて、創薬・医薬品開発への貢献と高度な知識・技能に裏付けされた専門性の高い薬学科学者として、基礎科学技術の集約である医薬品そのものから生体の統合システムまでを俯瞰する力をつけ、医薬品の適正使用と育薬のためのファーマシューティカルケアの能力を強化し、幅広い分野の実践力の充実につなげる。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	創薬化学領域・庄司 満ほか	創薬化学セミナー	創薬化学領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答。
2	創薬化学領域・庄司 満ほか	創薬化学セミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成
3	ライフサイエンス領域・岡 美佳子ほか	ライフサイエンスセミナー	ライフサイエンス領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答。
4	ライフサイエンス領域・岡 美佳子ほか	ライフサイエンスセミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成
5	ヘルスサイエンス領域・埴岡 伸光ほか	ヘルスサイエンスセミナー	ヘルスサイエンス領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答。
6	ヘルスサイエンス領域・埴岡 伸光ほか	ヘルスサイエンスセミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成
7	臨床薬学領域・千葉 康司ほか	臨床薬学セミナー	臨床薬学領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答。
8	臨床薬学領域・千葉 康司ほか	臨床薬学セミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成
9	漢方薬学領域・梅原 薫ほか	漢方薬学セミナー	漢方薬学領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答。
10	漢方薬学領域・梅原 薫ほか	漢方薬学セミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成

課題研究（創薬化学領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士後期課程 区分1：必修科目 年次：1・2・3 開講期：通年 単位：15

波多江 典之（専任教授），庄司 満（兼担教授），塚本 裕一（兼担教授），鰐淵 清史（兼担准教授），横江 弘雅（兼担准教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

研究態度、課題研究成果発表会での発表内容及び口頭試問に対する回答、中間報告並びに学位論文の内容を評価する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
波多江 典之	分子認識に基づいた薬物設計と有機合成により、実践的創薬について研究する。具体的には、計算機科学を用いた構造解析による分子設計、設計された分子の効率的合成法の開発、得られた化合物の活性評価と構造のリファインメントにより、生体内反応を制御する分子を創生することで、体系的な創薬研究を実践する。また得られた成果は、国内外の英文学術雑誌（査読付き）への投稿と、専門学会への発表により、高度な科学的専門性をもって問題を提示・解決する能力を醸成する。
庄司 満	創薬における前臨床研究、特に医薬シーズの探索研究に必要な、生理活性化合物の効率的創製について研究する。有機金属化学及び光触媒化学をはじめとする有機合成化学反応を理解するとともに、これらを駆使した標的化合物のデザインと合成研究を行う。国内外の英文学術雑誌への論文投稿と学会発表を目標とする。
塚本 祐一	有機合成化学を駆使して創薬のシーズとなる生物活性物質を供給し、構造－活性相関研究を行うことで、その活性部位を明らかにする。特に、生物活性分子中に含まれる環状構造に着目し、遷移金属触媒および有機触媒を活用した新たな立体選択的分子構築法を開発する。英文学術雑誌への論文投稿と学会発表を目標とする。
鰐淵 清史	有機合成化学および生物分子化学的手法を用い、生物活性物質と受容体との特異的相互作用の解明を研究する。具体的には、標的とする生物活性物質とその類縁体を合成するとともに、受容体との相互作用の解析について研究する。
横江 弘雅	天然から極微量しか得られず、詳細な生物活性が未だ不明な有機化合物を用いて、新規医薬品シーズの開発研究を行う。このような化合物のうち特に、複雑な縮環構造や多数の不斉中心など特異な化学構造をもつものに着目し、その効率的な合成法を開発する。これにより、詳細な薬理活性試験を可能とする十分な量的供給を行う。さらに、標的化合物の未知なる生物活性を解明するとともに、その非天然型類縁体を創製することで、より有望な医薬品シーズを開発する。査読付き学術論文投稿および学会での研究発表を目標とする。

課題研究（ライフサイエンス領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士後期課程 区分 1：必修科目 年次：1・2・3 開講期：通年 単位：15

川嶋 芳枝（専任教授）、岡 美佳子（兼担教授）、川嶋 剛（兼担教授）、田邊 由幸（兼担教授）、高橋 哲史（専任准教授）、西崎 有利子（専任准教授）、浅井 将（専任准教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

研究態度、課題研究成果発表会での発表内容および口頭試問に対する回答、中間報告および学位論文の内容を評価する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
川嶋 芳枝	個体発生、形態形成のメカニズムを分子から個体までの広い観点から解明することは、様々な疾患や発生異常の原因究明、再生医療分野の発展につながる。本研究課題では、脊椎動物の総排泄腔派生器官の形態形成機構の解明をめざして、複数のモデル生物を用いた比較発生学的な解析により関与分子群を同定し、それらの分子群の器官形成における機能を、培養した細胞・組織・器官および個体を用いて解析する。
岡 美佳子	組織や細胞の機能が正常であるためには、遺伝子の発現、分子間の相互作用、細胞-細胞間相互作用など全ての段階で細かく制御されている。そしてどの段階が崩れても疾病が発症する。神経や水晶体などを用い、正常な機能維持機構、うつ、アルツハイマー、白内障など疾病の発症機序、予防薬の探索などをモデル細胞、モデル動物を用い分子生物学的手法、生化学的手法および組織学的手法で探索、解析、研究を行う。
川嶋 剛	生物が正常な構造と機能を維持するためには、ゲノムにコードされた遺伝子群の中から適切な遺伝子を選択する転写調節のネットワーク構造が重要な制御段階である。転写制御機構と疾患の発症の関連を理解するために、真核生物型転写制御機構を有する古細菌を用いて個々の遺伝子を制御する真核生物型転写制御様式の祖先系を、分子生物学的手法、生物情報科学的手法により解析し、転写制御相互の制御ネットワークを解明することを研究課題として研究指導を行う。
田邊 由幸	局所的な血行力学刺激の亢進と炎症が合併する肺高血圧および脂肪組織の病的肥大化を中心題材とし、病態肺動脈や肥大化脂肪組織での病的変化にともなう内分泌性因子、メカニカルストレス応答性の接着因子・受容体・チャネルと細胞内シグナルと細胞間相互作用の変化に関わる責任分子を同定し、それらの機能解析と薬物制御を行うことにより、新規の薬物治療標的を提示する研究を行う。
高橋 哲史	消化器は消化・吸収を司る重要な組織であるが、分子機構の詳細が明らかとなっていない疾患も多く存在する。培養細胞を用いた分子生物学的手法および実験動物モデルを用いた解析により、胃粘膜傷害や消化器がんなどの各種消化器疾患について、遺伝子多型と病態発症との関係を解析する。また、得られた解析結果を基に、消化器疾患を標的とした創薬研究を行う。
西崎 有利子	遺伝子が原因となる先天性疾患については、近年原因遺伝子の同定が進んできているが、その発症の分子メカニズムが明らかになっていないものも多い。そこで、ヒトの疾患原因遺伝子のマウスホモログについて、マウスの器官形成過程における発現解析や機能解析を、発生生物学的手法や分子生物学・組織学的手法により行う。これらを通して、遺伝子の異常により器官発生に異常をきたすことで発症する分子メカニズムを明らかにし、将来的に、治療や症状改善の手がかりとなる知見を得ることを目指す。
浅井 将	アルツハイマー病はアンメット・メディカル・ニーズの高い代表疾患であり、原因仮説が提唱されたものの、依然として根本的治療薬が存在しない。そこで、早期からアルツハイマー病を発症するダウン症者に着目し、トリソミーになっている 21 番染色体に存在するアルツハイマー病増悪因子の作用機序を明らかにすることで、これまでとは異なる視点による新たな標的に対するアルツハイマー病の治療薬を創製する。また、関連する酵素（プロテアーゼやキナーゼなど）の生理的機能を追究することにより、皮膚の形態維持や臓器などの疾患への応用を目指した研究を行う。

課題研究（ヘルスサイエンス領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士後期課程 区分1：必修科目 年次：1・2・3 開講期：通年 単位：15

曽根 秀子（専任教授）、三浦 伸彦（専任教授）、埴岡 伸光（兼任教授）、香川 聡子（兼任教授）、越智 定幸（兼任教授）、速水 耕介（兼任教授）、大河原 晋（兼任教授）、礪部 隆史（兼任准教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

授業態度及び課題レポートによって評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

健康や若さを保つために重要な三つの生活習慣は「運動」「食事」「睡眠」です。食のヘルスサイエンスに関する重要課題を理解し、最先端の健康科学技術を駆使して健康の維持・増進となる機能性物質の生理的役割を理解し、説明できること。

■ 授業計画表

担当教員	内容
曽根秀子	食成分のうち、免疫機能活性化、抗老化及び抗がん機能を有する物質の生理的役割を解明し、健康や若さを保つ方法を開発する。
三浦伸彦	睡眠をはじめとした生命維持活動に概日リズムは必須の生体システムである。この概日リズムは夜間の光曝露により攪乱され、うつ病や発がんなどの様々な健康影響を誘発することが知られている。本研究では概日リズム攪乱が及ぼす生体影響を動物実験レベルから分子生物学レベルの手法を駆使して解析し、加えてその予防法を探る。
埴岡 伸光	化学物質の包括的・定量的なリスク評価に関する研究を遂行する。そのために、以下の課題について研究を遂行する。 1) 肝臓および小腸における異物代謝酵素の発現解析；2) 異物代謝能を反映する人工カクテル異物代謝酵素の作製； 3) 異物代謝酵素の多様性を反映した化学物質の迅速・高感度・高精度な代謝解析法の開発；4) 化学物質の包括的・定量的リスク評価系の構築・検証。
香川 聡子	化学物質の有害性評価において構造活性相関とカテゴリーアプローチは、実験動物を用いずに、多種の物質を安価で短期間のうちに評価できるという利点を持つ代替試験法の一種と見なされている。シックハウス症候群の主訴の1つである気道刺激性に焦点を定め、イオンチャネル活性化など気道刺激性を評価するハイスループット <i>in vitro</i> 評価系を構築して室内化学物質を対象として評価する。その評価結果と化学物質の構造状の特徴等から気道刺激性予測手法の構築を目指す。
越智 定幸	病原細菌の病原性獲得機序、及び、病原因子の作用機序について、主に分子疫学的、生化学的、薬理学的、そして、分子生物学的手法を用いて研究する。細菌の病原性獲得の機序は、様々な環境への生物適応の一モデルであり、細菌病原因子の作用は、微量生理活性毒性分子による生体応答の攪乱や破綻の一表現系である。研究方法の立案から解析までを行い、その結果から真実を見極め、新たな知見を抽出するとともに、細菌の環境適応性、そして、微量毒性分子に対する生体応答の本質に迫る。
大河原 晋	アレルギー疾患に代表される生活環境病や、糖尿病、循環器疾患を代表とする生活習慣病は、現代社会における重大な克服課題である。特別研究では、培養細胞や実験動物を用いて、これら疾病に関わる環境因子を同定するとともに、作用機構を分子レベルで解析し、「人々の健康を守り、増進させていくこと」を目標とした研究指導を行う。
速水 耕介	臨床試験（ヒト試験）による成績は、医学・薬学分野のみならず、栄養学分野においても重要なエビデンスであり、疫学の中心である。疫学研究における統計解析は重要な技術の一つであるが、栄養学特有の課題が散見される。本課題研究では、ヒトにおける栄養摂取量の推定問題および代謝上限量の推定、有効性を検出するためのモデル、安全性評価などについて、データ解析技術を利用し、「計算栄養学」として研究活動を行う。
礪部 隆史	細菌の病原因子はヒト体内で産生され、作用する事でヒトに有害事象を生じ、病原性を発揮する。一方で、自然環境では、栄養獲得のためのツールや共生生物への防御機構として、環境に適応するための因子として機能すると考えられる。自然界に生息する病原性細菌と臨床分離株で遺伝子保有状況を比較解析したり、病原因子や環境適応因子の性状や発現調節機構を遺伝学的手法や分子生物学的手法を用いて解析し、自然界での病原性細菌の生存戦略について研究を行う。

課題研究（臨床薬学領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士後期課程 区分 1：必修科目 年次：1・2・3 開講期：通年 単位：15

飯田 理文（専任教授）、山田 博章（兼任教授）、千葉 康司（兼任教授）、岡田 賢二（兼任教授）、小出 彰宏（兼任教授）、岩瀬 由未子（兼任准教授）、吉門 崇（兼任准教授）、田口 真穂（兼任准教授）、矢野 健太郎（兼任准教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

研究態度、課題研究成果発表会での発表内容および口頭試問に対する回答、中間報告および学位論文の内容を評価する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
飯田 理文	医薬品開発および適正使用に関して、データに基づいた評価・予測は医薬品開発の効率化やより安全な使用に貢献する。本過程ではデータのハンドリング方法・様々な予測モデルを学ぶとともに、具体的にこれらがトランスレーショナルリサーチを含む医薬品開発や適正使用に適応できるようにモデルベースでの評価・予測を行うことを研究課題として研究指導を行う。
千葉 康司	医薬品開発においては薬効・副作用の予測精度が、その成功確率に大きな影響を及ぼす。本課程では、薬効・副作用の予測に影響を及ぼす要因を抽出し、さらにその変動より、医薬品に依存せず生体側に依存する変動を特定させた後、薬効・副作用の予測モデルを構築することを研究課題として研究指導を行う。
山田 博章	レギュラトリーサイエンスは、科学技術を最適な形で人間及び社会に調和させる科学である。本修士課程の特別研究においては、医薬品等の開発プロセス、承認申請・審査過程、製造販売後の安全対策等を題材に、社会薬学的な観点も含め、それらのレギュラトリーサイエンス的手法の効果や問題点について、各種報告書等やデータベースを用いて数値化し明らかにする。さらに問題の発生を論理化または数式化した上で、時間軸を設定し、過去に施行された規制が現在有効に機能しているか、または未来その規制に基づきどう変化するかを予測し、直近の現状と比較研究を実施した上で論文化を図る。
岡田 賢二	ファーマコメトリクスの手法を用いて、医薬品の有効性および安全性を解析し既存の薬物療法を評価する。患者個別に適用可能な、有効性、安全性、経済性に優れた薬物療法を提案する。本研究では、主にハイリスク薬を対象に、母集団薬物動態（PK）および母集団薬物動態－薬力学（PK-PD）解析を行う。PK および PK-PD モデルを構築し、共変量探索により薬効および副作用の予測因子を特定する。構築モデルによるシミュレーションを実施し、薬物応答性の予測ツールの構築を目指す。
小出 彰宏	医薬品及び医療機器の開発、承認審査、製造販売後の安全対策では、レギュラトリーサイエンス（科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整する科学）的な考え方に基づいて様々な判断がなされている。医薬品や医療機器を取り巻く環境は年々変化しており、判断した当時と状況が大きく異なってくることもある。本研究では、種々のリアルワールドデータやインターネット上の公開情報などを利用して評価を行い、薬事関連課題を数値的に明確化し、さらに周辺の状況についても検討した上で考察を加え、論文化を図る。
岩瀬 由未子	経口投与は用量、剤型を比較的自由に選択できる安全性の高い投与経路であるが、薬物によっては難吸収性のため消化管から効率よく吸収できない。そこで、本科は博士課程では、人体に対する安全性が確立されている超音波を用いて、この超音波の音響化学的作用を利用した難吸収性薬物の消化管吸収増大を目的とした新規薬物送達システムの開発研究について研究指導する。大学院生は、本研究を遂行するとともに同領域の他の研究者の研究内容を習熟した上で論文化の技術を習得する。
吉門 崇	創薬において医薬品候補化合物の薬効を予測するには、標的臓器（組織）内の濃度を予測することが重要である。加えて、薬効・副作用の指標となる内因性化合物の体内動態を明らかにすることも必要とされている。本研究では、薬物・内因性化合物の体内動態および薬物相互作用等による変動を、生理学的薬物速度論モデルを用いて解析する。薬物代謝酵素・輸送体の関与や相互作用メカニズム等を明らかにするための <i>in vitro</i> 試験も併せて実施することで、モデル構築をサポートする。
田口 真穂	医薬品供給体制および医薬品の安全かつ適正な使用を目的とした薬学的管理に関わる機能等を題材とし、社会薬学的な観点を含めたレギュラトリーサイエンス的手法の効果や問題点を明らかにすることを目的に、各種のリアルワールドデータ（RWD）や公開情報を活用して数値化し、医薬品供給体制に関する規制や要件、薬学的管理の有効性を数値化・評価する。さらに、過去に施行された規制が現在有効に機能しているかを直近の現状と比較研究を実施して考察し、論文化を図る。

担当教員	内容
矢野 健太郎	<p>既存のがん薬物療法を奏効させるためには、薬物耐性を克服することが重要である。薬物耐性亢進の主な原因として、薬物動態変動因子である排出系トランスポーターの機能亢進が挙げられる。本研究では、がん細胞が薬物耐性能を獲得するメカニズム、および結果としての排出系トランスポーターの機能亢進を誘導する因子を同定し、新規創薬標的を見出すことを目的とする。研究成果は英文論文としてまとめ、学術論文誌に採択されることを目標とする。</p>

課題研究（漢方薬学領域）

対象学科・専攻：薬科学専攻 博士後期課程 区分 1：必修科目 年次：1・2・3 開講期：通年 単位：15

李 宜融（専任教授）、梅原 薫（兼任教授）、喻 静（兼任教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

研究態度、課題研究成果発表会での発表内容及び口頭試問に対する回答、中間報告並びに学位論文の内容を評価する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
李 宜融	近年、代替医療として漢方医薬への関心が高まっている。そのため、生薬を始めとする本草学・資源学・修治学をテーマとし、以下の課題研究を行い、人材育成を図る。1) 資源多様性からの新たな医薬素材の応用探索、2) 生薬の真偽鑑別・優劣評価の研究、3) 伝統医薬の古典本草考証、4) 民族伝統薬物の調査研究、5) 修治における薬膳の相関性及び応用
梅原 薫	各地の薬用植物を用いた伝承用法を理解するために、in vitro 試験による有効性の解析や評価と、様々な分離手法を用いた有効成分の単離および単離化合物の機器分析データ解析による構造決定を行う植物化学的な研究を行う。これらの技術修得を通して、解明が十分でない伝承用法に科学的な根拠を提供できる人材の育成を図る。
喻 静	老化に伴う疾患やがんは、超高齢化社会を迎えた日本において深刻な社会問題となっている。近年、漢方薬の薬理作用の解明が進み、高齢者疾患やがん治療への応用が期待されているが、その科学的根拠は十分に確立されていない。本課程では、①① in vitro および in silico 解析を用いた漢方薬の抗老化・抗ガン作用の機序解明、②難病性疾患治療および抗ガン剤による副作用軽減への漢方応用検討、③医薬データ解析による漢方薬の有害事象やリスクファクターの評価を行い、漢方医学と現代科学の知識を兼ね備えた研究者の育成を目指す。

博士課程

令和7(2025)年度 学 事 暦 博士日程1年次

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
4月			1	入学式 2 オリエンテーション	3	4	5	10月				1	2	3	4 ^①
	6	7 ^①	8	9	10	11	12 ^① 一(pm.)		5	6 ^①	7	8	9	10	11 ^②
	13	14 ^②	15	16	17	18	19 ^② 二(pm.)		12	13	14	15	16	17	18 ^③
	20	21 ^③	22	23	24	25	26 ^③ 三(pm.)		19	創立者記念日 20	21	22	23	24	25 ^④
	27	28 ^④	29	30	1	2	3		26	27 ^②	28	29	30	31	1 ^⑤
5月	4	5	6	7	8	9	10 ^④ 四(pm.)	11月	2	3	4	5	6	7	8 ^⑥ 特別講義⑦⑧
	11	12 ^⑤	13	14	15	16	17 ^⑤ 五(pm.)		9	10 ^③	11	12	13	14	15 ^⑦
	18	19 ^⑥	20	21	22	23	24 ^⑥ 特別講義①②		16	17 ^④	18	19	20	21	22 ^⑧
	25	26 ^⑦	27	28	29	30	31 ^⑦ 六(pm.)		23	24	25	26	27	28	29 ^⑨
6月	1	2 ^⑧	3	4	5	6	7 ^⑧ 七(pm.)	12月	30	1 ^⑤	2	3	4	5	6 ^⑩
	8	9 ^⑨	10	11	12	13	14 ^⑨ 八(pm.)		7	8 ^⑥	9	10	11	12	13 ^⑪
	15	16 ^⑩	17	18	19	20	21 ^⑩ 九(pm.)		14	15 ^⑦	16	17	18	19	20 ^⑫ 補講
	22	23 ^⑪	24	25	26	27	28 ^⑪ 十、十一(pm.)		21	22 ^⑧	23	24	25	26	27 ^⑬ 補講
	29	30 ^⑫	1	2	3	4	5 ^⑫ 十二、十三(pm.)		28	29	30	31	1	2	3
7月	6	7 ^⑬	8	9	10	11	12 ^⑬ 健診pm	1月	4	5 ^⑨	6	7	8	9	10 ^⑭ 特別講義⑨⑩
	13	14 ^⑭	15	16	17	18	19 ^⑭ 十四、十五(pm.)		11	12	13	14	15	16	17 ^⑮ 補講
	20	21	22	23	24	25	26 ^⑮ 特別講義③④		18	19 ^⑩	20	21	22	23	24 ^⑮ 補講
	27	28 ^⑮	29	30	31	1	2 ^⑮ 補講		25	26 ^⑪	27	28	29	30	31 ^⑮ 補講
8月	3	4 ^⑮ 補講	5	6	7	8	9 ^⑮ 補講	2月	1	2 ^⑫	3	4	5	6	7 ^⑮ 補講
	10	11	夏季休暇 12	13	14	15	16		8	9 ^⑬	10	11	12	13	14 ^⑮ 補講
	17	18 ^⑮ 補講	19	20	21	22	23 ^⑮ 補講		15	16 ^⑭	17	18	19	20	21 ^⑮ 補講
	24	25 ^⑮ 補講	26	27	28	29	30 ^⑮ 補講		22	23	24	25	26	27	28 ^⑮ 補講
	31	1 ^⑮ 補講	2	3	4	5	6 ^⑮ 特別講義⑤⑥	3月	1	2 ^⑮	3	4	5	6	7 ^⑮ 補講
9月	7	8 ^⑮ 補講	9	10	11	12	13 ^⑮ 補講		8	9 ^⑮ 補講	10	11	12	13	14 ^⑮ 補講
	14	15	16	17	18	19	20 ^⑮ 補講		15	16 ^⑮ 補講	17	18	19	20	21 ^⑮ 補講
	21	22 ^⑮ 補講	23	24	25	26	27 ^⑮ 補講		22	23 ^⑮ 補講	24	25	26	27	28 ^⑮ 補講
	28	29 ^⑮ 補講	30						29	30 ^⑮ 補講	31				

令和7(2025)年度 学 事 暦 博士課程2年次

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
4月			1	入学式 2 オリエンテーション	3	4	5	10月				1	2	3	4 ①
	6	7 ①	8	9	10	11	12 ① 一(pm.)		5	6 ①	7	8	9	10	11 ②
	13	14 ②	15	16	17	18	19 ② 二(pm.)		12	13	14	15	16	17	18 ③
	20	21 ③	22	23	24	25	26 ③ 三(pm.)		19	創立者記念日 20	21	22	23	24	25 ④
	27	28 ④	29	30	1	2	3		26	27 ②	28	29	30	31	1 ⑤
5月	4	5	6	7	8	9	10 ④ 四(pm.)	11月	2	3	4	5	6	7	8 ⑥
	11	12 ⑤	13	14	15	16	17 ⑤ 五(pm.)		9	10 ③	11	12	13	14	15 ⑦
	18	19 ⑥	20	21	22	23	24 ⑥ 六(pm.)		16	17 ④	18	19	20	21	22 ⑧
	25	26 ⑦	27	28	29	30	31 ⑦		23	24	25	26	27	28	29 ⑨
6月	1	2 ⑧	3	4	5	6	7 ⑧ 七(pm.)	12月	30	1 ⑤	2	3	4	5	6 ⑩
	8	9 ⑨	10	11	12	13	14 ⑨ 八(pm.)		7	8 ⑥	9	10	11	12	13 ⑪
	15	16 ⑩	17	18	19	20	21 ⑩ 九(pm.)		14	15 ⑦	16	17	18	19	20 ⑫ 補講
	22	23 ⑪	24	25	26	27	28 ⑪ 十、十一(pm.)		21	22 ⑧	23	24	25	26	27 ⑬ 補講
	29	30 ⑫	1	2	3	4	5 ⑫ 十二、十三(pm.)		28	29	30	31	1	2	3
7月	6	7 ⑬	8	9	10	11	12 ⑬ 健診pm	1月	4	5 ⑨	6	7	8	9	10 ⑭
	13	14 ⑭	15	16	17	18	19 ⑭		11	12	13	14	15	16	17 ⑮ 補講
	20	21	22	23	24	25	26 ⑮ 十四、十五(pm.)		18	19 ⑩	20	21	22	23	24 補講
	27	28 ⑮	29	30	31	1	2 補講		25	26 ⑪	27	28	29	30	31 補講
8月	3	4 補講	5	6	7	8	9 補講	2月	1	2 ⑫	3	4	5	6	7 補講
	10	11	夏季休暇 12	13	14	15	16		8	9 ⑬	10	11	12	13	14 補講
	17	18 補講	19	20	21	22	23 補講		15	16 ⑭	17	18	19	20	21 補講
	24	25 補講	26	27	28	29	30 補講		22	23	24	25	26	27	28 補講
	31	1 補講	2	3	4	5	6 補講		1	2 ⑮	3	4	5	6	7 補講
9月	レポート提出・単位認定							3月	進捗報告発表会						
	7	8 補講	9	10	11	12	13 補講		8	9 補講	10	11	12	13	14 補講
	14	15	16	17	18	19	20 補講		15	16 補講	17	18	19	20	21 補講
	21	22 補講	23	24	25	26	27 補講		22	23 補講	24	25	26	27	28 補講
	28	29 補講	30						29	30 補講	31				

令和7(2025)年度 学 事 暦 博士課程3年次

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
4月			1	2	3	4	5	10月				1	2	3	4
	6	7①	8	9	10	11	12		5	6①	7	8	9	10	11
	13	14②	15	16	17	18	19		12	13	14	15	16	17	18
	20	21③	22	23	24	25	26		19	創立者記念日 20	21	22	23	24	25
	27	28④	29	30	1	2	3		26	27②	28	29	30	31	1
5月	4	5	6	7	8	9	10	11月	2	3	4	5	6	7	8
	11	12⑤	13	14	15	16	17		9	10③	11	12	13	14	15
	18	19⑥	20	21	22	23	24		16	17④	18	19	20	21	22
	25	26⑦	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
6月	1	2⑧	3	4	5	6	7	12月	30	1⑤	進捗報告会				
	8	9⑨	10	11	12	13	14		7	8⑥	9	10	11	12	13
	15	16⑩	17	18	19	20	21		14	15⑦	16	17	18	19	20
	22	23⑪	24	25	26	27	28		21	22⑧	23	24	25	26	27
	29	30⑫	1	2	3	4	5		28	29	30	31	1	2	3
7月	6	7⑬	8	9	10	11	12 健診pm	1月	4	5⑨	6	7	8	9	10
	13	14⑭	15	16	17	18	19		11	12	13	14	15	16	17
	20	21	22	23	24	25	26		18	19⑩	20	21	22	23	24
	27	28⑮	29	30	31	1	2		25	26⑪	27	28	29	30	31
8月	3	4 補講	5	6	7	8	9	2月	1	2⑫	学位審査発表会				
	10	11	夏季休暇 12	13	14	15	16		8	9⑬	10	11	12	13	14
	17	18 補講	19	20	21	22	23		15	16⑭	17	18	19	20	21
	24	25 補講	26	27	28	29	30		22	23	24	25	26	27	28
	31	1 補講	2	3	4	5	6	3月	1	2⑮	3	4	5	6	7
7	8 補講	レポート提出・単位認定					8		9 補講	10	11	12	13	14	
14	15	16	17	18	19	20	15		16 補講	17	18	19	20	21	
21	22 補講	23	24	25	26	27	22		23 補講	24	25	26	27	28	
28	29 補講	30					29		30 補講	31					

令和7(2025)年度 学 事 暦 博士課程4年次

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
4月			1	2	3	4	5	10月				1	2	3	4
	6	7①	8	9	10	11	12		5	6①	7	8	9	10	11
	13	14②	15	16	17	18	19		12	13	14	15	16	17	18
	20	21③	22	23	24	25	26		19	創立者記念日 20	21	22	23	24	25
	27	28④	29	30	1	2	3		26	27②	28	29	30	31	1
5月	4	5	6	7	8	9	10	11月	2	3	4	5	6	7	8
	11	12⑤	13	14	15	16	17		9	10③	11	12	13	14	15
	18	19⑥	20	21	22	23	24		16	17④	18	19	20	21	22
	25	26⑦	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
6月	1	2⑧	3	4	5	6	7	12月	30	1⑤	進捗報告会				
	8	9⑨	10	11	12	13	14		7	8⑥	9	10	11	12	13
	15	16⑩	17	18	19	20	21		14	15⑦	16	17	18	19	20
	22	23⑪	24	25	26	27	28		21	22⑧	23	24	25	26	27
	29	30⑫	1	2	3	4	5		28	29	30	31	1	2	3
7月	6	7⑬	8	9	10	11	12 健診pm	1月	4	5⑨	6	7	8	9	10
	13	14⑭	15	16	17	18	19		11	12	13	14	15	16	17
	20	21	22	23	24	25	26		18	19⑩	20	21	22	23	24
	27	28⑮	29	30	31	1	2		25	26⑪	27	28	29	30	31
8月	3	4 補講	5	6	7	8	9	2月	1	2⑫	学位審査発表会				
	10	11	夏季休暇 12	13	14	15	16		8	9⑬	10	11	12	13	14
	17	18 補講	19	20	21	22	23		15	16⑭	17	18	19	20	21
	24	25 補講	26	27	28	29	30		22	23	24	25	26	27	28
	31	1 補講	2	3	4	5	6	3月	1	2⑮	3	4	5	6	7
7	8 補講	レポート提出・単位認定					13		8	9 補講	10	11	12	13	14
14	15	16	17	18	19	20	15		16 補講	17	18	19	20	21	
21	22 補講	23	24	25	26	27	22		23 補講	24	25	26	27	28	
28	29 補講	30					29		30 補講	31					

科目配当表(2025年度) 博士課程

		2 年次（ 2 0 2 4 年度入学対応）		1年次（ 2 0 2 5 年度入学対応）	
		前期	後期	前期	後期
選択科目	隔年開講	分子薬科学特論	医療データサイエンス特論	分子薬科学特論	臨床薬理学特論
		臨床薬物送達学特論	分子衛生薬学特論	臨床薬物送達学特論	分子衛生薬学特論
		臨床薬物評価学		臨床薬物評価学	
	毎年開講			ファーマコメトリクス演習	
				精密分析機器特別演習	
必須科目				臨床薬学大学院特別講義	
		課題研究	課題研究	課題研究	課題研究

		3 年 次（博士課程）		4 年 次（博士課程）	
		前期	後期	前期	後期
必須科目		課題研究	課題研究	課題研究	課題研究

講 義 計 画 【薬学専攻 博士課程】

2025年度入学（1年次） 2024年度入学（2年次）				2025年度入学（2年次）			
科 目 名	単位	前後	担 当 者	科 目 名	単位	前後	担 当 者
分子薬化学特論	2	●	庄司 満、佐藤康夫、塚本裕一、 鰐淵清史、磯村茂樹、横江弘雅、 奥野義規	臨床生化学特論	2	●	田邊由幸、小笹 徹、岡美佳子、 川嶋 剛、高橋哲史、山崎泰男、 鹿本泰生、藤田 融
医療データサイエンス特論	2	●	飯田理文、他（部外）	臨床薬理学特論	2	●	千葉康司、田邊由幸、岡田賢二、 吉門 崇、友部浩二、藤森順也、 日塔武彰、出雲信夫、村田実希郎
臨床薬物送達学特論	2	●	矢野健太郎、千葉康司、 岩瀬由未子、吉門 崇	漢方医療薬学特論	2	●	喻 静、金 成俊、梅原 薫、 榊原 巖、飯塚 徹、 五十鈴川和人、稲垣善則
臨床薬物評価学特論	2	●	小出彰宏、千葉康司、速水耕介、 山田博章、	統合医療薬学特論	2	●	喻 静、梅原 薫、五十鈴川和人、 伊藤亜希、榊原 巖、他（部外）
分子衛生薬学特論	2	●	埴岡伸光、香川聡子、越智定幸、 速水耕介、大河原 晋、磯部隆史、 高橋栄造、曾根秀子、河村伊久雄、 三浦伸彦				
ファーマコメトリクス演習	1	●	千葉康司、岡田賢二、飯田理文、 友田有加菜				
精密分析機器特別演習	1	●	岩瀬由未子、岡美佳子、 川嶋 剛、川嶋芳枝、 磯部隆史、吉門 崇、 鰐淵清史、殿岡恵子、 奥野義規				
臨床薬学大学院特別講義	1	○	領域責任者				
課題研究	20	○	研究指導教員	課題研究	20	○	研究指導教員

3 年 次				4 年 次			
科 目 名	単位	前後	担 当 者	科 目 名	単位	前後	担 当 者
課題研究	20	○	研究指導教員	課題研究	20	○	研究指導教員

●：選択科目

○：必須科目

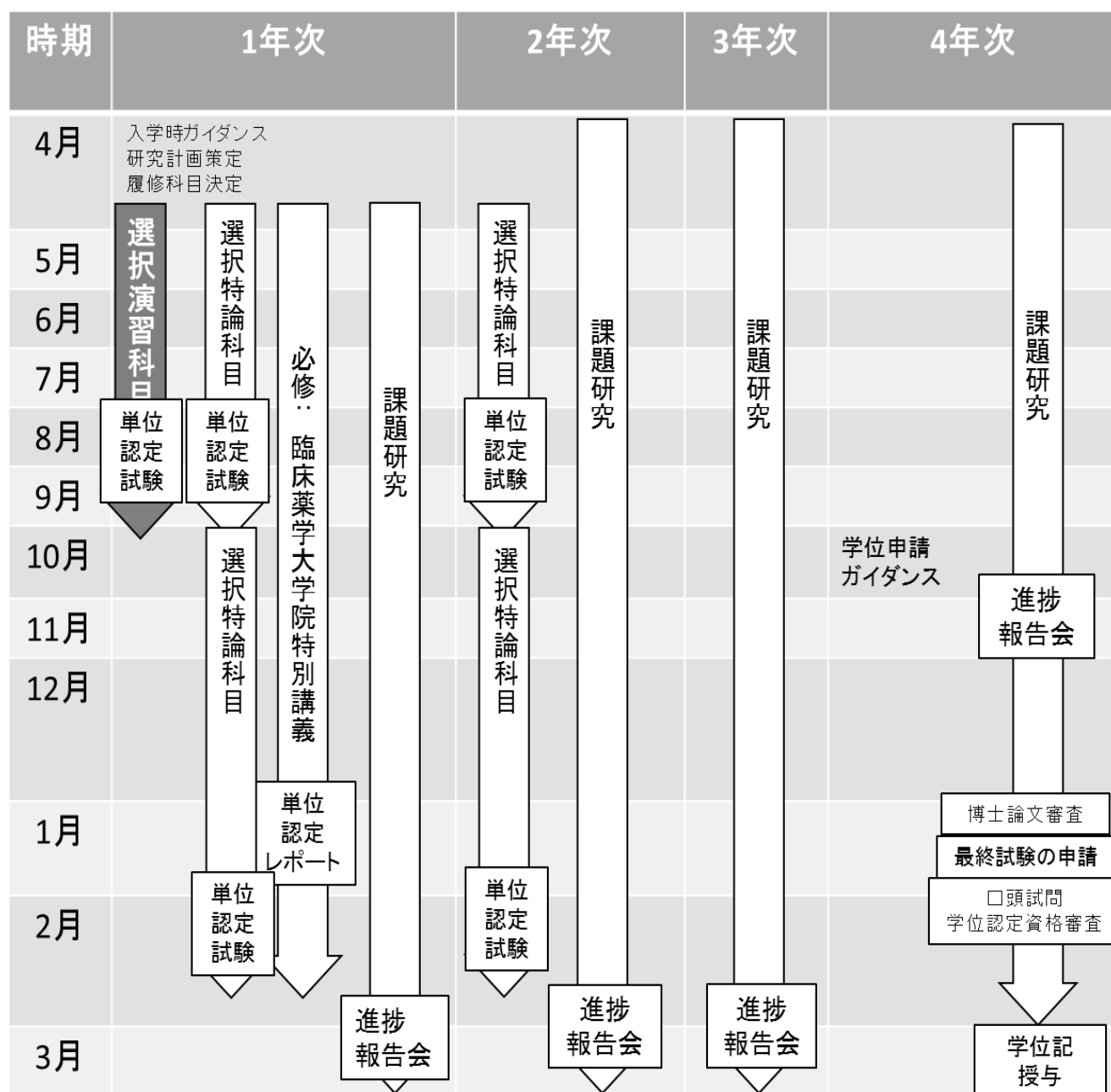
隔年開講科目

修了要件及び履修方法

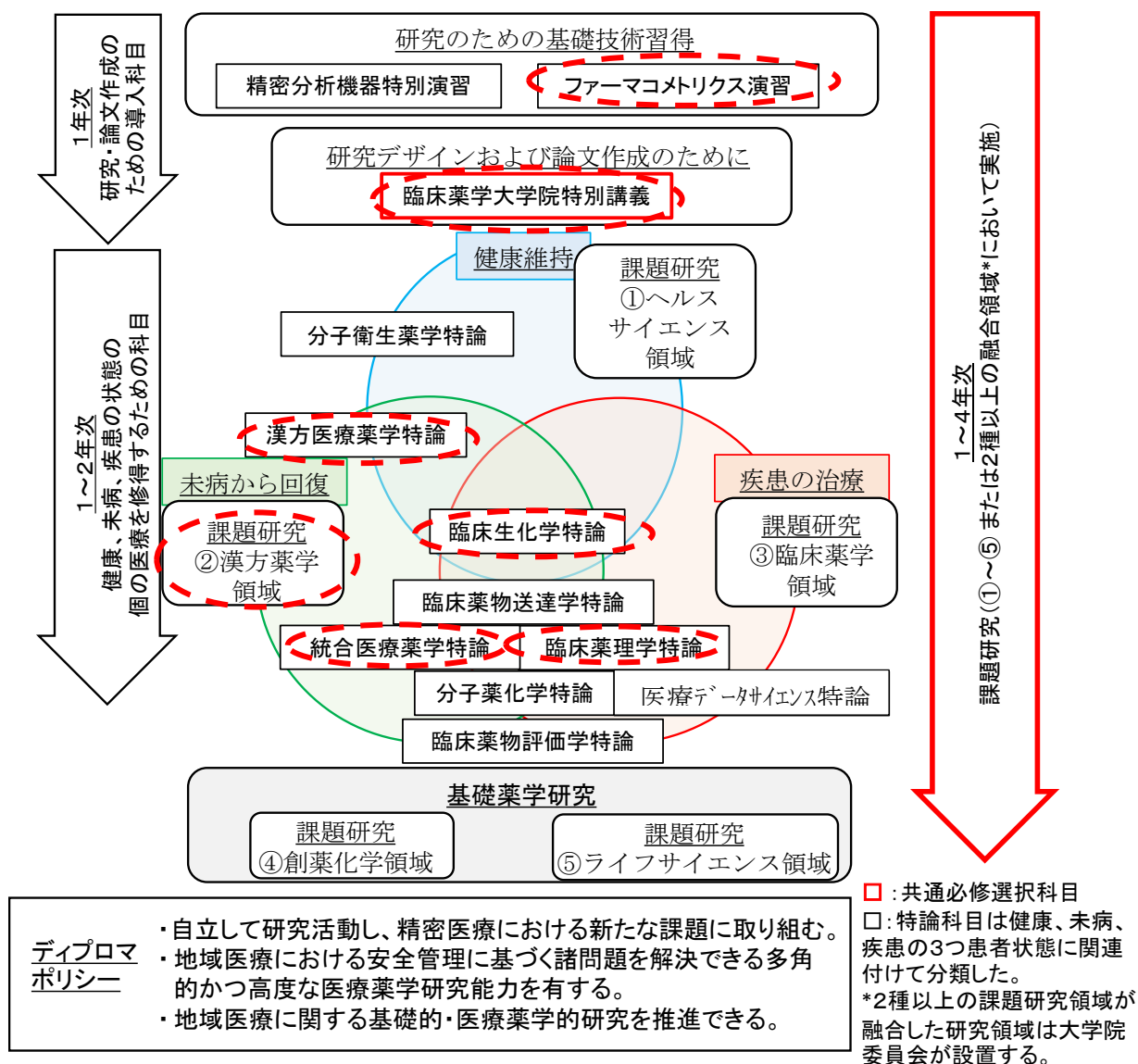
大学院に4年以上在学し、必修科目21単位及び選択科目9単位以上、合計30単位以上を修得

入学から修了までのスケジュール

大学院薬学研究科博士課程



薬学専攻博士課程の履修モデル



：未病の患者に個の医療を提案できる薬学科学者を目指す例

必修科目 21 単位（課題研究②を選択） および選択科目 9 単位
を選択する。

選 択 科 目

(薬学研究科薬学専攻博士課程)

科目区分	授業科目の名称	開講時期	科目責任者	講義等の内容	備考
選 択	分子薬化学特論	2025年度 前期	庄 司	近年、医薬品の探索段階において、標的蛋白質が既に絞り込まれているケースが多い。効率的な医薬品開発を進めるために、候補化合物とターゲットの高精度な構造情報分析と相互作用予測が必要となる。一方、医療現場では個別化医療の実現を目指し、病態よりも遺伝子や蛋白の変異に注目して第一選択薬を決めようとするパラダイムシフトが起こっている。これらを踏まえて本特論では、医薬品の化学構造を基に、医薬品合成に必要な有機化学反応を理解するとともに、生体内の作用や期待される薬効との関連性を学び、治療戦略上の位置づけなどを理解することを目指す。	隔年科目
	医療データサイエンス特論	2025年度 後期	飯 田	コンピュータと情報科学によって、薬学基礎および臨床研究で扱うデータの性質、データの性質に基づいた適切な解析方法について理解し、関連する規制についても注意を払って、実行できる基本技術を身に着ける。また、最新の技術について理解を深める。	隔年科目
	臨床生化学特論	2026年度 前期	田 邊	分子生物学の基礎的知識に基づき、タンパク質の構造と機能、遺伝子の発現調節機構、代謝などに関する複雑な生命現象を分子レベルで解説することで生命活動を分子的な側面からの理解を深める。医薬品の薬効発現の場としての生体について理解を深める。	隔年科目
	臨床薬理学特論	2026年度 後期	千 葉	循環器系、代謝系およびその関連・隣接分野において、薬物動態と薬理反応の連結、病態特異的な薬物治療標的分子および関連バイオマーカーの変動、さらに治療の実践について概説する。また、既存薬物の作用機序について更に論理的な理解を深めるとともに、疾患組織・細胞の機能異常や組織モデリング、薬物反応性変化の分子細胞機構に着目した新規薬物の開発や既存薬の適用拡大に向けたトランスレーショナル研究について学ぶ。	隔年科目
	臨床薬物送達学特論	2025年度 前期	矢 野	医薬品は、標的蛋白に結合することが出来ても、その標的蛋白近傍まで到達しなくては薬効を示さない。本特論では、コンパートメントモデル解析、生理学的モデル、モーメント解析等を総合的に駆使し、さらにクリアランスコンセプトや薬物代謝学の知識も併せ、臨床における薬物送達の仕組みと治療への適用、さらに薬物相互作用の回避と応用について、実例を踏まえながら詳細に学ぶ。	隔年科目
	臨床薬物評価学特論	2025年度 前期	山 田	薬局は、医師の処方を終え、患者が医薬品を武器に疾患に対峙する最終段階の場である。ここでは、限られた集団で実施された臨床試験データから得られた有効性と安全性が、より広い患者集団に適用される。また、新有効成分では、再審査といういわゆる仮免許段階にある。現場では、承認時の有効性と安全性が、臨床現場で再現できるか確認をしなければならない。本特論では、医薬品開発段階に予定された集団に加え、適用経験の少ない集団において、有効性・安全性を検出するための技術、規制、しくみについて、実例と照らしながら学ぶ。	隔年科目
	分子衛生薬学特論	2025年度 後期	速 水	薬剤師は、病院や薬局のみならず、予防衛生、健康増進及び学校教育環境ならびに衛生行政に重要な社会的役割を果たす職種である。そのためには、薬学・医学の基盤となる知識および技術を習得した上に、生体異物(環境汚染物質や毒物など)の生体内運命や毒性発現の分子機序を論理的に理解し、更に、生活習慣などの環境因子により惹起される疾患の機序と予防の方策を多面的かつ高度な考察能力を有する薬剤師の育成が不可欠である。本特論では、衛生薬学的見地から、(1)生体異物の毒性発現発現機序、(2)生体異物の解毒に関与する生体内因子とその機構、(3)心血管系疾患および中枢神経系疾患の発症機序と環境因子との関連性、ならびに(4)労働環境における化学物質暴露による健康影響ならびに(5)化学物質のリスク評価手法について講述するとともに討議して知見を深める。	隔年科目
	漢方医療薬学特論	2026年度 前期	喻	漢方の専門教育・研究を充実する一方で、薬学全体を俯瞰できる総合的な講義内容とした。漢方専門分野の中から複数の異なる視点から方法論を見出し、統合的視野、柔軟な探求精神、総合的判断力を備え、これからの学問的および社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。本講義は、「漢方理論」や「漢方処方学」の修得を念頭に置いて講義する。漢方方剤の基礎知識の修得のみならず、臨床応用についても併せて解説する。講義の構成は、座学のみではなく、eラーニングを使用した反転授業を取り入れ、双方向の参加型講義形式を採る。	隔年科目
	統合医療薬学特論	2026年度 後期	喻	漢方・統合医療薬学特論は漢方の専門教育・研究を充実する一方で、薬学全体を俯瞰できる総合的な講義内容とした。漢方専門分野の中から複数の異なる視点から方法論を見出し、統合的視野、柔軟な探求精神、総合的判断力を備え、これからの学問的および社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。本講義は、21世紀の高齢社会において、漢方治療は現代医療と相互補完の形で応用され、漢方製剤の需要はますます高まっていく。本特論では、漢方薬学の応用面を重視し、オムニバス形式で、広範囲にまたがる専門知識と、現代医療における漢方の役割についても講義する。講義の構成は、座学のみではなく、eラーニングを使用した反転授業を取り入れ、双方向の参加型講義形式を採る。	隔年科目

科目 区分	授業科目の名称	開講時期	科 目 責 任 者	講義等の内容	備考
選 択	ファーマコメトリクス演習	2025年度 前期	千葉	創薬段階において、開発医薬品の有効性・安全性を予測するために、数理モデルが構築されることが一般的となった。規制当局は、承認審査の過程で、臨床試験の実施が困難な特殊集団であったとしても、必要とあれば数理モデルを用い、シミュレーションを要求した上で、その予測結果の提出を求めている。その一部は添付文書にも記載されることになる。従って現場では、この予測手法を熟知し、場合によっては自らそのモデルを再構築し、目の前の患者の有効性・安全性を確率とともに示すことが望まれる。本演習では、製薬企業が臨床段階で用いているソフトウェアを使用し、様々な患者集団における有効性・安全性予測をコンピューターを実際に使いながら演習形式で学ぶ。	
	精密分析機器特別演習	2025年度 前期	岩瀬	最新の研究機器を用いて、生物系及び分析系の研究の基礎となる主義を学び、機器の使い方を習得することで、創薬の基礎となる基本的な実験手法、手順を学ぶ。	

授 業 時 間 割 表 (博 士 課 程)

1 年次 (2025 年入学対応) 前期

	I 9:00-10:30		II 10:45-12:15		IV 13:15-14:45		V 15:00-16:30		VI 16:45-18:15	
曜日	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者
月	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官
火									精密分析機器 特別演習	岩瀬、他
水										
木										
金										
土	臨床薬物送達学特論	庄司、他	臨床薬物評価学特論	喻、他	ファーマコトキシ 演習	千葉、他	分子薬化学特論	庄司、他		
					☆ 臨床薬学大学院 特別講義	田邊、他	☆ 臨床薬学大学院 特別講義	田邊、他		

☆:6、7、9月に開講(2コマ×3回)

注：課題研究の時間枠は、課題研究の指導を受ける時間です。研究課題によって別の時間帯になり、また時間数も異なります。研究指導教員に確認してください。

1 年次 (2025 年入学対応) 後期

	I 9:00-10:30		II 10:45-12:15		IV 13:15-14:45		V 15:00-16:30		VI 16:45-18:15	
曜日	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者
月	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官		
火										
水										
木										
金										
土	医療データサイエンス特論	飯田	分子衛生薬学特論	速水、他						
					☆ 臨床薬学大学院 特別講義	田邊、他	☆ 臨床薬学大学院 特別講義	田邊、他		

☆:11、1月に開講(2コマ×2回)

注：課題研究の時間枠は、課題研究の指導を受ける時間です。研究課題によって別の時間帯になり、また時間数も異なります。研究指導教員に確認してください。

授 業 時 間 割 表 (博 士 課 程)

2 年次 (2024 年入学対応) 前期

	Ⅰ 9:00-10:30		Ⅱ 10:45-12:15		Ⅳ 13:15-14:45		Ⅴ 15:00-16:30		Ⅵ 16:45-18:15	
曜日	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者
月	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官				
火										
水										
木										
金										
土	臨床薬物送達学特論	矢野、他	臨床薬物評価学特論	山田、他			分子薬化学特論	庄司、他		

注：課題研究の時間枠は、課題研究の指導を受ける時間です。研究課題によって別の時間帯になり、また時間数も異なります。研究指導教員に確認してください。

2 年次 (2024 年入学対応) 後期

	Ⅰ 9:00-10:30		Ⅱ 10:45-12:15		Ⅳ 13:15-14:45		Ⅴ 15:00-16:30		Ⅵ 16:45-18:15	
曜日	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者	科 目	科目 責任者
月	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官	課題研究	指導教官				
火										
水										
木										
金										
土	医療データサイエンス特論	飯田	分子衛生薬学特論	速水、他						

注：課題研究の時間枠は、課題研究の指導を受ける時間です。研究課題によって別の時間帯になり、また時間数も異なります。研究指導教員に確認してください。

2025年度 前期 時間割【博士課程 1年次】

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
4月1日	火															
4月2日	水	入学式・オリエンテーション・履修科目提出 (17:00×切)														
4月3日	木															
4月4日	金															
4月5日	土															
4月7日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
4月8日	火													精密分析器械特別演習①	岩瀬、他	
4月9日	水															
4月10日	木															
4月11日	金															
4月12日	土	分子薬化学 特論①	庄司、他		臨床薬物送達学 特論①	矢野、他		臨床薬物評価学 特論①	山田、他		ファーマコメントリクス演習①	千葉、他				
4月14日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
4月15日	火													精密分析器械特別演習②	岩瀬、他	
4月16日	水															
4月17日	木															
4月18日	金															
4月19日	土	分子薬化学 特論②	庄司、他		臨床薬物送達学 特論②	矢野、他		臨床薬物評価学 特論②	山田、他		モデリング・シミュレーション 演習②	千葉、他				
4月21日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
4月22日	火													精密分析器械特別演習③	岩瀬、他	
4月23日	水															
4月24日	木															
4月25日	金															
4月26日	土	分子薬化学 特論③	庄司、他		臨床薬物送達学 特論③	矢野、他		臨床薬物評価学 特論③	山田、他		モデリング・シミュレーション 演習③	千葉、他				
4月28日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
4月29日	火															
4月30日	水															
5月1日	木															
5月2日	金															
5月3日	土															
5月5日	月															
5月6日	火															
5月7日	水															
5月8日	木															
5月9日	金															
5月10日	土	分子薬化学 特論④	庄司、他		臨床薬物送達学 特論④	矢野、他		臨床薬物評価学 特論④	山田、他		モデリング・シミュレーション 演習④	千葉、他				
5月12日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
5月13日	火													精密分析器械特別演習④	岩瀬、他	
5月14日	水															
5月15日	木															
5月16日	金															
5月17日	土	分子薬化学 特論⑤	庄司、他		臨床薬物送達学 特論⑤	矢野、他		臨床薬物評価学 特論⑤	山田、他		モデリング・シミュレーション 演習⑤	千葉、他				
5月19日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
5月20日	火													精密分析器械特別演習⑤	岩瀬、他	
5月21日	水															
5月22日	木															
5月23日	金															
5月24日	土	分子薬化学 特論⑥	庄司、他		臨床薬物送達学 特論⑥	矢野、他		★薬科学大学院 特別講義①	田邊、他		★薬科学大学院 特別講義②	田邊、他				

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
5月26日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
5月27日	火													精密分析器械特別演習⑥	岩瀬、他	
5月28日	水															
5月29日	木															
5月30日	金															
5月31日	土	分子薬化学特論⑦	庄司、他		臨床薬物送達学特論⑦	矢野、他		臨床薬物評価学特論⑥	山田、他		モデリング・シミュレーション演習⑥	千葉、他				
6月2日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
6月3日	火													精密分析器械特別演習⑦	岩瀬、他	
6月4日	水															
6月5日	木															
6月6日	金															
6月7日	土	分子薬化学特論⑧	庄司、他		臨床薬物送達学特論⑧	矢野、他		臨床薬物評価学特論⑦	山田、他		モデリング・シミュレーション演習⑦	千葉、他				
6月9日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
6月10日	火													精密分析器械特別演習⑧	岩瀬、他	
6月11日	水															
6月12日	木															
6月13日	金															
6月14日	土	分子薬化学特論⑨	庄司、他		臨床薬物送達学特論⑨	矢野、他		臨床薬物評価学特論⑧	山田、他		モデリング・シミュレーション演習⑧	千葉、他				
6月16日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
6月17日	火													精密分析器械特別演習⑨	岩瀬、他	
6月18日	水															
6月19日	木															
6月20日	金															
6月21日	土	分子薬化学特論⑩	庄司、他		臨床薬物送達学特論⑩	矢野、他		臨床薬物評価学特論⑨	山田、他		補講					
6月23日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
6月24日	火													精密分析器械特別演習⑩	岩瀬、他	
6月25日	水															
6月26日	木															
6月27日	金															
6月28日	土	分子薬化学特論⑪	庄司、他		臨床薬物送達学特論⑪	矢野、他		臨床薬物評価学特論⑩	山田、他		臨床薬物評価学特論⑪	山田、他				
6月30日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
7月1日	火													補講		
7月2日	水															
7月3日	木															
7月4日	金															
7月5日	土	分子薬化学特論⑫	庄司、他		臨床薬物送達学特論⑫	矢野、他		臨床薬物評価学特論⑪	山田、他		臨床薬物評価学特論⑫	山田、他				
7月7日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
7月8日	火													補講		
7月9日	水															
7月10日	木															
7月11日	金															
7月12日	土	分子薬化学特論⑬	庄司、他		臨床薬物送達学特論⑬	矢野、他					健康診断（休講）					
7月14日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
7月15日	火													補講		
7月16日	水															
7月17日	木															
7月18日	金															
7月19日	土	分子薬化学特論⑭	庄司、他		臨床薬物送達学特論⑭	矢野、他		臨床薬物評価学特論⑭	山田、他		臨床薬物評価学特論⑮	山田、他				

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
7月21日	月															
7月22日	火													補講		
7月23日	水															
7月24日	木															
7月25日	金															
7月26日	土	分子薬化学 特論⑤	庄司、他		臨床薬物送達学 特論⑤	矢野、他		★ 薬科学大学院 特別講義③	田邊、他		★ 薬科学大学院 特別講義④	田邊、他				
7月28日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
7月29日	火													補講		
7月30日	水															
7月31日	木															
8月1日	金															
8月2日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
8月4日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月5日	火															
8月6日	水													補講		
8月7日	木															
8月8日	金													補講		
8月9日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
8月11日	月															
8月12日	火															
8月13日	水															
8月14日	木															
8月15日	金															
8月16日	土															
8月18日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月19日	火															
8月20日	水													補講		
8月21日	木															
8月22日	金													補講		
8月23日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
8月25日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月26日	火															
8月27日	水													補講		
8月28日	木															
8月29日	金													補講		
8月30日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月1日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月2日	火															
9月3日	水													補講		
9月4日	木															
9月5日	金													補講		
9月6日	土	補講			補講			★ 薬科学大学院 特別講義⑤	田邊、他		★ 薬科学大学院 特別講義⑥	田邊、他		補講		
9月8日	月	レ ポ ー ト 提 出			補講			補講			補講			補講		
9月9日	火															
9月10日	水													補講		
9月11日	木															
9月12日	金													補講		
9月13日	土				補講			補講			補講			補講		

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
9月15日	月															
9月16日	火															
9月17日	水													補講		
9月18日	木															
9月19日	金													補講		
9月20日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月22日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月23日	火															
9月24日	水													補講		
9月25日	木															
9月26日	金													補講		
9月27日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月29日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月30日	火															

2025年度 後期 時間割【博士課程 1年次】

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
10月1日	水															
10月2日	木															
10月3日	金															
10月4日	土	医療データサイエンス特論①	飯田		分子衛生薬学特論①	速水、他										
10月6日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
10月7日	火															
10月8日	水															
10月9日	木															
10月10日	金															
10月11日	土	医療データサイエンス特論②	飯田		分子衛生薬学特論②	速水、他										
10月13日	月															
10月14日	火															
10月15日	水															
10月16日	木															
10月17日	金															
10月18日	土	医療データサイエンス特論③	飯田		分子衛生薬学特論③	速水、他										
10月20日	月	創立者記念日														
10月21日	火															
10月22日	水															
10月23日	木															
10月24日	金															
10月25日	土	医療データサイエンス特論④	飯田		分子衛生薬学特論④	速水、他										
10月27日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
10月28日	火															
10月29日	水															
10月30日	木															
10月31日	金															
11月1日	土	医療データサイエンス特論⑤	飯田		分子衛生薬学特論⑤	速水、他										
11月3日	月															
11月4日	火															
11月5日	水															
11月6日	木															
11月7日	金															
11月8日	土	医療データサイエンス特論⑥	飯田		分子衛生薬学特論⑥	速水、他		★ 臨床薬学大学院特別講義⑦	田邊、他		★ 臨床薬学大学院特別講義⑧	田邊、他				
11月10日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
11月11日	火															
11月12日	水															
11月13日	木															
11月14日	金															
11月15日	土	医療データサイエンス特論⑦	飯田		分子衛生薬学特論⑦	速水、他										
11月17日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
11月18日	火															
11月19日	水															
11月20日	木															
11月21日	金															
11月22日	土	医療データサイエンス特論⑧	飯田		分子衛生薬学特論⑧	速水、他										

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
11月24日	月															
11月25日	火															
11月26日	水															
11月27日	木															
11月28日	金															
11月29日	土	医療データサイエンス特論⑨	飯田		分子衛生薬学特論⑨	速水、他										
12月1日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
12月2日	火															
12月3日	水															
12月4日	木															
12月5日	金															
12月6日	土	医療データサイエンス特論⑩	飯田		分子衛生薬学特論⑩	速水、他										
12月8日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
12月9日	火															
12月10日	水															
12月11日	木															
12月12日	金															
12月13日	土	医療データサイエンス特論⑪	飯田		分子衛生薬学特論⑪	速水、他										
12月15日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
12月16日	火															
12月17日	水															
12月18日	木															
12月19日	金															
12月20日	土	医療データサイエンス特論⑫	飯田		分子衛生薬学特論⑫	速水、他					補講			補講		
12月22日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
12月23日	火															
12月24日	水															
12月25日	木															
12月26日	金															
12月27日	土	医療データサイエンス特論⑬	飯田		分子衛生薬学特論⑬	速水、他					補講			補講		
12月29日	月															
12月30日	火															
12月31日	水															
1月5日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
1月6日	火															
1月7日	水															
1月8日	木															
1月9日	金															
1月10日	土	医療データサイエンス特論⑭	飯田		分子衛生薬学特論⑭	速水、他		★ 臨床薬学大学院特別講義⑨	オムニバス(田邊)		★ 臨床薬学大学院特別講義⑩	オムニバス(田邊)				
1月12日	月															
1月13日	火															
1月14日	水															
1月15日	木															
1月16日	金															
1月17日	土	医療データサイエンス特論⑮	飯田		分子衛生薬学特論⑮	速水、他		補講			補講					
1月19日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
1月20日	火															
1月21日	水															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
1月22日	木															
1月23日	金															
1月24日	土	補講			補講			補講			補講					
1月26日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
1月27日	火															
1月28日	水															
1月29日	木															
1月30日	金															
1月31日	土	補講			補講			補講			補講					
2月2日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
2月3日	火															
2月4日	水															
2月5日	木															
2月6日	金															
2月7日	土	補講			補講			補講			補講					
2月9日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
2月10日	火															
2月11日	水															
2月12日	木															
2月13日	金															
2月14日	土	補講			補講			補講			補講					
2月16日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
2月17日	火															
2月18日	水															
2月19日	木															
2月20日	金															
2月21日	土	補講			補講			補講			補講					
2月23日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
2月24日	火	レポート提出 単位認定														
2月25日	水															
2月26日	木															
2月27日	金															
2月28日	土				補講			補講			補講					
3月2日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月3日	火															
3月4日	水															
3月5日	木															
3月6日	金															
3月7日	土	補講			補講			補講			補講					
3月9日	月	(博士・進歩報告かい 1年生)			補講			補講			補講			補講		
3月10日	火															
3月11日	水															
3月12日	木															
3月13日	金															
3月14日	土				補講			補講			補講			補講		
3月16日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月17日	火															
3月18日	水															

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
3月19日	木															
3月20日	金															
3月21日	土	補講			補講			補講			補講					
3月23日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月24日	火															
3月25日	水															
3月26日	木															
3月27日	金															
3月28日	土	補講			補講			補講			補講					
3月30日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月31日	火															

2025年度 前期 時間割【博士課程 2年次】

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
4月1日	火															
4月2日	水	入学式・オリエンテーション・履修科目提出 (17:00まで)														
4月3日	木															
4月4日	金															
4月5日	土															
4月7日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
4月8日	火															
4月9日	水															
4月10日	木															
4月11日	金															
4月12日	土	分子薬化学 特論①	庄司、他		臨床薬物送達学 特論①	矢野、他		臨床薬物評価学 特論①	山田、他							
4月14日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
4月15日	火															
4月16日	水															
4月17日	木															
4月18日	金															
4月19日	土	分子薬化学 特論②	庄司、他		臨床薬物送達学 特論②	矢野、他		臨床薬物評価学 特論②	山田、他							
4月21日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
4月22日	火															
4月23日	水															
4月24日	木															
4月25日	金															
4月26日	土	分子薬化学 特論③	庄司、他		臨床薬物送達学 特論③	矢野、他		臨床薬物評価学 特論③	山田、他							
4月28日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
4月29日	火															
4月30日	水															
5月1日	木															
5月2日	金															
5月3日	土															
5月5日	月															
5月6日	火															
5月7日	水															
5月8日	木															
5月9日	金															
5月10日	土	分子薬化学 特論④	庄司、他		臨床薬物送達学 特論④	矢野、他		臨床薬物評価学 特論④	山田、他							
5月12日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
5月13日	火															
5月14日	水															
5月15日	木															
5月16日	金															
5月17日	土	分子薬化学 特論⑤	庄司、他		臨床薬物送達学 特論⑤	矢野、他		臨床薬物評価学 特論⑤	山田、他							
5月19日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
5月20日	火															
5月21日	水															
5月22日	木															
5月23日	金															
5月24日	土	分子薬化学 特論⑥	庄司、他		臨床薬物送達学 特論⑥	矢野、他		臨床薬物評価学 特論⑥	山田、他							

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
5月26日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
5月27日	火															
5月28日	水															
5月29日	木															
5月30日	金															
5月31日	土	分子薬化学 特論⑦	庄司、他		臨床薬物送達学 特論⑦	矢野、他										
6月2日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
6月3日	火															
6月4日	水															
6月5日	木															
6月6日	金															
6月7日	土	分子薬化学 特論⑧	庄司、他		臨床薬物送達学 特論⑧	矢野、他		臨床薬物評価学 特論⑦	山田、他							
6月9日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
6月10日	火															
6月11日	水															
6月12日	木															
6月13日	金															
6月14日	土	分子薬化学 特論⑨	庄司、他		臨床薬物送達学 特論⑨	矢野、他		臨床薬物評価学 特論⑧	山田、他							
6月16日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
6月17日	火															
6月18日	水															
6月19日	木															
6月20日	金															
6月21日	土	分子薬化学 特論⑩	庄司、他		臨床薬物送達学 特論⑩	矢野、他		臨床薬物評価学 特論⑨	山田、他							
6月23日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
6月24日	火															
6月25日	水															
6月26日	木															
6月27日	金															
6月28日	土	分子薬化学 特論⑪	庄司、他		臨床薬物送達学 特論⑪	矢野、他		臨床薬物評価学 特論⑩	山田、他		臨床薬物評価学 特論⑪	山田、他				
6月30日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
7月1日	火															
7月2日	水															
7月3日	木															
7月4日	金															
7月5日	土	分子薬化学 特論⑫	庄司、他		臨床薬物送達学 特論⑫	矢野、他		臨床薬物評価学 特論⑫	山田、他		臨床薬物評価学 特論⑬	山田、他				
7月7日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
7月8日	火															
7月9日	水															
7月10日	木															
7月11日	金															
7月12日	土	分子薬化学 特論⑬	庄司、他		臨床薬物送達学 特論⑬	矢野、他					健康診断（休講）					
7月14日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
7月15日	火															
7月16日	水															
7月17日	木															
7月18日	金															
7月19日	土	分子薬化学 特論⑭	庄司、他		臨床薬物送達学 特論⑭	矢野、他										

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
7月21日	月															
7月22日	火															
7月23日	水															
7月24日	木															
7月25日	金															
7月26日	土	分子薬化学 特論⑤	庄司、他		臨床薬物送達学 特論⑤	矢野、他		臨床薬物評価学 特論④	山田、他		臨床薬物評価学 特論⑤	山田、他				
7月28日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官				
7月29日	火															
7月30日	水															
7月31日	木															
8月1日	金													補講		
8月2日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
8月4日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月5日	火															
8月6日	水															
8月7日	木															
8月8日	金													補講		
8月9日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
8月11日	月															
8月12日	火															
8月13日	水															
8月14日	木															
8月15日	金															
8月16日	土															
8月18日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月19日	火															
8月20日	水															
8月21日	木															
8月22日	金													補講		
8月23日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
8月25日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
8月26日	火															
8月27日	水															
8月28日	木															
8月29日	金													補講		
8月30日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月1日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月2日	火															
9月3日	水															
9月4日	木															
9月5日	金													補講		
9月6日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月8日	月	レ ポ ー ト 提 出 単 位 認 定			補講			補講			補講			補講		
9月9日	火															
9月10日	水															
9月11日	木															
9月12日	金													補講		
9月13日	土				補講			補講			補講			補講		

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
9月15日	月															
9月16日	火															
9月17日	水															
9月18日	木															
9月19日	金													補講		
9月20日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月22日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月23日	火															
9月24日	水															
9月25日	木															
9月26日	金													補講		
9月27日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
9月29日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
9月30日	火															

2025年度 後期 時間割【博士課程 2年次】

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
10月1日	水															
10月2日	木															
10月3日	金															
10月4日	土	医療データサイエンス特論①	飯田		分子衛生薬学特論①	速水、他										
10月6日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
10月7日	火															
10月8日	水															
10月9日	木															
10月10日	金															
10月11日	土	医療データサイエンス特論②	飯田		分子衛生薬学特論②	速水、他										
10月13日	月															
10月14日	火															
10月15日	水															
10月16日	木															
10月17日	金															
10月18日	土	医療データサイエンス特論③	飯田		分子衛生薬学特論③	速水、他										
10月20日	月	創立者記念日														
10月21日	火															
10月22日	水															
10月23日	木															
10月24日	金															
10月25日	土	医療データサイエンス特論④	飯田		分子衛生薬学特論④	速水、他										
10月27日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
10月28日	火															
10月29日	水															
10月30日	木															
10月31日	金															
11月1日	土	医療データサイエンス特論⑤	飯田		分子衛生薬学特論⑤	速水、他										
11月3日	月															
11月4日	火															
11月5日	水															
11月6日	木															
11月7日	金															
11月8日	土	医療データサイエンス特論⑥	飯田		分子衛生薬学特論⑥	速水、他										
11月10日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
11月11日	火															
11月12日	水															
11月13日	木															
11月14日	金															
11月15日	土	医療データサイエンス特論⑦	飯田		分子衛生薬学特論⑦	速水、他										
11月17日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
11月18日	火															
11月19日	水															
11月20日	木															
11月21日	金															
11月22日	土	医療データサイエンス特論⑧	飯田		分子衛生薬学特論⑧	速水、他										

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
11月24日	月															
11月25日	火															
11月26日	水															
11月27日	木															
11月28日	金															
11月29日	土	医療データサイエンス特論⑨	飯田		分子衛生薬学特論⑨	速水、他										
12月1日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
12月2日	火															
12月3日	水															
12月4日	木															
12月5日	金															
12月6日	土	医療データサイエンス特論⑩	飯田		分子衛生薬学特論⑩	速水、他										
12月8日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
12月9日	火															
12月10日	水															
12月11日	木															
12月12日	金															
12月13日	土	医療データサイエンス特論⑪	飯田		分子衛生薬学特論⑪	速水、他										
12月15日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
12月16日	火															
12月17日	水															
12月18日	木															
12月19日	金															
12月20日	土	医療データサイエンス特論⑫	飯田		分子衛生薬学特論⑫	速水、他		補講			補講					
12月22日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
12月23日	火															
12月24日	水															
12月25日	木															
12月26日	金															
12月27日	土	医療データサイエンス特論⑬	飯田		分子衛生薬学特論⑬	速水、他		補講			補講					
12月29日	月															
12月30日	火															
12月31日	水															
1月5日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
1月6日	火															
1月7日	水															
1月8日	木															
1月9日	金															
1月10日	土	医療データサイエンス特論⑭	飯田		分子衛生薬学特論⑭	速水、他		補講			補講			補講		
1月12日	月															
1月13日	火															
1月14日	水															
1月15日	木															
1月16日	金															
1月17日	土	医療データサイエンス特論⑮	飯田		分子衛生薬学特論⑮	オムニバス(速水)		補講			補講			補講		

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
1月19日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
1月20日	火															
1月21日	水															
1月22日	木															
1月23日	金															
1月24日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
1月26日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
1月27日	火															
1月28日	水															
1月29日	木															
1月30日	金															
1月31日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
2月2日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
2月3日	火															
2月4日	水															
2月5日	木															
2月6日	金															
2月7日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
2月9日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
2月10日	火															
2月11日	水															
2月12日	木															
2月13日	金															
2月14日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
2月16日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
2月17日	火															
2月18日	水															
2月19日	木															
2月20日	金															
2月21日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
2月23日	月	課題研究	指導教官		課題研究	指導教官		課題研究	指導教官							
2月24日	火															
2月25日	水															
2月26日	木															
2月27日	金															
2月28日	土				補講			補講			補講			補講		
3月2日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月3日	火															
3月4日	水															
3月5日	木															
3月6日	金															
3月7日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
3月9日	月				補講			補講			補講			補講		
3月10日	火															
3月11日	水															
3月12日	木															
3月13日	金															
3月14日	土				補講			補講			補講			補講		

レポ
単位
認定
提出

博士・2年生
進歩
報告会

月日	曜日	Ⅰ 9:00～10:30			Ⅱ 10:45～12:15			Ⅳ 13:15～14:45			Ⅴ 15:00～16:30			Ⅵ 16:45～18:15		
		科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室	科目	担当	教室
3月16日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月17日	火															
3月18日	水															
3月19日	木															
3月20日	金															
3月21日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
3月23日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月24日	火															
3月25日	水															
3月26日	木															
3月27日	金															
3月28日	土	補講			補講			補講			補講			補講		
3月30日	月	補講			補講			補講			補講			補講		
3月31日	火															

シラバス(授業科目)

分子薬化学特論

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：選択科目 年次：2 開講期：前期 入学年度：2022 年 単位：2

庄司 満（専任教授）、佐藤 康夫（専任教授）、塚本 裕一（専任教授）、鰐淵 清史（専任准教授）、磯村 茂樹（兼任教授）、横江 弘雅（兼任准教授）、奥野 義規（兼任准教授）

■ 授業形式

A 講義型

■ 評価方法

レポートにより評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

近年、医薬品の探索段階において、標的蛋白質が既に絞り込まれているケースが多い。効率的な医薬品開発を進めるために、候補化合物とターゲットの高精度な構造情報分析と相互作用予測が必要となる。一方、医療現場では個別化医療の実現を目指し、病態よりも遺伝子や蛋白の変異に注目して第一選択薬を決めようとするパラダイムシフトが起こっている。これらを踏まえて本特論では、医薬品の化学構造を基に、医薬品合成に必要な有機化学反応を理解するとともに、生体内の作用や期待される薬効との関連性を学び、治療戦略上の位置づけなどを理解することを目指す。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	庄司 満	分子変換 1	有機合成反応における選択性について学ぶ。
2	庄司 満	分子変換 2	付加反応について学ぶ。
3	庄司 満	分子変換 3	置換反応について学ぶ。
4	塚本 裕一	分子変換 4	カップリング反応について学ぶ。
5	鰐淵 清史	分子変換 5	官能基変換について学ぶ。
6	横江 弘雅	分子変換 6	エナンチオ選択的反応について学ぶ。
7	佐藤 康夫	医薬品概論 1	医薬品開発の現状について学ぶ。
8	佐藤 康夫	医薬品概論 2	分子構造と動態・代謝・副作用について学ぶ。
9	佐藤 康夫	医薬品概論 3	エピジェネティクスと医薬品について学ぶ。
10	佐藤 康夫	医薬品概論 4	中枢神経系に作用する医薬品について学ぶ。
11	佐藤 康夫	医薬品概論 5	バイオ医薬品、中分子医薬品の開発について学ぶ。
12	磯村 茂樹	薬化学基礎 1	生体高分子を構成する小分子の化学について学ぶ。
13	磯村 茂樹	薬化学基礎 2	タンパク質と有機化合物の反応について学ぶ。
14	奥野 義規	薬化学基礎 3	医薬品のターゲット分子と相互作用について学ぶ。
15	奥野 義規	薬化学基礎 4	内因性リガンドと関連する医薬品について学ぶ。

医療データサイエンス特論

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：選択科目 開講期：後期 入学年度：2025 年・2024 年 単位：2
科目担当責任者：飯田 理文

飯田 理文（専任教授）

■ 授業形式

A 講義型

■ 評価方法

受講状況および受講時設定課題に対するレポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

コンピュータと情報科学によって、薬学基礎および臨床研究で扱うデータの性質、データの性質に基づいた適切な解析方法について理解し、関連する規制についても注意を払って、実行できる基本技術を身に着ける。また、最新の技術について理解を深める。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	飯田 理文	データを基にした科学	データサイエンスとは何かについて理解する
2	飯田 理文（外部講師）	医薬品開発とデータサイエンス（総論）	医薬品開発におけるデータサイエンスの役割について実際の事例を基に理解する
3	飯田 理文	データの分布と性質	データを扱う際のデータの特性について評価できる
4	飯田 理文	データの扱い方	データをコンピュータで扱う際に適切な形式、ハンドリング方法について学ぶ
5	飯田 理文	データハンドリングとデータ解析	適切にデータハンドリングや解析が行える環境を構築できる
6	飯田 理文	R 言語（S 言語）基本編	基本的な S 言語（R 言語）の書き方とその特徴を理解する
7	飯田 理文	R 言語：実習	座学で学んだ内容について簡単なコーディングができる
8	飯田 理文	R 言語 中級編	R に実装されている各種ライブラリについて、自発的に調べて応用できる
9	飯田 理文	R 言語 中級編：実習	与えられたデータから整然データを構築して、簡単な解析ができる
10	飯田 理文	R 言語による応用	実務で用いる R 言語についてどのように用いられているかを理解する
11	飯田 理文	その他のプログラミング言語 (1)	R 以外に産業（特に医薬品産業）に用いられている言語について理解し、問題解決に適切な言語を選択できる
12	飯田 理文	その他のプログラミング言語 (2)	R 以外に産業（特に医薬品産業）に用いられている言語について理解し、問題解決に適切な言語を選択できる
13	飯田 理文（外部講師）	医薬品開発とデータサイエンス（各論）	医薬品開発におけるデータサイエンスの役割について実際の事例を基に理解する
14	飯田 理文（外部講師）	医薬品開発とデータサイエンス（各論）	医薬品開発におけるデータサイエンスの役割について実際の事例を基に理解する
15	飯田 理文	まとめ	学んだことの復習と今後のデータサイエンスについて

臨床生化学特論

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分1：選択科目 年次：1・2 開講期：前期 入学年度：2024・2023
年 単位：2

田邊 由幸（専任教授）、小笹 徹（客員教授）、岡 美佳子（専任教授）、川嶋 剛（専任教授）、高橋 哲史（兼担准教授）、山崎 泰男（兼担教授）、鹿本 泰生（兼担准教授）、藤田 融（兼担講師）

■ 授業形式

A 講義型

■ 評価方法

受講状況および受講時設定課題に対するレポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

分子生物学の基礎的知識に基づき、タンパク質の構造と機能、遺伝子の発現調節機構、代謝などに関する複雑な生命現象を分子レベルで解説することで生命活動を分子的な側面からの理解を深める。医薬品の薬効発現の場としての生体について理解を深める。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	岡 美佳子	水晶体	水晶体中のタンパク質異常と白内障（1）
2	岡 美佳子	水晶体	水晶体中のタンパク質異常と白内障（2）
3	川嶋 剛	遺伝子発現とその調節機構	ゲノミクスやエピジェネティクスと医薬品（1）
4	川嶋 剛	遺伝子発現とその調節機構	ゲノミクスやエピジェネティクスと医薬品（2）
5	高橋 哲史	エクソソーム	エクソソームの構造および診断・治療への応用（1）
6	高橋 哲史	エクソソーム	エクソソームの構造および診断・治療への応用（2）
7	藤田 融	タンパク質フォールディングと分子シャペロン	神経変性疾患の分子基盤（1）
8	藤田 融	タンパク質フォールディングと分子シャペロン	神経変性疾患の分子基盤（2）
9	小笹 徹	G タンパクと GPCR	GPCR 細胞情報伝達系の構造、制御、病態生理および創薬への展開（1）
10	小笹 徹	G タンパクと GPCR	GPCR 細胞情報伝達系の構造、制御、病態生理および創薬への展開（2）
11	田邊 由幸	プロスタノイド	血管平滑筋収縮性に影響するプロスタノイドと医薬品（1）
12	田邊 由幸	プロスタノイド	血管平滑筋収縮性に影響するプロスタノイドと医薬品（2）
13	田邊 由幸	チロシンキナーゼ	血管平滑筋のメカノトランスダクションとチロシンリン酸化
14	山崎 泰男	血液凝固系	血液凝固系の生化学 1
15	山崎 泰男	血液凝固系	血液凝固系の生化学 2

臨床薬理学特論

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：選択科目 年次：1・2 開講期：後期 入学年度：2024・2023 年 単位：2

千葉 康司（専任教授）、田邊 由幸（専任教授）、岡田 賢二（専任教授）、吉門 崇（専任准教授）、友部 浩二（兼任教授）、藤森 順也（兼任准教授）、日塔 武彰（兼任教授）、出雲 信夫（兼任教授）、村田 実希郎（兼任教授）

■ 授業形式

A 講義型・ディスカッション型

■ 評価方法

レポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

循環器系、代謝系およびその関連・隣接分野において、薬物動態と薬理反応の連結、病態特異的な薬物治療標的分子および関連バイオマーカーの変動、さらに治療の実際について概説する。また、既存薬物の作用機序について更に論理的な理解を深めるとともに、疾患組織・細胞の機能異常や組織リモデリング、薬物反応性変化の分子細胞機構に着目した新規薬物の開発や既存薬の適用拡大に向けたトランスレーショナル研究について学ぶ。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	田邊 由幸	臨床薬理学の基礎 1	血管病態とシグナル伝達異常および遺伝子発現について習得する。
2	田邊 由幸	臨床薬理学の基礎 2	臨床薬理学の基礎 2：虚血性血管障害と脳血管攣縮治療薬について習得する。 （茅野大介博士（日薬大）を招聘）
3	田邊 由幸	臨床薬理学の基礎 3	臨床薬理学の基礎 3：肺高血圧治療薬について習得する。（斎藤麻希博士（医療創生大・薬）を招聘）
4	田邊 由幸	臨床薬理学の基礎 4	臨床薬理学の基礎 4：新たな治療戦略に基づく薬物について習得する。（前田智司博士（日薬大）を招聘）
5	田邊 由幸	臨床薬理学の基礎 5	代謝症候群について総合的に理解する。
6	千葉 康司	薬物動態と薬理学の連結 1	抗糖尿病薬と代謝症候群薬の標的臓器への薬物の輸送と薬効について習得する。
7	吉門 崇	薬物動態と薬理学の連結 2	高脂血症薬と抗 HCV 薬の標的臓器への薬物の輸送と薬効について習得する。
8	岡田 賢二	薬物動態と薬理学の連結 3	抗菌薬および抗真菌薬と PK/PD 解析について習得する。
9	吉門 崇	薬物動態と薬理学の連結 4	モデリング・シミュレーションと臨床薬理学について総合的に理解する。
10	千葉 康司	薬物動態と薬理学の連結 5	コンパニオン診断薬と薬物治療について習得する。
11	出雲 信夫	実践臨床薬理学 1	骨粗しょう症の予防と治療の最先端について習得する。
12	日塔 武彰	実践臨床薬理学 2	発症機序に注目して開発された分子標的薬を用いた血液腫瘍の治療について習得する。
13	藤森 順也	実践臨床薬理学 3	最新医療における一酸化窒素の役割について習得する。
14	村田 実希郎	実践臨床薬理学 4	非経口投与製剤の臨床薬理学について習得する。
15	友部 浩二	実践臨床薬理学 5	加齢における薬理反応の変化と治療について習得する。

臨床薬物送達学特論

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：選択科目 年次：2 開講期：前期 入学年度：2022 年 単位：2

矢野 健太郎（専任准教授）、千葉 康司（専任教授）、岩瀬 由未子（専任准教授）、友田 有加菜（兼任助教）

■ 授業形式

A 講義型

■ 評価方法

授業内での発表会での発表内容および口頭試問に対する回答、レポート内容を評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

医薬品は、標的蛋白に結合することが出来ても、その標的蛋白近傍まで到達しなくては薬効を示さない。本特論では、コンパートメントモデル解析、生理学的モデル、モーメント解析等を総合的に駆使し、さらにクリアランスコンセプトや薬物代謝学の知識も併せ、臨床における薬物送達の仕組みと治療への適用、さらに薬物相互作用の回避と応用について学ぶ。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	矢野 健太郎	モデル非依存性解析法（1）	標的部位への薬物送達を指向した体内動態の制御薬物を定量的に記述するためのファーマコネティクス理論（多コンパートメントモデル解析、ラプラス変換を用いた式の誘導、デコンボリューション法による解析、モーメント解析等）について解説する。
2	矢野 健太郎	モデル非依存性解析法（2）	標的部位への薬物送達を指向した体内動態の制御薬物を定量的に記述するためのファーマコネティクス理論（多コンパートメントモデル解析、ラプラス変換を用いた式の誘導、デコンボリューション法による解析、モーメント解析等）について解説する。
3	矢野 健太郎	標的指向化	標的部位への薬物送達を指向した体内動態の制御（薬物体内動態の基本事項とドラッグデリバリーシステムの目的、DDS の目的と技術、高分子医薬品と高分子特性を利用した DDS、微粒子キャリア製剤を利用した薬物ターゲティング、超音波による等の外部エネルギーを用いた次世代型 DDS 技術、がん治療法等）について解説する。
4	矢野 健太郎	腫瘍治療法	腫瘍細胞内の代謝を基礎とした腫瘍治療法について
5	岩瀬 由未子	腫瘍治療標的候補（1）	腫瘍細胞内の脂質代謝から見る新たな治療標的候補について
6	岩瀬 由未子	腫瘍治療標的候補（2）	腫瘍細胞内の脂質代謝から見る新たな治療標的候補について
7	岩瀬 由未子	標的指向化の概念	標的指向化の概念と標的指向化製剤について説明する。
8	岩瀬 由未子	標的指向化製剤の速度論	標的指向化製剤設計における薬物速度論の重要性について説明する。
9	岩瀬 由未子	標的指向化製剤	薬物キャリアーを用いた標的指向化について説明する。
10	千葉 康司	生理学的モデル	クリアランスコンセプトと生理学的モデルを理解し、医薬品開発での応用例を習得する。
11	千葉 康司	薬物相互作用（1）	クリアランスコンセプトによる薬物相互作用について理解し、医療現場での応用例を習得する。
12	友田 有加菜	薬物相互作用（2）	生理学的モデルによる薬物相互作用の予測について理解し、医薬品開発での応用例を習得する。
13	友田 有加菜	薬物相互作用（3）	肝臓の細胞レベルと腎臓の細胞レベルを生理学的モデルに組み込み、市販後の相互作用による市場撤退の実例に照らす。
14	飯田 理文	モーメント解析	モーメント解析法について習得し、開発現場への応用例を考察する。
15	千葉 康司	生物学的同等性	生物学的同等性試験法について習得し、添付文書からの実例について考察する。

臨床薬物評価学特論

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：選択科目 年次：2 開講期：前期 入学年度：2022 年 単位：2

小出 彰宏（専任教授），千葉 康司（専任教授），速水 耕介（専任教授），山田 博章（専任教授）

■ 授業形式

A 講義型・ディスカッション型

■ 評価方法

講義の受講態度およびレポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

薬局は、医師の処方を終え、患者が医薬品を武器に疾患に対峙する最終段階の場である。ここでは、限られた集団で実施された臨床試験データから得られた有効性と安全性が、より広い患者集団に適用される。また、新有効成分では、再審査といういわゆる仮免許段階にある。現場では、承認時の有効性と安全性が、臨床現場で再現できるか確認をしなければならない。本特論では、医薬品開発段階に予定された集団に加え、適用経験の少ない集団において、有効性・安全性を検出するための技術、規制、しくみについて、実例と照らしながら学ぶ。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	千葉 康司	医薬品開発 1	科学的予測に基づく医薬品開発計画の立案について学ぶ。
2	千葉 康司	医薬品開発 2	科学的予測における試験結果と予測との乖離およびその対応について学ぶ。
3	千葉 康司	医薬品開発 3	マイクロドーズ試験の活用について学ぶ。
4	飯田 理文	分子標的薬の特徴と開発 1	実例をもとに分子標的薬の臨床開発とその問題点について学ぶ。
5	飯田 理文	分子標的薬の特徴と開発 2	実例をもとに分子標的薬の臨床開発とその問題点について学ぶ。
6	飯田 理文	分子標的薬の特徴と開発 3	分子標的薬の今後の展望について学ぶ。
7	速水 耕介	医療統計 1	臨床試験における統計学的方法論について学ぶ。
8	速水 耕介	医療統計 2	臨床試験デザインの種類について学ぶ。
9	速水 耕介	医療統計 3	臨床試験の目的とその解析方法について学ぶ。
10	山田 博章	医薬品承認審査 1	医薬品の承認審査に必要とされる資料について学ぶ。
11	山田 博章	医薬品承認審査 2	医薬品医療機器総合機構における医薬品の承認審査について学ぶ。
12	山田 博章	医薬品承認審査 3	実例を通して、医薬品の承認審査について理解を深める。
13	小出 彰宏	医療機器承認審査	医薬品の製造販売後の制度と基準について学ぶ。
14	小出 彰宏	製造販売後制度 1	製造販売後安全対策と医薬品リスク管理計画について学ぶ。
15	小出 彰宏	製造販売後制度 2	製造販売後の医薬品情報提供システムと事例について学ぶ。

分子衛生薬学特論

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：選択科目 年次：2 開講期：後期 入学年度：2022 年 単位：2

埴岡 伸光（専任教授）、香川 聡子（専任教授）、越智 定幸（専任教授）、速水 耕介（専任教授）、大河原 晋（専任教授）、礪部 隆史（専任准教授）、高橋 栄造（専任准教授）、曾根 秀子（兼任教授）、河村 伊久雄（兼任教授）、三浦 伸彦（兼任教授）

■ 授業形式

A 講義型・ディスカッション型

■ 評価方法

レポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

衛生薬学的見地から（１）生体異物の毒性発現発現機序、（２）生体異物の解毒に関与する生体内因子とその機構、（３）心血管系疾患および中枢神経系疾患の発症機序と環境因子との関連性、（４）労働環境における化学物質暴露による健康影響ならびに（５）化学物質のリスク評価手法について講述するとともに討論して知見を深める。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	埴岡 伸光	生体異物の生体内運命	医薬品及び環境汚染物質などの化学物質の生体内運命を理解する。
2	埴岡 伸光	生体異物の代謝と毒性	化学物質の代謝と毒性発現の関連性を分子レベルで理解する。
3	香川 聡子	化学物質のリスク評価	化学物質の毒性発現および解毒に関与する生体内因子とその機構を分子レベルで理解する。
4	河村 伊久雄	病原細菌による生体防御回避・攪乱機構	病原細菌の病原性機序のひとつである生体防御反応を回避・攪乱する機序について、その詳細を理解する。
5	曾根 秀子	発がん物質の毒性発現機構	環境や食品に由来する発がん物質の毒性発現機構を組織、細胞及び分子レベルで理解する。
6	曾根 秀子	生殖・発生毒性物質の発現機構	生殖・発生毒性物質の発現機構と曝露との因果関係を理解し予防対策を考案する。
7	越智 定幸	微生物と生体の相互作用	微生物ゲノムの分子生物学的及び分子疫学的解析法を理解する。
8	越智 定幸 高橋 栄造	微生物と生体環境	生体異物の排除における免疫学的分子機序を理解する。
9	大河原 晋	心血管疾患と環境因子	心血管系疾患の発症機序と環境因子との関連性を理解する。
10	大河原 晋	中枢神経系疾患と環境因子	中枢神経系疾患の発症機序と環境因子との関連性を理解する。
11	速水 耕介	毒性評価の統計学	化学物質の毒性評価における統計学的手法を理解する。
12	速水 耕介	安全性確保の制度における国際比較	食品成分を含む化学物質の安全性確保とその方策について国際比較より理解する。
13	礪部 隆史	職業性疾患と化学物質	労働環境での曝露が知られる化学物質と職業性疾患の関連性を理解する。
14	礪部 隆史 三浦 伸彦	職業性疾患の発症機構と対策	化学物質による職業性疾患の発症機構を理解し、その予防方法など対策についても理解する。
15	埴岡 伸光 香川 聡子 河村 伊久雄 曾根 秀子 越智 定幸 高橋 栄造 大河原 晋 速水 耕介 礪部 隆史 三浦 伸彦	総合討論	分子衛生薬学研究の社会的意義を理解する。

漢方医療薬学特論

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：選択科目 年次：1・2 開講期：前期 入学年度：2025 年・2024 年 単位：2

喻 静（専任教授）、金 成俊（専任教授）、梅原 薫（専任教授）、榊原 巖（兼任）、飯塚 徹（兼任）、五十鈴川 和人（兼任）、稲垣 善則（兼任）

■ 授業形式

A 講義型・ディスカッション型

■ 評価方法

レポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

漢方の専門教育・研究を充実する一方で、薬学全体を俯瞰できる総合的な講義内容とした。漢方専門分野の中から複数の異なる視点から方法論を見出し、統合的視野、柔軟な探求精神及び総合的判断力を備え、これからの学問的及び社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。本講義は、漢方の基礎理論や代表的な漢方処方を中心に講義する。漢方製剤に関する現代科学的なエビデンスも徐々に蓄積され、新たな有効性も見出されている。本特論では、それら最新の情報を紹介するとともに漢方研究の手法も併せて講義する。講義の構成は、座学のみではなく、e-ラーニングを使用した反転授業を取り入れ、双方向の参加型講義形式を採用する。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	金 成俊	漢方の歴史 1	中国医学・韓国医学の歴史について学ぶ。
2	金 成俊	漢方の歴史 2	日本漢方の歴史について学ぶ。
3	梅原 薫	漢方の歴史 3	アジア周辺国の伝承医学について学ぶ。
4	李 宜融	生薬品質の評価	漢方における生薬とは何か。その品質評価の意義を学ぶ。
5	飯塚 徹	漢方理論 1	気血水、五臓の基本的な考え方を学ぶ。
6	五十鈴川 和人	漢方理論 2	八綱・六経の基本的な考え方を学ぶ。
7	稲垣 善則	漢方理論 3	現代科学的なエビデンスから漢方理論を考察する。
8	喻 静	漢方診断の基礎 1	望聞問切の診断法の基本を学ぶ。
9	喻 静	漢方診断の基礎 2	弁証法の基本的な考え方を学ぶ。
10	喻 静	漢方診断の基礎 3	随証治療の基本的な考え方を学ぶ。
11	榊原 巖	漢方方剤論 1	基本方剤の分類と効能について学ぶ。
12	榊原 巖	漢方方剤論 2	理気剤と活血剤の種類と効能を理解する。
13	榊原 巖	漢方方剤論 3	利水剤の種類と効能を理解する。
14	榊原 巖	漢方方剤論 4	補剤と瀉剤の種類と効能を理解する。
15	喻 静（外部講師）	漢方の臨床応用 総合討論	臨床における漢方応用状況、講義の総括または総合討論を行う。

統合医療薬学特論

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：選択科目 年次：1・2 開講期：後期 入学年度：2025 年・2024 年 単位：2

喻 静（専任教授）、梅原 薫（専任教授）、伊藤 亜希（兼担准教授）、榊原 巖（兼担）、五十鈴川 和人（兼担）、清原 寛章（兼担）

■ 授業形式

A 講義型・ディスカッション型

■ 評価方法

レポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

漢方・統合医療薬学特論は漢方の専門教育・研究を充実する一方で、薬学全体を俯瞰できる総合的な講義内容とした。漢方専門分野の中から複数の異なる視点から方法論を見出し、統合的視野、柔軟な探究精神及び総合的判断力を備え、これからの学問的及び社会的要請に応えることのできる人材育成を目標とする。本講義は、21世紀の高齢社会において、漢方治療は現代医療と相互補完の形で応用され、漢方製剤の需要はますます高まっていく。本特論では、漢方薬学の応用面を重視し、オムニバス形式で、広範囲にまたがる専門知識と、現代医療における漢方の役割についても講義する。講義の構成は、座学のみではなく、e-ラーニングを使用した反転授業を取り入れ、双方向の参加型講義形式を採用。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	榊原 巖	漢方方剂論 1	理気剤及び活血剤の種類と適応病症について学ぶ。
2	榊原 巖	漢方方剂論 2	利水剤の種類と適応病症について学ぶ。
3	榊原 巖	漢方方剂論 3	補剤と瀉剤の種類と適応病症について学ぶ。
4	喻 静	漢方診断法 1	四診による診断法の基礎を学ぶ。
5	喻 静	漢方診断法 2	弁証論治の実践を学ぶ。
6	喻 静	漢方診断法 3	随証治療の実践を学ぶ。
7	伊藤 亜希	現代医療における漢方 1	急性熱性疾患に用いる漢方処方について学ぶ。
8	伊藤 亜希	現代医療における漢方 2	消化器領域に用いる漢方処方について学ぶ。
9	五十鈴川 和人	現代医療における漢方 3	がん領域に用いる漢方処方について学ぶ。
10	清原 寛章	現代医療における漢方 4	漢方医学理論の現代医学的解釈について学ぶ
11	清原 寛章	現代医療における漢方 5	漢方薬の標的組織の小腸パイエル板への作用から漢方薬の作用の特徴について学ぶ
12	榊原 巖	漢方の経済的側面	漢方の経済面での優位性事例について学ぶ。
13	梅原 薫	漢方研究の方法論 1	漢方研究の化学的な面からのアプローチについて学ぶ。
14	清原 寛章	漢方研究の方法論 2	漢方研究の薬理学的な面からのアプローチについて学ぶ。
15	喻 静（外部講師）	総合討論	講義の総括と総合討論として発表を行う。

ファーマコメトリクス演習

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：選択科目 年次：1 開講期：前期 入学年度：2022 年 単位：1
千葉 康司（専任教授）、岡田 賢二（専任教授）、飯田 理文（専任教授）、友田 有加菜（助教）

■ 授業形式

A 講義型・ディスカッション型

■ 評価方法

レポート提出により評価する

■ 授業概要（教育目標・GIO）

創薬段階において、開発医薬品の有効性・安全性を予測するために、数理モデルが構築されることが一般的となった。規制当局は、承認審査の過程で、臨床試験の実施が困難な特殊集団であったとしても、必要とあれば数理モデルを用い、シミュレーションを要求した上で、その予測結果の提出を求めている。その一部は添付文書にも記載されることになる。従って現場では、この予測手法を熟知し、場合によっては自らそのモデルを再構築し、目の前の患者の有効性・安全性を確率とともに示すことが望まれる。本演習では、製薬企業が臨床段階で用いているソフトウェアを使用し、様々な患者集団における有効性・安全性予測をコンピューターを実際に使いながら演習形式で学ぶ。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	飯田 理文	ファーマコメトリクスの基礎 1	コンパートメントモデルを理解し典型的なソフトウェアコードを記述する。
2	友田 有加菜	ファーマコメトリクスの基礎 2	インピトロからインビボの薬物動態の予測法を修得する。
3	千葉 康司	ファーマコメトリクスの基礎 3	生理学的モデルについて理解し、クリアランスコンセプトを用いて医薬品承認申請概要を読む。
4	千葉 康司	ファーマコメトリクスの基礎 4	典型的なソフトウェアのコードを読む。ファーマコゲノミクスの概念をクリアランスコンセプトに導入する。
5	友田 有加菜	ファーマコメトリクスの応用 1	薬物相互作用の予測を生理学的モデルを用いて行う。
6	岡田 賢二	ファーマコメトリクスの応用 2	母集団薬物動態の実際
7	外部講師 千葉 康司	ファーマコメトリクスの応用 3	母集団薬物動態の概念と医薬品開発への応用について理解する。（大石 昌代 博士 [アステラス製薬株式会社 非臨床バイオメディカルサイエンス長] を招聘）
8	外部講師 千葉 康司	ファーマコメトリクスの応用 4	薬物動態・薬力学・システム薬理学におけるモデル解析の概念を理解する。（大石 昌代 博士 [アステラス製薬株式会社 非臨床バイオメディカルサイエンス長] を招聘）

精密分析機器特別演習

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：選択科目 年次：1 開講期：前期 入学年度：2022 年 単位：1

岩瀬 由未子（専任准教授），岡 美佳子（専任教授），川嶋 剛（専任教授），磯部 隆史（専任准教授），吉門 崇（専任准教授），鰐淵 清史（専任准教授），川嶋 芳枝（兼担教授），殿岡 恵子（兼担准教授），奥野 義規（兼担准教授）

■ 授業形式

D 演習型

■ 評価方法

レポート

■ 授業概要（教育目標・GIO）

最新の研究機器を用いて、生物系及び分析系の研究の基礎となる主義を学び、機器の使い方を習得することで、創薬の基礎となる基本的な実験手法、手順を学ぶ。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	川嶋 剛	研究を始めるにあたって	研究倫理、実験ノートの取り方など研究を始める前に知っておくべきことを学ぶ。
2	川嶋 剛 岡 美佳子 岩瀬 由未子	遺伝子技術	遺伝子技術の基礎を習得する。 核酸の抽出 PCR 制限酵素処理 遺伝子導入
3	川嶋 剛 岡 美佳子 岩瀬 由未子	遺伝子技術	遺伝子技術の基礎を習得する。 核酸の抽出 PCR 制限酵素処理 遺伝子導入
4	岡 美佳子 川嶋 芳枝 磯部 隆史	光学顕微鏡、電子顕微鏡、クライオスタット各機器の特徴と使い方	組織標本の基礎を習得する 光学顕微鏡の種類と特性 電子顕微鏡の種類と特性 クライオスタットを用いた組織切片の作成
5	岡 美佳子 川嶋 芳枝 磯部 隆史	光学顕微鏡、電子顕微鏡、クライオスタット各機器の特徴と使い方	組織標本の基礎を習得する 光学顕微鏡の種類と特性 電子顕微鏡の種類と特性 クライオスタットを用いた組織切片の作成
6	奥野 義規	1D および 2D NMR の測定と解析	NMR の測定方法と解析の基礎を習得する
7	香川 聡子	分子モデリング	分子モデリングの基礎を習得する
8	香川 聡子	分子軌道計算	分子軌道計算の基礎を習得する
9	鰐淵 清史	GC-MS の測定と解析	GC-MS の測定方法と解析の基礎を習得する
10	殿岡 恵子	LC-MS の測定と解析	LC-MS の測定方法と解析の基礎を習得する

臨床薬学大学院特別講義

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：必修科目 年次：1 開講期：通年 入学年度：2025 年 単位：1

庄司 満（専任教授）、埴岡 伸光（専任教授）、岡 美佳子（専任教授）、千葉 康司（専任教授）、梅原 薫（専任教授）

■ 授業形式

A 講義型・ディスカッション型

■ 評価方法

受講状況および受講時設定課題に対するレポート提出により評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

外部からの招聘講師による「特別セミナー」において、各研究領域の第一線の研究に関する講演を他の専攻とともに聴講し、積極的な質疑を行う。その後「①仮説および結論は何か。②データは十分か、追加試験は何について行うべきか、論文で強調されている点は何か。臨床薬学の立場からみて、③橋渡し研究の内容と成果は何か、④臨床研究としての着眼点と評価方法は適切か、⑤臨床現場にどのような実践的視点がもたらされるか」について薬学専攻でグループ討論を行う。これらを通じて、創薬・医薬品開発への貢献と高度な知識・技能に裏付けされた専門性の高い臨床薬学の科学者として、基礎科学技術の集約である医薬品そのものから生体の統合システムまでを俯瞰する力をつけ、医薬品の適正使用と育薬のためのファーマシューティカルケアの能力を強化し、以てチーム医療と医療コミュニケーションに資する幅広い分野の実践力の充実につなげる。

■ 授業計画表

回数	担当教員	項目	内容
1	創薬化学領域・庄司 満ほか	創薬化学セミナー	創薬化学領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答。
2	創薬化学領域・庄司 満ほか	創薬化学セミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成
3	ライフサイエンス領域・岡 美佳子ほか	ライフサイエンスセミナー	ライフサイエンス領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答。
4	ライフサイエンス領域・岡 美佳子ほか	ライフサイエンスセミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成
5	ヘルスサイエンス領域・埴岡 伸光ほか	ヘルスサイエンスセミナー	ヘルスサイエンス領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答。
6	ヘルスサイエンス領域・埴岡 伸光ほか	ヘルスサイエンスセミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成
7	臨床薬学領域・千葉 康司ほか	臨床薬学セミナー	臨床薬学領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答。
8	臨床薬学領域・千葉 康司ほか	臨床薬学セミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成
9	漢方薬学領域・梅原 薫ほか	漢方薬学セミナー	漢方薬学領域の著名研究者の講演の聴講と質疑応答。
10	漢方薬学領域・梅原 薫ほか	漢方薬学セミナー	上記講演内容についてのグループディスカッションとレポートの作成

課題研究（創薬化学領域）

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：必修科目 年次：1・2・3・4 開講期：通年 単位：20

庄司 満（専任教授）、塚本 裕一（専任教授）、波多江 典之（専任教授）、鰐淵 清史（専任准教授）、横江 弘雅（専任准教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

研究態度、課題研究成果発表会での発表内容及び口頭試問に対する回答、中間報告並びに学位論文の内容を評価する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
庄司 満	創薬における前臨床研究、特に医薬シーズの探索研究に必要な、生理活性化合物の効率的創製について研究する。有機金属化学及び光触媒化学をはじめとする有機合成化学反応を理解するとともに、これらを駆使した標的化合物のデザインと合成研究を行う。国内外の英文学術雑誌への論文投稿と学会発表を目標とする。
塚本 裕一	医療において求められている創薬シーズを有機合成化学により供給し、構造－活性相関研究を行うことで、その活性部位を明らかとする。特に、生物活性分子中に含まれる環状構造に着目し、遷移金属触媒および有機触媒を活用した新たな立体選択的分子構築法を開発する。英文学術雑誌への論文投稿と学会発表を目標とする。
波多江 典之	分子構造に基づく反応設計により、化学反応の制御機構について研究する。化学物質は、骨格に結合した置換基と、分子周辺の立体電子との組み合わせにより形成される。化合物の分子構造を計算機科学を用いて解析し、置換基および立体電子による反応制御機構を解明する。また得られた成果は、国内外の英文学術雑誌（査読付き）への投稿と、専門学会への発表により、高度な科学的専門性をもって問題を提示・解決する能力を醸成する。
鰐淵 清史	生物活性物質は、受容体との特異的相互作用により活性を示す。この特異的相互作用の解明には、活性物質と受容体の双方からのアプローチが必要である。有機合成化学及び生物分子化学的手法を用い、生物活性物質の特異的相互作用の解析と、望む活性のみを有する化合物の創製について研究する。
横江 弘雅	天然から極微量しか得られず、詳細な生物活性が未だ不明な有機化合物を用いて、新規医薬品シーズの開発研究を行う。このような化合物のうち特に、複雑な縮環構造や多数の不斉中心など特異な化学構造をもつものに着目し、その効率的な合成法を開発する。これにより、詳細な薬理活性試験を可能とする十分な量的供給を行う。さらに、標的化合物の未知なる生物活性を解明するとともに、その非天然型類縁体を創製することで、より有望な医薬品シーズを開発する。査読付き学術論文投稿および学会での研究発表を目標とする。

課題研究（ライフサイエンス領域）

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：必修科目 年次：1・2・3・4 開講期：通年 単位：20

岡 美佳子（専任教授）、田邊 由幸（専任教授）、川嶋 剛（専任教授）、松岡 秀忠（専任准教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

研究態度、課題研究成果発表会での発表内容および口頭試問に対する回答、中間報告および学位論文の内容を評価する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
岡 美佳子	組織や細胞の機能が正常であるためには、遺伝子の発現、分子間の相互作用、細胞-細胞間相互作用など全ての段階で細かく制御されている。そしてどの段階が崩れても疾病が発症する。神経や水晶体などを用い、正常な機能維持機構、うつ、アルツハイマー、白内障など疾病の発症機序、予防薬の探索などをモデル細胞、モデル動物を用い分子生物学的手法、組織学的手法で探索、解析、研究を行う。
田邊 由幸	循環器系疾患および代謝内分泌系疾患研究のための基本的方法論として、各種分析手法、初代培養・株化細胞への遺伝子導入と遺伝子発現解析等の基礎技術に習熟した上で、病態血管や肥大化脂肪組織における血管平滑筋細胞・内皮細胞・脂肪細胞・マクロファージの細胞分化と相互作用、メカニカルストレスの役割ならびに薬物制御に関する実験を指導する。
川嶋 剛	生物が正常な構造と機能を維持するためには、ゲノムにコードされた遺伝子群の中から適切な遺伝子を選択する転写調節が重要な制御段階である。転写制御機構と疾患の発症の関連を理解するために、真核生物型転写制御機構を有する古細菌を用いて真核生物型転写制御様式の祖先系を、分子生物学的手法、生物情報科学的手法により解析する。
出雲 信夫	主に女性ホルモン（エストロゲン）に起因する精神疾患及び骨代謝疾患の発症機序、治療法について、実験動物モデルを用いて行動薬理学的手法、分子生物学的手法により探索する。さらに、神経様細胞や骨芽細胞様細胞などの培養細胞を用い、作用機序の解明を目指す。また、これらのモデルを用い、機能的物質や食品素材の新たな効果を解析し、臨床における予防医学につながる研究を行う。

課題研究（ヘルスサイエンス領域）

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：必修科目 年次：1・2・3・4 開講期：通年 単位：20

速水 耕介（専任教授）、香川 聡子（専任教授）、越智 定幸（専任教授）、大河原 晋（専任教授）、埴岡 伸光（専任教授）、磯部 隆史（専任准教授）、高橋 栄造（専任准教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

研究態度、課題研究成果発表会での発表内容および口頭試問に対する回答、中間報告および学位論文の内容を評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

研究指導教員のサポートの下で、学際的な学識を基盤とした独創的で先駆的な衛生薬学に関わる研究を展開する。様々な新しい課題を自ら発見・解決する能力、教員との深い議論を通じて研究を遂行する能力、衛生薬学における深い見識に基づいて論理的に思考する能力を習得する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
速水 耕介	臨床試験（ヒト試験）による成績は、医学・薬学分野のみならず、栄養学分野においても重要なエビデンスであり、疫学を中心である。疫学研究における統計解析は重要な技術の一つであるが、栄養学特有の課題が散見される。本課題研究では、ヒトにおける栄養摂取量の推定問題および代謝上限量の推定、有効性を検出するためのモデル、安全性評価などについて、データ解析技術を利用し、「計算栄養学」として研究活動を行う。
香川 聡子	化学物質の有害性評価において構造活性相関とカテゴリーアプローチは、実験動物を用いずに、多種の物質を安価で短期間のうちに評価できるという利点を持つ代替試験法の一つと見なされている。シックハウス症候群の主訴の1つである気道刺激性に焦点を定め、イオンチャネル活性化など気道刺激性を評価するハイスループット <i>in vitro</i> 評価系を構築して室内化学物質を対象として評価する。その評価結果と化学物質の構造状の特徴等から気道刺激性予測手法の構築を目指す。
越智 定幸	病原細菌の病原性獲得機序、及び、病原因子の作用機序について、主に分子疫学的、生化学的、薬理的、そして、分子生物学的手法を用いて研究する。細菌の病原性獲得の機序は、様々な環境への生物適応の一モデルであり、細菌病原因子の作用は、微量生理活性毒性分子による生体応答の攪乱や破綻の一表現系である。研究方法の立案から解析までを行い、その結果から真実を見極め、新たな知見を抽出するとともに、細菌の環境適応性、そして、微量毒性分子に対する生体応答の本質に迫る。
大河原 晋	アレルギー疾患に代表される生活環境病や、糖尿病、循環器疾患を代表とする生活習慣病は、現代社会における重大な克服課題である。特別研究では、培養細胞や実験動物を用いて、これら疾病に関わる環境因子を同定するとともに、作用機構を分子レベルで解析し、「人々の健康を守り、増進させていくこと」を目標とした研究指導を行う。
埴岡 伸光	化学物質の包括的・定量的なリスク評価に関する研究を遂行する。そのために、以下の課題について研究を遂行する。 1) 肝臓および小腸における異物代謝酵素の発現解析；2) 異物代謝能を反映する人工カクテル異物代謝酵素の作製；3) 異物代謝酵素の多様性を反映した化学物質の迅速・高感度・高精度な代謝解析法の開発；4) 化学物質の包括的・定量的リスク評価系の構築・検証。
磯部 隆史	環境中に放出された汚染物質の分析方法は多くの研究者が積極的に検討を行っているが、汚染物質の除去に関する研究は少ない。河川への流入が問題となっている環境汚染物質の新たな除去方法の確立を目指し、天然由来成分を用いた吸着ゲルの開発を行う。
高橋 栄造 （研究指導補助 教員）	細菌の病原因子はヒト体内で産生され、作用する事でヒトに有害事象を生じ、病原性を発揮する。一方で、自然環境では、栄養獲得のためのツールや共生生物への防御機構として、環境に適応するための因子として機能すると考えられる。自然界に生息する病原性細菌と臨床分離株で遺伝子保有状況を比較解析したり、病原因子や環境適応因子の性状や発現調節機構を遺伝学的手法や分子生物学的手法を用いて解析し、自然界での病原性細菌の生存戦略について研究を行う。

課題研究（臨床薬学領域）

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：必修科目 年次：1・2・3・4 開講期：通年 単位：20

千葉 康司（専任教授）、山田 博章（専任教授）、岡田 賢二（専任教授）、小出 彰宏（専任教授）、飯田 理文（兼任教授）、岩瀬 由未子（専任准教授）、吉門 崇（専任准教授）、田口 真穂（専任准教授）、矢野 健太郎（専任准教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

研究態度、課題研究成果発表会での発表内容および口頭試問に対する回答、中間報告および学位論文の内容を評価する。

■ 授業計画表

担当教員	内容
千葉 康司	医薬品開発においては薬効・副作用の予測精度が、その成功確率に大きな影響を及ぼす。本課程では、薬効・副作用の予測に影響を及ぼす要因を抽出し、さらにその変動より、医薬品に依存せず生体側に依存する変動を特定させた後、薬効・副作用の予測モデルを構築することを研究課題として研究指導を行う。
山田 博章	レギュラトリーサイエンスは、科学技術を最適な形で人間及び社会に調和させる科学である。本修士課程の特別研究においては、医薬品等の開発プロセス、承認申請・審査過程、製造販売後の安全対策等を題材に、社会薬学的な観点も含め、それらのレギュラトリーサイエンス的手法の効果や問題点について、各種報告書等やデータベースを用いて数値化し明らかにする。さらに問題の発生を論理化または数式化した上で、時間軸を設定し、過去に施行された規制が現在有効に機能しているか、または未来その規制に基づきどう変化するかを予測し、直近の現状と比較研究を実施した上で論文化を図る。
岡田 賢二	ファーマコメトリクス的手法を用いて、医薬品の有効性および安全性を解析し既存の薬物療法を評価する。患者個別に適用可能な、有効性、安全性、経済性に優れた薬物療法を提案する。本研究では、主にハイリスク薬を対象に、母集団薬物動態（PK）および母集団薬物動態－薬力学（PK-PD）解析を行う。PK および PK-PD モデルを構築し、共変量探索により薬効および副作用の予測因子を特定する。構築モデルによるシミュレーションを実施し、薬物応答性の予測ツールの構築を目指す。
小出 彰宏	医薬品及び医療機器の開発、承認審査、製造販売後の安全対策では、レギュラトリーサイエンス（科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整する科学）的な考え方に基づいて様々な判断がなされている。医薬品や医療機器を取り巻く環境は年々変化しており、判断した当時と状況が大きく異なってくることもある。本研究では、種々のリアルワールドデータやインターネット上の公開情報などを利用して評価を行い、薬事関連課題を数値的に明確化し、さらに周辺の状況についても検討した上で考察を加え、論文化を図る。
飯田 理文	医薬品開発および適正使用に関して、データに基づいた評価・予測は医薬品開発の効率化やより安全な使用に貢献する。本過程では様々なデータのハンドリング方法を学ぶとともに、具体的にこれらが医薬品開発や適正使用に適応できるようにモデルベースでの評価・予測を行うことを研究課題として研究指導を行う。
岩瀬 由未子	経口投与は用量、剤型を比較的自由に選択できる安全性の高い投与経路であるが、薬物によっては難吸収性のため消化管から効率よく吸収できない。そこで、本科は博士課程では、人体に対する安全性が確立されている超音波を用いて、この超音波の音響化学的作用を利用した難吸収性薬物の消化管吸収増大を目的とした新規薬物送達システムの開発研究について研究指導する。大学院生は、本研究を遂行するとともに同領域の他の研究者の研究内容を習熟した上で論文化の技術を習得する。
吉門 崇	創薬において医薬品候補化合物の薬効を予測するには、標的臓器（組織）内の濃度を予測することが重要である。加えて、薬効・副作用の指標となる内因性化合物の体内動態を明らかにすることも必要とされている。本研究では、薬物・内因性化合物の体内動態および薬物相互作用等による変動を、生理学的薬物速度論モデルを用いて解析する。薬物代謝酵素・輸送体の関与や相互作用メカニズム等を明らかにするための <i>in vitro</i> 試験も併せて実施することで、モデル構築をサポートする。
田口 真穂	医薬品供給体制および医薬品の安全かつ適正な使用を目的とした薬学的管理に関わる機能等を題材とし、社会薬学的な観点を含めたレギュラトリーサイエンス的手法の効果や問題点を明らかにすることを目的に、各種のリアルワールドデータ（RWD）や公開情報を活用して数値化し、医薬品供給体制に関する規制や要件、薬学的管理の有効性を数値化・評価する。さらに、過去に施行された規制が現在有効に機能しているかを直近の現状と比較研究を実施して考察し、論文化を図る。
矢野 健太郎	既存のがん薬物療法を奏効させるためには、薬物耐性を克服することが重要である。薬物耐性亢進の主な原因として、薬物動態変動因子である排出系トランスポーターの機能亢進が挙げられる。本研究では、がん細胞が薬物耐性能を獲得するメカニズム、および結果としての排出系トランスポーターの機能亢進を誘導する因子を同定し、新規創薬標的を見出すことを目的とする。研究成果は英文論文としてまとめ、学術論文誌に採択されることを目標とする。

課題研究（漢方薬学領域）

対象学科・専攻：薬学専攻 博士課程 区分 1：必修科目 年次：1・2・3・4 開講期：通年 単位：20 科目
 担当責任者：喻 静（専任教授）

梅原 薫（専任教授），喻 静（専任教授），李 宜融（兼担教授）

■ 授業形式

E 課題研究型

■ 評価方法

研究態度、課題研究成果発表会での発表内容及び口頭試問に対する回答、中間報告並びに学位論文の内容を評価する。

■ 授業概要（教育目標・GIO）

漢方医療は現代医療の中で重要な位置を占めるようになっており、科学的なエビデンスも徐々に蓄積されてきた。しかし、詳細なメカニズムまで解明されているものは極僅かである。薬効本体を特定すること、作用機序を究明することは、漢方の臨床における有効性との相関を明確化できるため、非常に重要な課題である。また、構成生薬の品質を吟味することで、より均質な漢方処方の創製に寄与することができる。対象となる疾患は、現代社会が抱える高齢者医療や生活習慣病。現在、世界を騒がせているコロナを始めとする新興感染症が課題にあげられる。

■ 授業計画表

担当教員	内容
梅原 薫	生物試験法を指標とする有用天然化合物の探索。各地に伝わる薬用植物を用いた伝承用法を理解するために、in vitro 試験系を主とする有効性の科学的な解析と評価と、様々な分離手法を用いた有効成分の単離及び単離化合物の機器分析データ解析による構造決定を行う植物化学的な研究を行う。これらの技術修得を通して、解明が十分でない伝承用法に科学的な根拠を提供できる人材の育成を図る。
喻 静	老化に伴う疾患やがんは、超高齢化社会を迎えた日本において深刻な社会問題となっている。近年、漢方薬の薬理作用の解明が進み、高齢者疾患やがん治療への応用が期待されているが、その科学的根拠は十分に確立されていない。本課程では、① in vitro および in silico 解析を用いた漢方薬の抗老化・抗ガン作用の機序解明、②難病性疾患治療および抗ガン剤による副作用軽減への漢方応用検討、③医薬データ解析による漢方薬の有害事象やリスクファクターの評価を行い、漢方医学と現代科学の知識を兼ね備えた研究者の育成を目指す。
李 宜融	薬物の天然資源となる薬用植物、特に漢方薬の原料である生薬の基原と性状における真偽鑑別や優劣評価を研究する。そして、「温故知新」を基に、先人の知恵を解明するとともに、無限の天然資源から薬用素材を見出す研究や「薬食同源」の観点から日々の食に隠された薬の意義を探索する。これらの研究結果を国際学会で発表し、グローバル教育としてキャリアビジョンを培う。



横 浜 薬 科 大 学
薬 学 研 究 科

〒245-0066 横浜市戸塚区俣野町 601

TEL. 045-859-1300

FAX. 045-859-1301